

湖国の感動 未来へつなぐ

第79回国民スポーツ大会

# わたSHIGA輝く国スポ

## 2025



# セーリング競技会

開催日 2025年9月28日(日)～10月1日(水)  
会場 大津市柳が崎特設セーリング会場

主催 公益財団法人日本スポーツ協会  
文部科学省 滋賀県  
公益財団法人日本セーリング連盟  
大津市



## 国民スポーツ大会



国民スポーツ大会(国スポ)は、広く国民の間にスポーツを普及し国民の体力向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与することを目的として、毎年開催される国内最大の総合スポーツ大会です。

都道府県対抗で行われる正式競技・特別競技・公開競技のほか、年齢・性別・障害のあるなしを問わず、誰もが参加することができるデモンストラーションスポーツが実施されます。

## 第79回国民スポーツ大会

### 大会愛称

## わたSHIGA輝く国スポ

選手、ボランティアをはじめ、滋賀県で開催するこの大会に関わるすべての人が、様々な場面で主役として光り輝き、夢や感動、連帯感を共有できる大会を目指します。

### 大会スローガン

## 湖国の感動 未来へつなぐ

「琵琶湖」を擁する湖国滋賀で生まれた感動が、この大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれるようにとの願いが込められています。

### 大会マスコットキャラクター

琵琶湖に生息する固有種「ビワコオオナマズ」をモチーフにしたキャラクターです。



#### ■ キャッフィー

どんくさいわりにチャレンジ精神が旺盛で何事にも一生懸命。子ども好きで人を楽しませることが大好きです。



#### ■ チャッフィー

「キャッフィー」の幼なじみで、昔から仲の良い友達です。泳ぐことは得意ですが、陸のスポーツは少し苦手です。「キャッフィー」に教えてもらっています。

「キャッフィー」と「チャッフィー」を合わせて「キャッチ」。人の心をキャッチする、という意味が込められています。

# 目次

## あいさつ

公益財団法人日本スポーツ協会 会長 遠藤 利明	4
文部科学大臣 あべ 俊子	5
公益社団法人日本セーリング連盟 会長 馬場 益弘	6

## 歓迎のこトバ

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長 滋賀県知事 三日月 大造	7
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長 大津市長 佐藤 健司	8
特定非営利活動法人滋賀県セーリング連盟 会長 神野 佳樹	9
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	10
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	11
大会役員	12
競技会役員	16
競技役員	18
競技補助員・競技会係員・競技会補助員	22
総則	23
実施要項	42
帆走指示書	49
サポートチーム規程	62
大会装備規程	67
式典次第	73
セーリング競技の見方	75
都道府県参加人数一覧表	77
監督・選手一覧表	78
過去の成績（種目別成績）	89
過去の成績（総合成績）	93
競技会場案内図	96
トラッキングシステム案内	97
レース中継放送案内	98
チャイルドルーム案内	99
エコバッグ作成案内	100
ヘルスケアセミナー案内	101
関係機関連絡先一覧	102
広告	103

## 敷 地 内 全 面 禁 煙

ただし、望まない受動喫煙防止のため喫煙所を設置しています。

喫煙される方は、指定された喫煙所をご利用ください。

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会

## あいさつ



公益財団法人日本スポーツ協会

会長 遠藤 利明

約 400 万年の歴史を持つ日本最大で最古の湖である琵琶湖を中心に雄大な風景が広がり、古くから日本の文化や経済の先進地として栄えたここ滋賀県において、第 79 回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りです。

大会愛称である「わた SHIGA 輝く国スポ」のとおり、大会に関わる全ての方々が主役となり、光り輝くことができる大会となることを願っております。

スポーツは、目標に向かっての努力と達成感、そして観戦する人をワクワクさせ、楽しく、心を動かすものであるからこそ、人々を、社会を元気にする力を持ちます。

本年 6 月、14 年ぶりに改正されたスポーツ基本法では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」に加え、「集まる」「つながる」として明示されています。

厳しい予選を勝ち抜き、郷土の代表として集まったアスリートの皆様には、フェアプレーを通じて友情を深め、つながり、スポーツが楽しいものであることを体現いただき、開催地の皆様とも交流を深め、全国にスポーツの力と滋賀県の魅力を発信する伝道者になっていただければ幸いです。

さて、昭和 21(1946)年にスタートした「国民体育大会」は、昨年「国民スポーツ大会」へ名称を変えて新たなスタートを切るなど、大きな変革期にあります。

日本スポーツ協会では、本年 3 月、「今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議」から示された「提言」に基づき、国民の皆様がこれまで以上にワクワクし持続可能な魅力ある大会となるよう、様々な改革に取り組んでいくこととしています。

結びに、本大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元滋賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



## あいさつ

文 部 科 学 大 臣

あ べ 俊 子

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ滋賀県において第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

滋賀県は、日本最大の湖である「琵琶湖」、四季折々の表情を見せる「伊吹山」等、美しく彩りある豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「比叡山延暦寺」や国宝「彦根城」等、歴史と文化が息づく県です。

昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりの滋賀県での開催となり、「湖国の感動 未来へつなく」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、本大会は、様々な場面で環境に配慮した取組を行い、スポーツの力を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していく素晴らしい大会となっています。「わた SHIGA 輝く国スポ」が、国民に夢と感動、連帯感を共有できる大会、また、開催地である滋賀県の活性化に資する大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や滋賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、パリオリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「わた SHIGA 輝く国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元滋賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様への御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和7年7月31日



## ご挨拶

公益財団法人日本セーリング連盟

会長 馬場 益弘

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会」が、滋賀県立柳が崎ヨットハーバー 大津市柳が崎特設セーリング会場で開催されることを心からお慶び申し上げます。大会開催に御尽力いただきました滋賀県、大津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、公益財団法人滋賀県スポーツ協会、NPO 法人滋賀県セーリング連盟、わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会の関係各位に心からお礼申し上げます。

琵琶湖でのヨット競技の普及と競技力向上を目的とした柳ヶ崎ヨットハーバーは、琵琶湖におけるセーリングの拠点として、社会人や学生団体、一般のセーラーまで、幅広く利用されております。参加選手の皆さんが正々堂々戦い、レースオフィシャルズの方々は公平公正なレースを提供し、セーリング競技の成功を願いサポートしてくださる皆さまに感謝し、今大会が後世に語り継がれる良い大会になるように作り上げましょう。

昨年はセーリング混合 470 級、岡田奎樹・吉岡美帆組が、2024 パリ・オリンピック競技大会において銀メダルを獲得することができました。セーリング界にとっても悲願であり、これもご支援いただいたすべての皆様のお陰と心から感謝申し上げます。

最後に、本大会が、参加選手ならびに観客の皆様にとって、記憶に残る素晴らしい大会となり、安全かつ成功裏に進みますことを祈念してご挨拶いたします。



## 歓迎のことば

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会会長

滋賀県知事 三日月 大造

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から選手・役員の皆様をはじめ多くの方々をお迎えし、ここ滋賀県において「わた SHIGA 輝く国スポ」を開催できますことは、この上ない喜びであり、県民を代表して心から歓迎申し上げます。

また、本大会の開催にあたり多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様から感謝を申し上げます。

本大会は、「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれることを目指しています。

大会における共生社会の実現に向けた取組や環境配慮の実践、さらには心のこもったおもてなしなど、長年培ってきた滋賀ならではの視点により、みんなが輝く大会にしてまいりたいと考えております。

本県は、我が国最大の湖である琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史を有するとともに、先人が人と人、人と自然のつながりの中で育んできた文化が今も脈々と息づいています。是非、滋賀のリズムに触れていただき、心のリズムを整え、本県での滞在を楽しんでください。

選手の皆様方におかれましては、日頃の練習の成果を存分に発揮されますとともに、地域をこえた交流に触れ、本大会を思い出に残る素晴らしい大会にさせていただきたいと存じます。

結びに、本大会に関わる皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



## 歓迎のことば

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会会長

大津市長 佐藤 健司

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会 セーリング競技会」が、大津市にて盛大に開催できますことを大変嬉しく思います。全国各地より参加される選手・監督、大会関係者の皆様をはじめ、大津市にお越しいただく方々を、市民を代表して心から歓迎申し上げます。

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会」は、昭和56年の「びわこ国体」以来、44年ぶりに滋賀県での開催となります。大津市では、選手の皆様が最大のパフォーマンスを発揮できるように会場の準備を整えるとともに、応援のぼり旗などの会場装飾づくりや地元食材を盛り込んだ「OTSU国スポこだわり弁当」の献立づくり、市内にちりばめられた歓迎装飾など大津市民をあげたおもてなしでお迎えできるように取り組んでまいりました。

また、各会場では、ボランティアによる大津の銘菓などのふるまいのほか、特に子どもたちが様々なスポーツに興味を持ってもらえるように、選手の皆様の競技を観戦することに加え、競技体験などの企画も準備いたしました。スポーツの素晴らしさを体現・体感し、皆様の記憶に残るような大会となりますことを、心より願っております。

さて、琵琶湖の恵みと比良・比叡の山々の緑に囲まれた大津市は、紫式部ゆかりの地である石山寺や三井寺、世界遺産比叡山延暦寺などの自然と歴史が調和した、豊かな文化が息づく地域です。今年は琵琶湖疏水施設が国宝・重要文化財に、坂本城跡が国史跡にそれぞれ指定されるなど、改めてその魅力が注目されています。また、近江牛や文化庁の「100年フード」の認定を受けた大津のうなぎなどの滋賀県・大津市の特産品や郷土料理に加え、琵琶湖でのクルーズなどのアクティビティもお楽しみください。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げまして、歓迎のことばといたします。

## 歓迎のことば



特定非営利活動法人 滋賀県セーリング連盟

会 長 神 野 佳 樹

第 79 回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」セーリング競技会を開催するにあたり、全国各地から参加いただきました選手・監督の皆様、並びに競技役員・関係者の皆様に心より歓迎申し上げます。

滋賀県での開催は、昭和 56 年「びわこ国体」以来 44 年ぶりとなります。

日本一を擁する湖、琵琶湖を舞台として熱戦を繰り広げる今大会が成功裏に開催できるよう運営スタッフ一同取り組んでまいりました。

参加される選手・監督の皆様におかれましては海とは違った湖でのレースにおいて、風や波の状態を的確に読み取りながら、「自然」を味方につけ、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮しさわやかに戦いが繰り広げられ、観るもの全てに感動を与えてくれるようなレース展開を期待しております。

滋賀県におけるセーリング競技は、歴史が古く約 100 年の歴史を刻んでおり、第 1 回の「国民体育大会」開催も当地柳が崎沖で開催されております。それらの中において多くのセーラーが巣立ち、数々のオリンピック・世界選手権優勝者等を輩出してまいりました。昨年の「パリオリンピック」において日本選手の活躍が多くの人たちに感動を与えたことは記憶に新しいことと存じます。特に「470 ミックス」で銀メダル獲得した吉岡美帆選手も大学時代はこの地でトレーニングに励んでおりました。我々セーリングに携わる者にとって感動とともに勇気づけられるものでありセーリング競技の更なる普及に繋がることを期待しております。

最後に、この大会の開催にあたりご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様、そして全国からお集まりいただいた選手・監督の皆様に改めて深く感謝を申し上げますとともに、各チームのご健闘とセーリングスポーツのますますのご隆盛を心よりご祈念申し上げます。歓迎の言葉といたします。



天皇杯

皇后杯

### 国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定

昭和45年1月22日一部改定

昭和48年7月10日一部改定

昭和54年5月9日一部改定

平成17年6月16日一部改定

平成22年3月17日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成23年4月1日）から施行する。

平成30年4月1日一部改定

令和6年1月1日一部改定



大会会長トロフィー

## 国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

- 第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。
- 2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。
- 第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。
- 第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。
- (1) 責任をもって保管する。
  - (2) 破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。
  - (3) 優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
  - (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。
- 第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。
- 附 則 本規程は、昭和41年4月1日制定  
昭和45年1月22日一部改定  
昭和48年7月10日一部改定  
昭和54年5月9日一部改定  
平成17年6月16日一部改定  
本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日(平成23年4月1日)から施行する。  
平成30年4月1日一部改定  
令和6年1月1日一部改定

# 大会役員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 誉 会 長	あ べ 俊 子				
会 長	遠 藤 利 明				
副 会 長	益 子 直 美	田 中 不 二 夫	三 宮 恵 利 子	森 岡 裕 策	
顧 問	室 伏 広 治	三 日 月 大 造	河 本 英 典		
	伊 藤 雅 俊	森 喜 朗	橋 本 聖 子	安 西 孝 之	
	岡 崎 助 一	越 川 均	坂 元 要	勝 田 隆	
	室 伏 由 佳	村 松 さ や か	湯 川 和 之	植 田 実	
	櫻 井 由 香	鹿 島 丈 博	吉 岡 成 子	石 井 砂 織	
	笠 師 久 美 子	飯 塚 悟	久 保 正 美	浦 美 奈 子	
	木 平 芳 定	中 嶋 実	小 寺 洋	桐 木 陽 子	
	旗 生 康 之	池 田 め ぐ み	工 藤 保 子	久 保 直 生	
	藤 田 裕 司	藤 原 誠	室 城 信 之	金 子 日 出 澄	
	貝 瀬 智 洋	森 晃	土 橋 登 志 久	石 丸 元 国	
	多 氣 洋 平	井 崎 洋 志	鬼 頭 有 紀 子	長 谷 川 洋 子	
	吉 田 長 寿	齋 木 尚 子	多 賀 恒 雄	安 藤 淳	
	上 治 丈 太 郎	湧 永 寛 仁	上 原 絵 美	佐 藤 健 司	
	馬 場 美 香	山 口 宏	南 和 文	宮 永 美 寿 津	
	千 田 健 一	中 里 壮 也	岡 本 友 章	大 野 淳	
	加 藤 出	田 村 恒 彦	蒔 田 実	山 崎 勝 洋	
	浅 見 敬 子	山 口 徹 正	田 中 伸 周	村 田 利 衛	
	建 部 彰 弘	市 野 保 己	丸 石 博	中 村 ゆ り 子	
	齋 藤 良 太 郎	谷 田 部 和 彦	木 村 博 美	井 上 弘	
	今 川 啓 一	近 藤 重 和	池 谷 正 成	大 澤 明 美	
	古 城 資 久	小 野 賢 二	園 山 和 夫	中 山 俊 行	
	田 中 徹	知 念 か お る	出 口 弘 之	田 邊 哲 人	
	城 門 政 文	前 川 恵	上 杉 晃 央	布 村 幸 彦	
	茂 野 直 久	生 島 典 明	大 沢 陽 子	谷 藤 節 雄	
	熊 谷 幸 一	千 葉 玲 佳	奥 山 雅 信	酒 井 祐 一	
	藤 田 知 巳	北 條 俊 明	田 子 昌 之	新 井 彰	
	山 崎 成 夫	塩 見 清 仁	田 名 部 高 雄	井 出 仁	
	今 西 博 一	中 村 宏 平	松 本 智 広	森 山 喜 博	
	南 部 則 雄	福 永 秀 樹	高 橋 繁 浩	山 本 健 次	
	増 田 和 伯	猪 飼 敏 之	山 本 誠 三	松 本 恭 幸	

船田 一彦	奥田 晃	横尾 英治	小西 慎太郎
近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一	渡邊 浩三
田中 稔	馬越 祐希	青木 章泰	城戸 英敏
藤本 武	小柳 勝彦	辛木 秀子	宮成 康蔵
藤本 格	岩元 幸成	平良 朝治	藤原 正樹
大河原 嘉朗	川上 隆弘	佐藤 廣子	奈良 隆
小菅 司	宇津木 妙子	菊 幸一	小林 久美
寺澤 正孝	山口 純子	武部 新	野中 厚
金城 泰邦	赤松 健	増子 宏	矢野 和彦
茂里 毅	浅野 敦行	有村 治子	上野 賢一郎
大岡 敏孝	嘉田 由紀子	北野 裕子	小寺 裕雄
こやり 隆史	斎藤 アレックス	武村 展英	宮本 和宏
目片 信悟	村井 泰彦	北村 嘉英	小椋 正清
伊藤 定勉	草野 聖地	杉浦 和人	永浜 明子
有森 裕子	鈴木 大地	宮本 恒靖	深澤 祐二
坂田 東一	三須 和泰	仲間 達也	川合 俊一
藤田 直志	三屋 裕子	富山 英明	馬場 益弘
砂岡 良治	金丸 恭文	安道 光二	河田 正也
豊田 章男	千 玄 室	中村 真一	牧島 かれん
村井 満	永谷 喜一郎	真砂 威	土田 雅人
町田 幸男	大野 正次	世耕 弘成	笹川 善弘
番匠 幸一郎	久保 素子	丹羽 秀樹	岩城 光英
寶 馨	荒川 裕生	小谷 知也	達増 拓也
鶴田 有司	吉村 美栄子	北村 清土	大井川 和彦
福田 富一	遠藤 祐司	大野 元裕	熊谷 俊人
山本 博	岡田 伸浩	花角 英世	新田 八朗
馳 浩	杉本 達治	高野 剛	阿部 守一
田口 義隆	中谷 多加二	大村 秀章	伊藤 歳恭
西脇 隆俊	高橋 知史	齋藤 元彦	池田 誠也
宮崎 泉	林 昭男	丸山 達也	越宗 孝昌
苅田 知英	村岡 嗣政	後藤田 正純	榎田 實
大塚 岩男	服部 誠太郎	山口 祥義	大石 賢吾
甲斐 隆博	麻生 益直	日隈 俊郎	塩田 康一
玉城 デニー			
参 与 粂井 圭子	大杉 住子	赤井 康彦	有村 國俊
井狩 辰也	今江 政彦	岩崎 和也	小河 文人

小川 泰江	奥村 芳正	海東 英和	加藤 誠一
河井 昭成	川島 隆二	河村 浩史	桐田 真人
九里 学	桑野 仁	駒井 千代	佐口 佳恵
重田 剛	柴田 栄一	柴田 清行	清水 鉄次
清水 ひとみ	白井 幸則	周防 清二	菅沼 利紀
田中 英樹	田中 誠	田中 松太郎	谷 成隆
谷口 典隆	富波 義明	中川 雅史	中沢 啓子
中山 和行	野田 武宏	節木 三千代	本田 秀樹
村上 元庸	木沢 成人	森重 重則	東 勝
岸本 織江	土井 真一	窪田 知子	野村 早苗
塚本 晃弘	森 和之	園田 三恵	松田 千春
東郷 寛彦	中村 守	中村 達也	山田 忠利
奥山 光一	岡田 暁人	中田 佳恵	伊吹 信人
白井 稔	藤原 久美子	正木 隆義	保田 誠
小林 雅史	池内 久晃	原 陽一	北川 純二
佐藤 健司	田島 一成	浅見 宣義	小西 理
橋川 渉	森中 高史	竹村 健	岩永 裕貴
櫻本 直樹	松浦 加代子	今城 克啓	角田 航也
堀江 和博	西田 秀治	有村 国知	寺本 純二
久保 久良	藤田 善久	甲津 和寿	堤 清司
高橋 祥二郎	市田 良夫	藤堂 寛	野村 昌弘
熊倉 正志	涌井 努	岸 智昭	武田 英明
山本 博一	寺村 義伸	金澤 博文	山本 順
杉原 真也	竹林 幸祥	山田 貴司	上西 保
一圓 泰成	石井 太	川戸 良幸	田畑 太郎
高橋 健太郎	草野 とし子	三木 恒治	市川 忠稔
上村 照代	富長 弘宣	佐野 智哉	太田 千恵子
赤井 弘和	大西 孝雄	崎山 美智子	
山本 浩			
岩田 史昭	田中 秀和	辻 睦弘	
松永 敬子	稲垣 公雄	笠野 英弘	加藤 光国
菅原 哲朗	田崎 博道	松田 基子	三ヶ田 礼一
山澤 文裕	吉田 崇	出崎 和夫	宇野 武
熊谷 利彦	佐橋 誠	田内 慎也	山下 栄次
江橋 千晴	加藤 弘和	小澤 大樹	佐野 博之
青木 克憲	安井 和治	西島 義典	

委員 長  
副委員 長  
総務委員

## 委

## 員

平野了	高橋聖一	吉村政弘	若月等
松本康夫	福土幸洋	栗原崇	細野光史
渡邊圭太郎	佐久間裕司	品田奥義	濱野勉
寺澤淳	黒川重男	舟喜信生	高野修
中梶秀則	安藤正美	加藤憲二	宮川良輔
鈴木章広	川口巖	和田潔	岡泉茂
田口大祐	平井宏治	岸川剛之	西原斗司男
菅原正幸	高橋昇	長南哲生	衛藤敬輔
渡辺久雄	三井千壽	鈴木信吾	山中博史
井本亘	関根明子	中山二三男	越前浩司
吉田由美子	杉本好二	東野真理子	川口雅三
金子和裕	野口友里	品治恵子	富澤佑也
政岡航大	坊百花	小河原百映	田口雅紀
寺垣佑介	田中遥大	宇高章広	近藤潤
南野芳広	池本佳子	横江弘昭	沼波輝
門久仁裕	清水直子	高井和紀	見田茂紀
加藤雄樹	鈴木敦	瀬谷尚男	大貫大輔
太田真美	高野正規	岩埜直史	深谷祐紀
金田貴人	新保暢	戒田由香里	児玉晶香
村松達也	井澤克行	林剛史	稲葉晴伸
杉浦美紀	藤田隆司	曾我学	木原哲也
高橋健二	吉村宗浩	中嶋純也	前田康博
松本守正	松本綾子	田口新也	河口英史
久次米和成	高田孝行	辻岡英幸	前田義朗
笠井康行	尾鷲一成	松山度良	濱本昌宏
吉野賢一郎	横山美和	山元尚史	宮城直人
高野瑞洋	遠藤信哉	千葉雅也	菅間裕晃
須藤勇司	角田真司	柄澤宏之	竹内延和
東瀬義人	酒井雅洋	碓井稔	武田知巳
井上哲	今後元彦	沼田守弘	田部長右衛門
竹内俊勝	松井守	吉岡直彦	刈谷好孝
寺崎雅巳	荒木健治	平江公一	黒木淳一郎
渡嘉敷通之	綾部吉也		

# 競 技 会 役 員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

名 譽 会 長	佐 藤 健 司			
会 長	馬 場 益 弘			
副 会 長	中 村 隆 夫	富 田 三 和 子	船 澤 泰 隆	土 肥 美 智 子
	小 野 清 司	神 野 佳 樹	伊 藤 義 樹	
顧 問	植 松 眞	中 川 千 鶴 子	桑 原 啓 三	中 澤 信 夫
	福 田 さ と し	菊 池 浩 太 郎	長 塚 奉 司	石 川 光 次 郎
	佐 藤 利 秋	齋 藤 和 久	高 橋 哲 司	安 藤 真 理 子
	船 田 元	須 藤 昭 男	進 藤 義 孝	大 野 敬 三
	石 原 伸 晃	末 木 創 造	堀 内 光 一 郎	小 保 祥 一
	横 山 眞	八 嶋 浩 久	大 西 治 夫	高 間 正 信
	加 藤 敏 純	小 栗 一 朗	岸 田 慶 仁	森 正 弘
	岡 田 栄 三	中 西 克 誠	森 田 豊 三	堀 井 康 弘
	中 井 國 雄	安 田 由 毅	大 西 和 彦	竹 内 宣 昭
	安 永 裕 司	河 野 亨	中 博 史	石 井 良 直
	黒 川 重 男	谷 田 豊 明	秋 山 雄 治	井 上 宏
	福 田 豊	西 山 宗 孝	垣 外 朋 之	橋 口 昭 彦
	そのだ 修光	有 銘 兼 一	草 野 聖 地	島 崎 輝 久
参 与	細 川 俊 行	細 川 力 男	葉 月 陽	浜 奥 修 利
	乗 野 靖 七	青 山 三 四 郎	井 元 潔	奥 村 功
	改 田 勝 彦	笠 谷 洋 佑	嘉 田 修 平	川 口 正 徳
	草 川 肇	幸 光 正 嗣	小 島 義 雄	佐 藤 弘
	杉 浦 智 子	竹 内 照 夫	竹 内 基 二	田 中 知 久
	田 中 康 博	谷 祐 治	出 町 明 美	寺 田 英 幸
	寺 谷 吉 寛	中 川 哲 也	中 田 一 子	八 田 憲 児
	林 ま り	原 田 優 太	伴 孝 昭	日 隈 慈
	福 永 英 晶	船 本 力	森 川 え り な	森 脇 謙 一
	田 村 靖 二	周 防 美 智 子	大 西 祐 司	関 理 子
	國 松 睦 生	北 潤 弘 康	初 田 久 徳	内 川 直 樹
	内 田 一 成	川 島 英 和	小 野 昌 幸	中 村 由 紀 子
	菊 池 眞 宏	岡 嶋 一 郎	宿 谷 繁 生	三 國 昌 克

小島 浩幸	南 堀 弘	清 水 美幸	弓 坂 則行
高野 早人	團 初 太郎	目 片 清	安 西 将也
中山 敦生	野々口 義信	北 村 茂	河 本 英典
津田 新三	松 尾 房郎	井 上 欣也	前 田 康一
荒谷 善夫	奥 村 芳正	宇 野 正信	渡 辺 一生
藤原 健二	二 宮 康人	小 椋 正清	こやり 隆史
田濃 良和	石 井 智	久 保 洋司	西 田 元
米田 博文	岸 智 昭	田 矢 隆一	人 見 和宏
杉原 真也	田 畑 太郎	大 森 聖一	八 木 正樹
大西 延明	北 川 有紀	田 中 勉	金 子 博美
前川 賢慈	大 谷 たかを	小 山 泰彦	坂 谷 定生
川添 雄彦	北 野 悟	仲 野 薫	山 下 記誉
山 田 将人			

委 員 長 安 藤 淳

副 委 員 長 大 塩 勲 山 本 伸 善

委 員	望 月 宣武	中 村 和 哉	萩 原 ゆき	宮 野 幹 弘
	古 屋 勇 人	尾 形 依 子	地 川 浩 二	長 田 美 香 子
	鈴 木 祥 子	濱 野 文	鷹 野 淳 子	秋 田 正 紀
	石 川 彰	伊 藤 亮 一	井 上 貴 支	川 戸 仁
	岩 瀬 喜 貞	村 田 光 宏	側 田 晴 楽	西 尾 隆
	平 岡 志 帆	大 槻 映 幸	五 十 川 浩 司	田 中 葉 子
	吉 田 愛	佐 藤 公 俊	上 野 保	紙 谷 雅 子
	鈴 木 保 夫	小 山 壽 和	山 下 員 徳	藤 原 睦 子
	前 川 和 夫	白 子 清 士	吉 居 正	兵 藤 和 行
	浅 原 慈 樹	城 務	吉 岡 卓	中 村 滋 男
	多 賀 康 太 郎	宮 崎 公 邦	原 口 祐 司	廣 田 照 美
	仲 野 智 之	高 橋 宏 司	中 川 潤 二	橋 本 和
	前 畑 郷 平	江 波 維 求	安 田 真 之 介	天 野 殖
	川 崎 一 彦	吉 田 聡	打 谷 桂 子	

# 競 技 役 員

2025年9月1日現在

(順不同・敬称略)

競 技 委 員 会	黒 川 重 男	古 屋 勇 人		
レ ー ス 委 員 会	石 川 可 奈 子	多 賀 牧 子	笠 原 兼	京 黒 太 郎
	熊 川 芳 彦	向 田 麻 希	小 寺 栄 子	佐 野 匠
	汐 口 貴 広	鈴 木 純 子	高 谷 智	谷 真 帆
	根 津 久 一 郎	橋 元 郷	林 健 太	外 尾 竜 一
	山 本 伸 善	渡 邊 澄 子		
プ ロ テ ス ト 委 員 会	石 川 雅 之	江 波 維 求	岡 部 幸 司	加 藤 圭 二
	木 内 誠	北 島 舞	倉 石 清 和	西 藤 知 城
	下 村 優 芽	高 野 由 美 子	田 中 正 昭	富 田 博 司
	田 村 祥 希	流 千 里	西 山 和 仁	藤 井 裕 文
	細 川 猛 史	前 園 昇	間 下 正 司	増 田 開
	松 宮 哲 夫	山 崎 月 光	山 田 佳 明	山 本 正 樹
	渡 邊 範 夫	中 谷 円 香	渡 辺 洋 司	藤 本 夏 実
	中 島 志 織			
総 務 ・ 報 道 部	糸 永 洋 義	笹 木 哲 也	荒 井 真 帆	井 垣 充 子
	市 橋 栄 理	上 田 奈 津 香	宇 野 哲 夫	江 口 恒 信
	川 合 徹	川 副 陽 子	栗 原 茂 勝	後 藤 さ つ き
	齊 藤 由 美	澤 地 由 介	高 林 信 久	武 井 裕 美
	辻 優	土 屋 富 康	続 木 友 香	堤 智 章
	堤 伸 浩	中 里 英 一	長 田 美 香 子	中 西 金 一 郎
	西 居 基 晴	西 宮 敬 宏	廣 田 照 美	廣 本 薫
	廣 本 夏 帆	深 田 敏 雄	三 羽 ま り 子	山 元 麻 理
	横 田 毅	横 田 真 希	和 田 け や き	南 部 俊 朗
	行 方 康 友	笠 原 賢 一	垣 野 雅 人	上 田 敦 史
	美 柑 織 香	川 戸 ゆ か	森 田 光 一	森 本 博
	古 賀 恵 智 子	野 元 聡 美	湯 川 大 輝	佐 藤 麟 太 郎
	青 野 千 咲 月	今 井 晴 大	神 志 那 実 篤	西 明 賢
	菅 谷 光	成 松 海 里	近 藤 諄 忠	望 月 惇 平
	石 川 泰 一 郎	渡 邊 晴 仁	川 上 慎 太 朗	山 田 翔 瑛

	白羽 はなび 藤 村 勝	梶 本 旭 日 古 賀 達 也	中 尾 英 嗣 池 田 楓	山 崎 蓮
<b>記 録 部</b>	井 上 兼 一 鈴 木 裕 喜 子 深 瀬 宗 久	岩 瀬 広 志 須 田 恵 子	上 原 信 子 須 田 淳	古 宮 裕 介 直 江 正 一
<b>テクニカル委員会</b>	浅 原 慈 樹 大 熊 典 子 小 林 正 季 城 務 中 村 功 弘 岩 城 昂 太 郎 市 川 雄 一 郎 西 村 颯 樹 金 井 大 河 市 橋 遼 川 島 美 柚 坂 口 海 斗 山 内 拓 海 大 塚 涼 平 浅 野 凌	市 倉 隆 裕 黒 川 健 一 郎 櫻 井 真 也 巽 美 則 東 島 和 幸 浅 井 光 将 中 村 龍 日 米 山 哲 平 植 田 喜 裕 村 上 陽 人 中 田 沙 織 田 中 陽 樹 石 川 拓 武 小 田 学 人 高 木 大 幹	岩 田 俊 彦 小 久 保 伸 一 白 石 潤 一 郎 永 田 絹 子 町 山 文 洋 宗 川 杏 純 炭 谷 爽 晴 東 慶 弥 山 名 俊 輔 原 山 泰 輔 大 木 誠 也 名 和 洸 太 谷 山 実 咲 明 石 鳳 太 郎 井 津 裕 太	上 田 岳 小 林 隆 白 井 敏 文 中 村 和 哉 西 野 隆 文 川 原 凜 乃 村 上 航 平 井 泰 史 大 川 佑 月 山 本 佳 賢 江 藤 慧 野 々 村 碧 衣 高 橋 龍 之 介 池 田 一 心
<b>運 航 通 信 部</b>	片 木 ひ と み 徳 岡 仁 長 谷 川 眞 林 一 義 永 木 穂 嵩 今 泉 遥	川 畑 浩 二 鳥 居 貴 彦 村 井 純 子 山 本 宣 明 城 輝	高 橋 宏 司 野 々 口 康 介 山 崎 達 司 中 野 浩 志 井 上 虎 太 郎	瀧 田 聡 長 谷 川 利 英 山 下 記 誉 本 多 功 青 萩 中 壱 星
<b>発 着 水 路 部</b>	野 村 拓 未 青 山 貴 志 今 井 克 広 大 南 彩 夏 神 原 里 佳	会 津 友 稀 生 田 真 紀 夫 入 口 朋 昌 岡 本 怜 子 蔵 田 真 由 美	青 木 英 明 池 永 誠 之 内 山 貴 宣 甲 斐 孝 光 桑 野 安 史	青 山 悟 士 市 橋 隆 司 江 口 高 弘 柏 原 利 陸 上 妻 明 弘

小松賢司	坂口陽平	坂口智耶	佐竹泰一
島田昂汰	鈴木克宗	角野吉則	田中裕美
土岡正治	中嶋清悠	中野信広	中村昌弘
中山英弘	西村真洋	西村秀樹	西山怜
野田暢	野村実央	橋本和	長谷川健
羽富沙季	林幸成	廣池達哉	福田慎之介
増田純二	増本哲也	松島賢典	宮崎公邦
村山航大	山口徳広	山本正	吉川一平
森勝彦	大川在一	小田切拓登	小島遼平
廣田悟	工藤美喜	佐々木凱成	佐々木遼太
佐藤晃右	佐藤颯	澁川天真朗	鈴木瑛太
鈴木優奈	瀧愛美	直井ひかり	中田智也
二宮基	藤井悠乃	松井煌征	松本昂大
三原将	狩野碧	松尾幸太郎	岨伸明
玉木翔大	鈴木秀太郎	明見春彦	高槻達起
岡崙健太	古閑麻央	岸本大輝	桂田泰誠
北條実来子	藤田陽向	神谷康成	山田修太郎
金子諒大	森田颯斗	大西和希	北島胡花
河合泉希	竹本凜主	後藤すず	平沼遼太
北東愛和	高橋真帆	岡本健太郎	横田倭子
文少妍	二見健大	濱田さくら	菅原悠来
青木仁子	藤谷将吾	三宅京佳	野田明日香
山本真子	蓬萊聡紀	西内颯	水谷清志朗
野中遼太	高山雄登		

海上安全部

中川真汐	浅井利治	安藤昇	井上高司
内堀隆夫	片木正好	川野和昭	黄瀬豊一
袈裟丸仁志	小林隆夫	小松大悟	澤村啓介
白子清士	曾和芳之	多賀康太郎	田中新造
続木政光	中川隆一	西埜誠	北條正彦
堀田泰業	前田達雄	水上真吾	米良格
矢島厚	山崎寛	山下員徳	山近博美
吉岡卓	岡橋丈司	山本毅	五由出将嗣
野村吉伸	青田聡史	鍵田知徹	篠原丈
松永奏人	飯島郁望	宇都宮正耀	小川瑛土

小川 祥太朗	金澤 奈津	黒田 和哉	小村 一徳
近藤 柊星	中村 燎	畑 中 響	政枝 凜々子
三井 啓輔	南 秀樹	和田 幸多朗	藤堂 将徳
上中 惇郎	嶋根 爽馬	溝脇 大智	宮本 航太郎
江見 亜香里	久保田 悠木	西内 海斗	柳本 征人
向井 蓮乃	松居 憲正	古田 大己	猪熊 音菜
出口 愛海	栗原 慶太	花牟礼 晃生	田原 瑠華
今井 駿佑	中村 光	江藤 寧櫻	井上 功也
湯浅 海翔	近藤 成将	小嶋 修太	前谷 嘉志
秋田 秀真	杉浦 ふう華	藤林 沙瑛	福井 陸人
前 園 隼	伊藤 晴喜	藤岡 啓人	木村 咲良
羽原 希美	奥田 涼雅	内山 昂	浦島 夏彦
安藤 葵	川島 功雅	加藤 咲莉	櫻井 壱耀
岡本 春菜	辻 啓志	太田 陽友	栗原 空那
後藤 奏登	松尾 華奈	櫛田 咲智	須藤 圭登
藤元 壮太	斎藤 碧良	神田 洸輔	北嶋 壮丞
樋口 湊也	寺嶋 優介	中室 陽太	谷口 峻太郎
谷古 宇出	田中 温尊		

## 競技補助員

2025年7月31日現在

(順不同・敬称略)

滋賀県立膳所高等学校

## 競技会係員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実施本部職員一同

## 競技会補助員

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市ボランティア一同

# 大会実施要項

## 総則

### 開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

滋賀県で開催する第79回国民スポーツ大会「わた SHIGA 輝く国スポ」は「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに掲げ、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝くとともに、大会を通じて湖国滋賀で生まれた夢や感動、連帯感が、大会に関わるすべての人の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれる大会を目指して開催する。

### 実施方針

#### 1 実施競技

##### (1) 正式競技 (37 競技)

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

##### (2) 公開競技 (7 競技)

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

##### (3) デモンストラレーションスポーツ (26 競技)

インディアカ、ウォーキング、ウォーキングフットボール、小倉百人一首競技かるた、カローリング、還暦軟式野球、キンボールスポーツ・レクリエーション、里湖で地域を結ぶウォーキング、スポーツウエルネス吹矢、スポーツ鬼ごっこ、スポーツ拳法、スポーツチャンバラ、スリースマイルゴルフ、スローイングビンゴ、ソフトバレーボール、ネットでポンポイ、ノルディック・ウォーク、ひこねスーパーカラム、ビリヤード、フットサル、マリンスポーツフェスティバル、ミックスバレーボール、モルック、ユニカール、ユニホック、ラジオ体操第3 (初代・二代目)

##### (4) 特別競技 (1 競技)

高等学校野球

## 2 会期および会場地

### (1) 正式競技・特別競技（15市、4町：計19市町）

会 期	会 場 地
2025年9月28日（日） ～10月8日（水） 〔11日間〕	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、大阪府豊能郡能勢町、兵庫県三木市
2025年9月6日（土） ～9月15日（月） 〔10日間〕	大津市、長浜市、草津市 ※ 水泳、体操、バレーボール（ビーチバレーボール）競技会は上記会場地で実施
2025年9月21日（日） ～9月25日（木） 〔5日間〕	東近江市、京都府向日市 ※ 自転車（トラック・レース、ロード・レース）競技会は上記会場地で実施

### (2) 公開競技（7市：計7市町）

会 期	会 場 地
2025年8月23日（土） ～9月21日（日）	長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市

### (3) デモンストレーションスポーツ（13市、1町：計14市町）

会 期	会 場 地
2025年4月12日（土） ～9月14日（日）	大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、多賀町

### (4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

## 3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

## 4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査およびアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」および別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例（TUE）」の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名および親権者の署名がある同意書を所持すること。

## 5 参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準

選手および監督の参加資格、所属都道府県および選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第79回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県および年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/> 】

### (1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手および監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生または生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に1年以上在籍していること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」または「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理および難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)bについて、大学および専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理および難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手および監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 2023年開催の特別大会または第78回大会（都道府県大会およびブロック大会を含む）において選手または監督として参加した者は、次の場合を除き、2023年開催の特別大会または第78回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚または離婚に係る者

[注] aおよびbは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚または離婚に係る者

c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会および本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。

カ 選手および監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ 選手、監督ならびに本部役員帯同のスポーツドクターおよびアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ア) 都道府県大会およびブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

(2) 所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア 成年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 勤務地

(ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

イ 少年種別

(ア) 居住地を示す現住所

(イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ウ) 勤務地

(エ) 別記3「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校

の所在地

※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2025年4月30日以前から本大会終了時（2025年10月8日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、または通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

[成年種別]

- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- b 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
- b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- c 別記5「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- d 別記6「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

(3) 選手の年齢基準

ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ア) 成年種別に参加する者は、2007年4月1日以前に生まれた者とする。

(イ) 少年種別に参加する者は、2007年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者とする。

(ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2025年4月1日を基準とする。

イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた者）とする。

(4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会および当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する

## 6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

(1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）および女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア 競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものに加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

#### イ 参加得点

参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

#### (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

#### (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

## 7 表彰

(1) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

(2) 冬季大会および本大会で実施した全正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

(4) 各正式競技の男女総合成績および女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

(5) 各競技の各種別および各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、または都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

## 8 参加申込方法

### (1) 参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）および競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会またはブロック大会において選抜された者および公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込みものとする。

### (2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

### (3) 参加申込締切日

締 切 日	競 技
2025 年 8 月 20 日 (水) 【12 競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、レスリング、セーリング、自転車、相撲、カヌー、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2025 年 9 月 4 日 (木) 【27 競技】	陸上競技、サッカー、テニス、ホッケー、ボクシング、バレーボール（6人制）、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

## 9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

## 10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区 分	負 担 金
少年の種別に参加する選手	3, 0 0 0 円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6, 0 0 0 円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金を行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会でき取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2025 年 9 月 5 日（金）

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729  
公益財団法人日本スポーツ協会

## 11 宿泊申込

大会参加者は、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込み。

## 12 都道府県選手団本部役員編成

- (1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。
  - ア 参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 20 名以内とする。
  - イ 参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 15 名以内とする。
  - ウ 参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督および総務ほか、計 10 名以内とする。
- (2) 上記役員のほか、5 名以内の顧問を設けることができる。
- (3) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。  
なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。
- (4) 上記(1)および(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。  
なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。
- (5) 都道府県選手団本部役員の 1 日あたりの編成人数については、上記(1)および(2)による人数を上限とする。
- (6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

## 13 視察員

- (1) 視察員は、1 都道府県 3 名以内とする。ただし、2026 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定または内定している県については、青森県 100 名以内、宮崎県および長野県 60 名以内、群馬県および島根県 40 名以内とする。
- (2) 都道府県の視察員の参加申込は、2025 年 9 月 4 日（木）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

## 14 AD カードの交付

都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督および役員、大会役員・競技会役員および競技団体が指定した競技役員、大会主催者および競技会主催者が認めた者には AD カード (Accreditation Card) を交付する。

## 15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

## 16 個人情報および肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ各競技会場地市町実行委員会および国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報および肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

### (1) 個人情報の取り扱い

#### ア 利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

#### イ 公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ア) 総合プログラムおよび競技別プログラムへの掲載

(イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介

(ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載

(エ) 大会関連ホームページへの掲載

(オ) 報道機関への提供

#### ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ア) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開

(イ) 国スポ関係機関・団体および報道機関等による新聞・雑誌および関連ホームページ等への掲載

(ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載

(エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝および上位入賞結果（記録）等】

### (2) 肖像権に関する取り扱い

#### ア 写真

国スポ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書および関連ホームページ等で公開されることがある。

#### イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

#### ウ 映像

国スポ関係機関・団体またはこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映およびインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

### (3) 対応

#### ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

#### イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者および大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

## 17 都道府県大会およびブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

- (1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会および中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会および中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

- (2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

- (3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込み。

なお、参加は1人1競技に限る。

- (4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会および当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

- (5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

- (6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

- (7) 競技運営に差し支えない限り、滋賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

## 18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会および都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

- (1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会および本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員ならびにその他選手団役員とする。

- (2) 大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。

- (3) 納入締切日および納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ

通知する。

## 19 わた SHIGA 輝く国スポの取組

### (1) 環境に配慮した大会の実施

スポーツの楽しさや感動を分かち合うとともに、滋賀県に受け継がれている身の回りの生活から自然環境を考える取組を県民や企業、大会に関わるすべての参加者が実践することで、「人と人、人と地域、人と自然」の繋がりを深めることができるよう取り組む。

### (2) おもてなしと滋賀の魅力発信

豊かな自然や歴史、文化、芸術、祭り、伝統芸能、特産品などの地域資源、湖上スポーツをはじめとした滋賀ならではのスポーツ環境など、滋賀の魅力を発信し、来県者が滋賀での滞在を楽しむことができるよう取り組む。

### (3) 誰もが主役として輝ける取組の推進

年齢や性別、障害の有無などを問わず、誰もが一層身近にスポーツを楽しむことができる環境をつくり、誰もがボランティアや大会関連行事等に積極的に参加できる環境をつくるなど、それぞれのスタイルで「する」「みる」「支える」の体験ができる大会となるよう取り組む。

## 20 その他

(1) 参加申込および宿泊申込が、定められた締切日までに行われなかった場合、または、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

(2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

(3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項および同細則による。

## 別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
  - (1) 居住地を示す現住所
  - (2) 勤務地
  - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOCエリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者および「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

## 別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

### 転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1-③）に抵触しないものとする。
  - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
  - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。  
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。
    - ア 親の転勤による一家の転居
    - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
    - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
  - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
    - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
    - イ 報告を受けた都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会および都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。
- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
  - (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
    - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
    - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
    - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
  - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
    - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

### 別記3 「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号および第10項第4号（参加資格および年齢基準等）〕および別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

#### 1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

#### 2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2)-②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

#### 3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

#### 4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)の規定に従い取り扱うものとする。

#### 5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

## 別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

### 1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第33回オリンピック競技大会（2024年・パリ）に参加した者。
- (2) 2025年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア JOC オリンピック強化指定選手

イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者

ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手

※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

### 2 特例の内容

#### (1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会およびブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手またはチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

#### (2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」または「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

##### ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、または自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

##### イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

### 3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③のとおりとする。

## 別記5 「東日本大震災に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

### 1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

### 2 特例の内容

#### (1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

#### (2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者について

は、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

＜例＞ ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

**【特例の対象者】**

2011年度から2012年度(小学校は2015年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

## 別記6 「能登半島地震に係る選手および監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

### 1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

### 2 特例の内容

#### (1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2025年4月30日以前から当該大会終了時（2025年10月8日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

#### (2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、2023年開催の特別大会または第78回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

##### 【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2025年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学して

いる実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第78回大会または第79回大会に参加した者が、第80回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

- <例>
- 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合
  - 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合
  - 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

**【特例の対象者】**

2024年度から2025年度(小学校は2028年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

# 実施要項

1 期 日 2025年9月28日（日）から10月1日（水）まで（4日間）

[計測 9月26日（金）・9月27日（土）、トライアルレース 9月27日（土）]

月 日	時 間	内 容
9月26日（金）	9:00~17:00	大会装備検査（滋賀県立柳が崎ヨットハーバー 大津市柳が崎特設セーリング会場）
9月27日（土）	8:30~10:00	大会装備検査予備日（滋賀県立柳が崎ヨットハーバー 大津市柳が崎特設セーリング会場）
	16:30~17:30	監督会議（大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント）
10月1日（水）	13:00~13:30	種目別表彰式（大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント）
	14:00~14:30	
	15:00~15:40	総合表彰式（大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント）

月 日	予告信号 時 刻	A海面		予告信号 時 刻	B海面	
9月27日 （土）	11:25	少年男子420級	トライアルレース	11:25	少年男子ILCA6級	トライアルレース
	11:32	少年女子420級	トライアルレース	11:32	少年女子ILCA6級	トライアルレース
	11:39	成年女子ILCA6級	トライアルレース	12:25	成年女子セーリングスピリッツ級	トライアルレース
	13:05	成年男子470級	トライアルレース	13:05	成年男子国スポウインドサーフィン級	トライアルレース
	13:12	成年男子ILCA7級	トライアルレース	13:12	成年女子国スポウインドサーフィン級	トライアルレース
9月28日 （日）	9:55	少年男子420級	第1レース	9:55	少年男子ILCA6級	第1レース
	10:02	少年女子420級	第1レース	10:02	少年女子ILCA6級	第1レース
	10:09	成年女子ILCA6級	第1レース			
	引続き	少年男子420級	第2レース	引続き	少年男子ILCA6級	第2レース
		少年女子420級	第2レース		少年女子ILCA6級	第2レース
		成年女子ILCA6級	第2レース			
	13:05	成年男子470級	第1レース	12:05	成年女子セーリングスピリッツ級	第1レース
13:12	成年男子ILCA7級	第1レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第2レース	
引続き	成年男子470級	第2レース	14:35	成年男子国スポウインドサーフィン級	第1レース	
	成年男子ILCA7級	第2レース	14:42	成年女子国スポウインドサーフィン級	第1レース	
9月29日 （月）	9:55	成年男子470級	第3レース	9:55	成年女子セーリングスピリッツ級	第3レース
	10:02	成年男子ILCA7級	第3レース	引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第4レース
	引続き	成年男子470級	第4レース	12:05	少年男子ILCA6級	第3レース
		成年男子ILCA7級	第4レース	12:12	少年女子ILCA6級	第3レース
	引続き	少年男子420級	第4レース	引続き	少年男子ILCA6級	第4レース
		少年女子420級	第4レース		少年女子ILCA6級	第4レース
		成年女子ILCA6級	第4レース			
	13:05	少年男子420級	第3レース	14:35	成年男子国スポウインドサーフィン級	第3レース
	13:12	少年女子420級	第3レース	14:42	成年女子国スポウインドサーフィン級	第3レース
	13:19	成年女子ILCA6級	第3レース			
9月30日 （火）	引続き	少年男子420級	第4レース	引続き	成年男子国スポウインドサーフィン級	第4レース
		少年女子420級	第4レース		成年女子国スポウインドサーフィン級	第4レース
		成年女子ILCA6級	第4レース			
9月30日 （火）	9:55	少年男子420級	第5レース	9:55	少年男子ILCA6級	第5レース
	10:02	少年女子420級	第5レース	10:02	少年女子ILCA6級	第5レース
	10:09	成年女子ILCA6級	第5レース			
	引続き	成年女子ILCA6級	第6レース	11:25	成年女子セーリングスピリッツ級	第5レース
				引続き	成年女子セーリングスピリッツ級	第6レース
13:05	成年男子470級	第5レース	14:05	成年男子国スポウインドサーフィン級	第5レース	
13:12	成年男子ILCA7級	第5レース	14:12	成年女子国スポウインドサーフィン級	第5レース	

	引続き	成年男子470級 成年男子ILCA7級	第6レース 第6レース	引続き	成年男子国スポウインドサーフィン級 成年女子国スポウインドサーフィン級	第6レース 第6レース
10月1日 (水)	9:55 10:02	少年男子420級 少年女子420級	第6レース 第6レース	9:55 10:02	少年男子ILCA6級 少年女子ILCA6級	第6レース 第6レース

- (1) 各海面の引続き行うレースは、その前のレースの各種目終了後引続き行う。
- (2) 天候等の事情により、競技日程及びレース海面は、レース委員会において変更することがある。
- (3) 10月1日(水)には、11時00分より後に予告信号を発しない。

## 2 会 場 大津市 滋賀県立柳が崎ヨットハーバー 大津市柳が崎特設セーリング会場

### 3 種別(種目)及び参加人員

種 別	種 目	1艇当りの乗員数	艇数	監督	選手	参加都道府県	計(人)
成年男子	470級	2	1	1	2	47	703
	ILCA7級	1	1		1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
成年女子	セーリングスピリッツ級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		
	国スポウインドサーフィン級	1	1		1		
少年男子	420級	2	1	1	2	47	703
	ILCA6級	1	1		1		
少年女子	420級	2	1		2		
	ILCA6級	1	1		1		

- (1) 参加人員が703名を超えるときは、日本セーリング連盟が調整する。
- (2) 成年種別は選手が監督を兼任することができる。
- (3) 各種目で使用する艇及びボードは選手の所有するもの、都道府県が所有するもの、またはチャーターしたもので、参加都道府県が持参するものとする。なお、チャーター艇の場合、計測証明書の有効性を確認するため借用書等の証憑を持参すること。  
会場に持ち込める各級の艇体数は、参加申込みが完了した種目の艇のみとする。  
なお、各種別(種目)の大会装備検査(以下検査)で検査に合格した艇及びセール等は変更/交換することはできない。ただし、損傷等によりテクニカル委員会が認めた場合を除く。  
また、支援者艇の持込みは参加都道府県毎に1艇とし、参加申込時に登録(記載)しなければならない。
- (4) 個人用浮揚用具に関する規程
  - ア 体重を支えるに十分な浮力があり、体形・体重に合致したサイズ表示と浮力表示が明示されていること。
  - イ 着用した状態でセーリング等を行うのに支障なく、かつ誤った方法で着用されないように作られたものであること。
  - ウ 通常的环境条件及び油または油性品により急激な強度劣化及び浮力変化のないものであること。

- エ 水中において、顔面を水面上で支持できるものであること。
- オ 浮力体の抜き取り等の改造を施したり、自作したりしたものでないこと。
- カ クラス規則に規定がある場合はクラス規則に適合したものを使用すること。

#### 4 競技上の規程及び方法

[NP]の表記は、その規則の違反は艇による抗議の根拠とならないことを意味する。これはRRS60.1を変更している。

[DP]の表記は、その規則の違反に対するペナルティーをプロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができることを意味する。

- (1) 2025-2028 セーリング競技規則（以下「RRS」という。）に定義された規則を適用する。

なお、本実施要項は、RRSにおけるレース公示に該当するものである。

RRSの定義：規則（g）に基づく大会を管理するその他の文書には、サポートチーム規程（STR）及び大会装備規定が含まれる。

各クラス規則のセール番号及び艇体番号の同一性に関する条項並びに個人会員登録（艇及びセール登録は除く）に関する条項は適用しない。

[NP] [DP]本大会は、公益財団法人日本スポーツ協会の「国民スポーツ大会企業協賛に関するガイドライン」（令和6年1月1日制定）に基づき、一切の広告を制限する。

- (2) 帆走するコースは、トラペゾイド・コースまたは風上/風下コースを予定しており、詳細は帆走指示書に記載する。

- (3) 天候その他の事情により各種目6回のレースが実施できなかった場合でも、それぞれの種目でレースが1回以上完了していれば、その種目は成立とする。

- (4) 本大会の上告の権利は、RRS70.3(c)及び日本セーリング連盟規程 5.4に基づき否認される。

- (5) 470級及び420級の各種目に使用する艇は、所定の計測証明書（艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの計測証明書）を持参するものとする。

470級及び420級のセールについては、基本計測を終了しクラス規則に適合していることを示すステッカー又はスタンプ及び公式計測員のサインと計測を行った日付が記載されていること。

- (6) レースに使用する艇は、クラス規則、470級及び420級は計測証明書に合致していなければならない（RRS78 参照）。さらに、レース前にテクニカル委員会による検査を受け、承認を得たものに限られる。

すべての艇は大会装備検査終了後から最終レース終了まで常にクラス規則に従っていないといけない。各種目共、各レース終了後に任意に抜き取り、水上または陸上で検査を行うことがある。

- (7) 検査を受けられるセールの数は、参加申込みが完了した種目につき1セットとする。ただし、国スポウインドサーフィン級は、2枚のセールの使用を許可する。

また、異なる種別であっても同一のセール番号は使用できない。

- (8) [DP] I L C A 7級及び I L C A 6級は水上にいる間は、直径6mm、長さ8m以上の曳航用のロープをバウ・アイにつけておかなければならない。

- (9) セーリングスピリッツ級、I L C A 7級、I L C A 6級の艇は、マストトップに着脱可能な浮力体を取り付けてもよい。形状は球形に限り、1か所のロープで取り付けなければならない。ただし、コンディションにより付けた外したりしてもよい。

- (10) 国スポウインドサーフィン級は、マストの本数は制限しない。

- (11) レース前の検査時には、艇及びボードは乾燥した状態でなければならない。
- (12) 検査後の艇及びボード等は、テクニカル委員会の許可なく装備の修理及び交換をすることができない。検査済みの艇及びボード等に、破損その他事故が生じたときは、テクニカル委員会の承認により、改めて検査を受けたものに限り、使用を許されることがある。
- (13) レース艇の損傷等については、テクニカル委員会の承認後、各都道府県の責任において対応しなければならない。
- (14) [NP] [DP]各種目のセールには、県名と県番号を付けていなければならない。県名（片面・スターボード側）は、470級、セーリングスピリッツ級、420級は1字450mm×450mmで太さ40mm、国スポウインドサーフィン級、ILCA7級、ILCA6級は1字380mm×380mmで太さ32mm、県番号（両面・スターボード側上）は、1字270mm×150mmで太さ40mmとし、色は黒色でほぼ一定の太さのラインで書かれたものであること。なお、各寸法は±5%の許容差を認める。

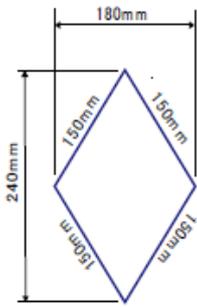
ただし、国スポウインドサーフィン級及びセーリングスピリッツ級（マイラーセール使用）のセールは、実行委員会が用意する白地のセールのクロスの上に、県番号を貼付しなければならない。

なお、白地のセールのクロスは受付時に配布する。配布された白地のセールのクロスは加工してはならない。

- (15) [NP] [DP]セール上の識別

識別マーク（ひし形）は実行委員会が用意し、受付時に配布する。識別マークを両面の同じ位置に表示しなければならない。

なお、クラス規則に従った識別マークが表示されている場合は、そのまま使用してもよい。

種 別	種 目	色	形 状
成年女子	国スポウインドサーフィン級 ILCA6級	赤	下記サイズ以上 
少年男子	ILCA6級	青	
少年女子	420級	赤	対角線の長さ最小250mm

- (16) [NP] [DP]競技者は、乗艇する際に着用する上着（個人用浮揚用具員用ハーネス、その他の衣類等）には、その背面に地色と明確に識別できうる単色の文字で所属都道府県名を付けなければならない。文字は漢字とし、1文字の大きさは縦100mm以上、横80mm以上とする。
- (17) [NP] [DP]県名、県番号及び識別マークの表示位置

県名、県番号及び識別マークの表示位置、検査の手順及び提出書類、また大会期間中の装備の交換と修理に関しては、大会ホームページに掲載される大会装備規程に示す。

(18) 各種目のセールに付ける県番号は、下記のとおりとする。

1	北海道	13	東京	25	滋賀	37	徳島
2	青森	14	神奈川	26	京都	38	愛媛
3	岩手	15	山梨	27	大阪	39	高知
4	宮城	16	新潟	28	兵庫	40	福岡
5	秋田	17	長野	29	奈良	41	佐賀
6	山形	18	富山	30	和歌山	42	長崎
7	福島	19	石川	31	鳥取	43	熊本
8	茨城	20	福井	32	島根	44	大分
9	栃木	21	静岡	33	岡山	45	宮崎
10	群馬	22	愛知	34	広島	46	鹿児島
11	埼玉	23	三重	35	山口	47	沖縄
12	千葉	24	岐阜	36	香川		

(19) 競技者への通告は、第79回国民スポーツ大会（わたSHIGA輝く国スポ・障スポ）セーリング競技会ホームページ（以下「大会ホームページ」という。）に設置された公式掲示板に掲示される。公式掲示板はオンラインのみとし、ホームページの不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは、RRS61.1(a)を変更している。

大会ホームページ URL : <https://shiga-kokuspo2025-sailing-otsu.com/>

(20) [NP][DP]競技者は、大会LINEオープンチャット（以下「大会オープンチャット」という。）で情報を得ることが出来る。競技者は大会オープンチャットへ登録しなければならない。ただし、大会オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。

大会オープンチャットへの登録及びオンライン手続きについては、帆走指示書に示す。

## 5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

(1) 総則5に定めるものとする。

なお、少年種別に参加できる選手には、2010年4月2日から2011年4月1日までに生まれた中学3年生を含むものとする。

(2) 同一人の参加は、1都道府県の1種目に限る。

(3) 監督、選手は日本セーリング連盟の有効な2025年メンバー登録者であること。

(4) 当該種別選手は、次の有資格者であること。

ア 成年男子・成年女子 日本セーリング連盟バッジテスト中級4級以上、ただし、国  
スポウインドサーフィン級の選手は日本セーリング連盟ウイ  
ンドサーフィン・バッジテスト8級

イ 少年男子・少年女子 日本セーリング連盟バッジテスト初級5級以上

(5) 選手は、World Sailing 規定 19.4(a)に従うこと。

(6) 監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度に基づく公認セーリングコーチ3または公認セーリングコーチ4の資格を有する者とする。

## 6 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に第1位から第8位までを決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成 年 男 子 成 年 女 子 少 年 男 子 少 年 女 子	成 年 女 子 少 年 女 子	<p>470級、セーリングスピリッツ級及び420級の各種目に1位24点、2位21点、3位18点、4位15点、5位12点、6位9点、7位6点、8位3点の競技得点を与える。</p> <p>ILCA7級、国スポウインドサーフィン級及びILCA6級の各種目に1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点の競技得点を与える。</p> <p>ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものに加え、当該都道府県で等分する。</p>

(2) 参加得点

大会に参加した都道府県に10点を与える。

(3) 各種目のレース得点方法と順位

完了したレースが3レース未満の場合は、艇の得点は全レースの合計得点で順位を決定する。完了したレースが3レース以上の場合は、艇の得点は最も悪いレースの得点を除外したレースの合計得点で順位を決定する。

(4) 参加艇数

各種目の参加艇数は、2025年9月26日（金）午後3時の時点における艇数を参加艇数とする。

## 7 表 彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種目の第1位から第8位までに、賞状を授与する。

## 8 参加申込み方法

- (1) 国民スポーツ大会参加申込システムにより、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2025年8月20日（水）までに申込手続きを完了すること。
- (2) 下記の提出書類は、所定のファイルに添付し、PDF形式の電子データに変換したうえで、2025年8月13日（水）までに電子メールで提出すること。

提 出 先	提 出 書 類
公益財団法人日本セーリング連盟 国スポ委員会 E-mail: kokutai@jsaf.or.jp	参加資格証明書（所定のファイルに添付し、PDF形式の電子データに変換したうえで、電子メールで提出する） 1. 監督・選手は2025年日本セーリング連盟メンバーズカード（電子版） 2. 監督は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録証（裏面）、または電子版登録証 3. 選手は日本セーリング連盟バッジテスト認定証

- (4) 参加申込締切後の選手・監督の交代は、疾病、傷害、転勤等の特別な場合にのみ認めるも

のとし、1種目1名とする。

選手・監督の交代及び棄権については、所定の様式により下記の提出先にメールで届けなければならない。

ア 提出期日 2025年9月26日(金) 午後3時まで

イ 提出先

(ア) 公益財団法人日本セーリング連盟

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

TEL 03-6447-4881 FAX 03-6447-4882

E-mail: kokutai@jsaf.or.jp

(イ) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会事務局

(滋賀県国スポ・障スポ大会局 競技運営室 競技第一係)

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号

TEL 077-528-3324 FAX 077-528-4836

E-mail: kokusupo-sanka@pref.shiga.lg.jp

(ウ) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

(大津市国スポ・障スポ大会局 大会競技課)

〒520-0805

滋賀県大津市石場10番53号

TEL 077-528-0310・0320 FAX 077-522-7766

E-mail: koku-spo.sailing@city.otsu.lg.jp

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

## 9 参加上の注意

- (1) 参加艇及び支援者艇の会場への搬入は、2025年9月23日(火)午前9時から受け入れる。また、搬出は、9月30日(火)から10月1日(水)に実行委員会の搬出計画により行う。
- (2) 各都道府県の検査順は、9月26日(金)8:30に検査会場において、都道府県代表者による抽選で決定する。なお、抽選時に未到着の都道府県については、受付順とする。
- (3) 9月27日(土)は、水上練習を禁止する。
- (4) 支援者艇は、競技者への全ての支援を行うことができる。ただし、支援者艇は大会ホームページに掲載されるサポートチーム規程(STR)に従わなければならない。

## 10 その他

- (1) 帆走指示書は2025年8月31日(日)までに大会ホームページに公開する。
- (2) 大会会長トロフィー返還  
日 時 2025年9月27日(土) 午後4時  
場 所 大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント

# わた SHIGA 輝く国民スポーツ大会セーリング競技大会

## JAPAN GAMES Sailing



### 帆走指示書 (SAILING INSTRUCTIONS)

Organizing Authority (OA): (公財)日本セーリング連盟、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会

[NP]は、この規則の違反を申し立てる艇による抗議は無効であることを意味する。これは RRS 60.1 を変更している。

[SP]は、レース委員会が審問無しに標準ペナルティーを適用することができる規則を意味する。レース委員会は抗議することもでき、その場合は審問を経てプロテスト委員会の裁量でペナルティーが決定される。これは RRS A5 を変更している。

#### 1. 規則

- 1.1. 本大会はセーリング競技規則（以下『RRS』という）に定義された規則を適用する。なお、わた SHIGA 輝く国民スポーツ大会セーリング競技実施要項を[レース公示](#)（以下「NoR」という。）とする。
- 1.2. RRS 70.3(c)及び日本セーリング連盟規程 5.4 に規定されたとおり、プロテスト委員会の判決を最終とする。
- 1.3. 国スポウインドサーフィン級について、RRS B5 中の RRS 60 の変更及び RRS B8 は適用しない。
- 1.4. 参加資格に係る違反及びアンチ・ドーピング規則に対する違反が発生した場合の手続き及び処分内容等の取り扱いについては、国民スポーツ大会諸規程「[国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程](#)」による。

## 2. 帆走指示書の変更

- 帆走指示書（以下「SI」という。）の変更(レース・エリアの変更を含む)は、それが発効する当日の当該種別・種目の最初の予告信号の60分以前までに、公式掲示板に掲示される。
- レース日程の変更は、それが発効する前日の19:00までに公式掲示板に掲示される。

## 3. [DP] [NP] 識別・カメラや電子機器

- 艇はOAにより選択され支給された電子機器を艇の指定された位置に搭載するよう要求されることがある。艇はこの要求に従わなければならない。
- [SP] 競技者は、レース委員会により準備されたトラッキングシステムの端末機器を指定された位置に搭載しなければならない。
- [SP] 端末機器は、レース委員会の指示通り返却しなければならない。なお、トラッキングシステム端末機器受け渡し方法については、別途案内するものとする。

## 4. コミュニケーション

- 競技者への通告は、[公式掲示板](#)（大会 RacingRulesOfSailing.org 以下「大会 RRS.org」という。）に掲示される。[公式掲示板](#)はオンラインのみとし、大会 web サイトで利用できる。サイト等の不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは RRS 61 を変更している。  
大会公式掲示板 URL: <https://www.racingrulesofsailing.org/documents/12341/event>  
大会 web サイト URL: <https://shiga-kokuspo2025-sailing-otsu.com/tournament/>
- [DP]緊急の場合を除き、レース中の艇は、音声やデータを送信してはならず、かつ、すべての艇が利用できない音声やデータ通信を受信してはならない。ただし、レース委員会が用意するトラッキングシステムは含まない。
- 水上ではレース委員会はOAが用意した無線機で支援者に連絡を行う。詳細はサポートチーム規程（STR）に示す。
- [DP][NP]競技者は、大会 LINE オープンチャットで情報を得ることが出来る。ただし、大会 LINE オープンチャットでの選手・監督・支援者からの投稿は認めない。詳細は SI Addendum A を参照のこと。

## 5. [DP] 行動規範

- 競技者は、OA、委員会からの合理的な要求に応じなければならない。
- 競技者および支援者は、OAによって提供された、装備の取扱いを、その使用に関する指示に従い、その機能を妨げることなく、実行しなければならない。

## 6. 陸上で発せられる信号

- 陸上で発する信号は、びわこ大津館前棧橋および大津市柳が崎特設セーリング会場に設置された掲揚ポールに掲揚する。
- [DP][NP] 音響1声とともに掲揚されるD旗は、「予告信号は、D旗掲揚後次に示す分以降に発する。」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、ハーバーを離れてはならない。「D旗」が「クラス旗」の上に掲揚された場合、その種目のみに適用する。

レース・エリア	予告信号は、次に示す分以降
A	40
B	30

- 陸上に回答旗が掲揚された場合は、レース信号回答旗中の「1分」を「次に示す分以降」と置き換える。

レース・エリア	予告信号は、次に示す分以降
A	40
B	30

6.4. [DP][NP] Y旗が掲揚された場合、RRS 40.1の規定に従うこと。

## 7. スケジュール

### 7.1. レース日程

月 日	時間	内容
9月26日 (金)	9:00~17:00	大会装備検査
9月27日 (土)	8:30~10:00	大会装備検査予備日
	11:25~	トライアルレース
	16:00~	大会会長トロフィー返還 (大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント)
	16:30~17:30	監督会議
9月28日 (日)	9:55~	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月29日 (月)	9:55~	最初の種別・種目の予告信号時刻
9月30日 (火)	9:55~	最初の種別・種目の予告信号時刻
10月1日 (水)	9:55~	最初の種別・種目の予告信号時刻
	13:00~13:30	種目別表彰式 (大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント)
	14:00~14:30	種目別表彰式 (大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント)
	15:00~15:40	総合表彰式 (大津市柳が崎特設セーリング会場式典テント)

また、SI Addendum B にレース日程及びレース数詳細を示す。

- 7.2. 各レース・エリアの引続き行うレースは、その前のレースの各種別・種目終了後、引続き行う。
- 7.3. 天候等の事情により、レース日程及びレース・エリアは、レース委員会において変更することがあり、その変更はSI 2に従って行われる。
- 7.4. 1つのレースまたは一連のレースがまもなく始まることを艇に注意喚起するために、予告信号を発する最低5分以前に音響1声とともにオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚する。
- 7.5. 当該種別・種目の1日に実施する最大レース数は4レースとする。
- 7.6. 10月1日(水)には、11時00分より後に予告信号を発しない。

## 8. クラス旗

8.1. 各種別・種目のクラス旗は、以下のとおりとする。

クラス旗	旗色
成年男子	
470 級	白地に青記章
ILCA7 級	白地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	白地に青記章
成年女子	
セーリングスピリッツ級	白地に黒記章
ILCA 6 級	ピンク地に赤記章
国スポウインドサーフィン級	ピンク地に青記章
少年男子	
420 級	白地に青記章
ILCA6 級	黄色地に赤記章
少年女子	
420 級	黄緑地に青記章
ILCA6 級	黄緑地に赤記章

## 9. レース・エリア

- 9.1. SI Addendum C にレース・エリアの位置を示す。
- 9.2. レース・エリアが SI Addendum C のとおりとならなくても、艇からの救済要求の根拠とはならない。この項は、RRS 61.4(b)を変更している。

## 10. コース

- 10.1. SI Addendum E の見取り図は、レグ間の概ねの角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 10.2. 予告信号以前にシグナルポートに、帆走すべきコース及び最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。
- 10.3. コースの短縮は行わない。これは RRS 32 を変更している。
- 10.4. ゲート・マークのいずれかのマークが紛失した場合、残されたマークをポートに見て回航しなければならない。これは RRS 28.1 および 34 を変更している。

## 11. マーク

- 11.1. マークは、次のとおりとする。

レース・エリア	マーク 1, 2	3s,3p, 4s,4p	新しいマーク	スタート・マーク フィニッシュ・マーク
A	ピンク色の円錐台形	オレンジ色のロボットマーク または、ピンク色の円錐台形	黄色の円錐台形	レース委員会船
B	赤色の円錐台形	オレンジ色のロボットマーク または、赤色の円錐台形	黄色の円錐台形に 黒色帯	レース委員会船

## 12. スタート

- 12.1. スタート・ラインは、スタート・マーク上の「オレンジ旗」を掲げたポールのコース側との間とする。
- 12.2. [DP][NP] 他のレースのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、スタート・エリアを回避しなければならない。スタート・エリアはスタート・ラインから 50m 以内のエリアとし、その図を SI Addendum D に示す。
- 12.3. スタート信号の 4 分以降にスタートする艇は DNS と記録される。この項は RRS A5、A10 を変更している。
- 12.4. RRS 30.4 の「セール番号」を「県番号」に置き換える。

## 13. コースの次のレグの変更

- 13.1. コースの次のレグを変更する場合、レース委員会は、次の対応を行う。
- (a) SI 11 に規定する新しいマークを設置する
  - (b) フィニッシュ・ラインを動かす
  - (c) 風下ゲートを動かす
- 13.2. 実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

## 14. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、レース委員会船の青色旗を掲揚しているポールの間とする

## 15. ペナルティー方式

- 15.1. 付則 P を適用する。
- 15.2. 付則 T を適用する。『レース後ペナルティー』を履行した艇は、得点略語「PRP」を用いて記録される。これは、RRS A10 を変更している。

## 16. タイム・リミットとターゲット・タイム

16.1. マーク1のタイム・リミット、レース・タイム・リミット（RRS 35 参照）およびフィニッシュ・ウインドウを下表に示す。

種目	レース・タイム・リミット	マーク1のタイム・リミット	フィニッシュ・ウインドウ	ターゲット・タイム
470 級	60 分	25 分	15 分	40 分
セーリングスピリッツ級	60 分	25 分	15 分	30 分
420 級	60 分	25 分	15 分	40 分
ILCA7 級	60 分	25 分	15 分	40 分
ILCA6 級	60 分	25 分	15 分	40 分
国スポウインドサーフィン級	30 分	15 分	12 分	20 分

16.2. マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しなかった場合には、レースは中止する。

16.3. フィニッシュ・ウインドウとは、最初の艇がコースを帆走した後、艇がフィニッシュする時間のことである。スタートしたが、フィニッシュ・ウインドウ内にコースの帆走ができず、かつ、その後リタイアせず、ペナルティーを課されず、また救済を与えられなかった艇は、審問なしに「フィニッシュしなかった」(DNF)と記録される。これは、RRS 35、A 5.1、A 5.2、A 10 を変更している。

16.4. ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済要求の根拠とはならない。これは RRS 61 を変更している。

## 17. 審問の要求

17.1. 抗議及び救済または審問再開の要求は、大会 RRS.org のオンラインフォーム "[Hearing Request \(審問要求書フォーム\)](#)" により、適切な制限時間内にプロテスト委員会事務局に提出しなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、プロテスト委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。

17.2. それぞれの種別・種目に対して、抗議締切時刻はその日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間とする。ただし、プロテスト委員会の裁量により、この時刻を延長することがある。公式掲示板の「[抗議締切時刻通告](#)」より確認することができる。

レース・エリア	時間
A	80 分
B	60 分

17.3. 審問の当事者であるか、または証人として名前があげられている競技者に審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後 30 分以内に通告を[公式掲示板](#)に掲示する。審問はびわ湖大津館 1 階のプロテスト審問室にて公式掲示板に掲示した時刻に始められる。

17.4. 委員会による抗議の通告を、RRS 60.2(d)に基づき艇に伝えるために[公式掲示板](#)に掲示する。

17.5. RRS 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストを掲示する。

17.6. RRS 63.5(d) に関する事項の「責任ある機関」は本大会のテクニカル委員会である。

17.7. 審問再開は、判決を通告された日の翌日の 9 時 00 分までの間に限り求めることができる。ただし、10 月 1 日(水)に判決を通告された場合には、判決を通告されてから 15 分以内とする。これは、RRS 63.7 を変更している。

17.8. 10 月 1 日(水)では、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は判決の掲示から 15 分以内でなければならない。これは RRS 61.2 を変更している。

17.9. RRS50.1(b)、クラス規則および大会装備規程の違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会の裁量により失格より軽減することができる。

- 17.10. [SP]印の規則の違反と関連するペナルティーのガイドラインは、公式掲示板に掲示され、得点記録の略語は STP とする。これは規則 A10 を変更している。
- 17.11. SI18.2の規定に基づく得点照会に対する回答を受けた後に提出された救済要求は、次の場合、締切時刻を満たしているものとする。
  - 17.11.1.得点照会が、得点またはシリーズ成績の情報が入手可能となった後、常識的にできるだけ早く提出され、かつ
  - 17.11.2.救済要求が、得点照会に対する回答が通知されたあと常識的にできるだけ早くに提出された場合。回答はオンライン・システムによって通知される。この項は RRS 61.2 を変更している。

**18. 得点**

- 18.1. 本大会は各種別・種目とも6レースが予定され、それぞれ1レースの完了をもって成立する。
- 18.2. 艇は、公式掲示板に掲示された得点またはシリーズ成績に誤りがあると判断した場合、大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Scoring Inquiry \(得点照会のフォーム\)](#)”をレース委員会事務局に提出することで、得点及び成績の訂正を要請する事ができる。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、レース委員会事務局に持参して提出することができる。
- 18.3. カットレース
  - 18.3.1. 3 レース未満しか完了しなかった場合、艇のシリーズの得点は、レース得点の合計とする。
  - 18.3.2. 3 レース以上完了した場合、艇のシリーズの得点は、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- 18.4. RRS A5 の「シリーズに参加した艇の数」とは、NoR 6(4)に示す艇数とする。なお、国民スポーツ大会諸規程「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」による違反艇は、シリーズに参加した艇の数から除外する。
- 18.5. 各種目とも、上記得点方法に従い順位を決定し、下記の種目別の競技得点を与える。ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、競技得点は次の順位のものに加え、当該都道府県で等分する。

470 級、セーリングスピリッツ級、420 級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	24 点	21 点	18 点	15 点	12 点	9 点	6 点	3 点

ILCA7 級、ILCA6 級、国スポウインドサーフィン級

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
競技得点	8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

- 18.6. 総合成績決定方法は、下記のとおりとする。
  - 18.6.1. 大会に参加した都道府県に参加得点 10 点を与える。
  - 18.6.2. 男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、SI 18.5.の種目別の競技得点と参加得点（10 点）を合計し、その合計得点が多い都道府県を上位とし第 1 位から第 8 位を決定する。ただし、同点の場合は順位を共有し、その次の順位を欠位とする。
- 18.7. 参加資格違反及び日本アンチ・ドーピング規程違反が確定した艇は、順位を取り消され、違反艇より下位の艇の順位を繰り上げる。またシリーズに参加した艇の数からも削除され、各レースの艇の順位及び得点も変更する。

**19. [NP]安全規定**

- 19.1. チェックアウトチェックイン
  - 19.1.1. [SP]レースに参加しようとする艇は、出艇申告書に艇長が署名しなければならない。また、レースに参加（出艇）しない艇は、その日の予告信号予定時刻の 30 分前までにリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督(代理)が署名しなければならない。

19.1.2. [SP]帰着した艇は、帰着後速やかに、また、その日の当該種別・種目の最終レース終了後、またはレース委員会が、「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後、どちらか遅い方から下記に示す時間以内に帰着申告書に艇長が署名しなければならない。

レース・エリア	時間
A	80 分
B	60 分

19.1.3. 水上でリタイアした艇は、実行可能であればレース・エリアを離れる前に SI 22.の運営船にその旨を伝えること。また、帰着後速やかに SI 19.1.1.のリタイア DNC 申告書に艇長若しくは監督(代理)が署名しなければならない。また、帰着した競技者は、抗議締切り時間内にレガッタオフィスにて「帰着申告書」に署名しなければならない。

19.1.4. [SP]一度ハーバーに帰着した艇 (SI 19.1.3.) 及び、SI 19.1.1.のリタイア DNC 報告の手続きを行った艇が再度レースに参加しようとする (出艇する) 場合、競技者はリタイア DNC 申告書に出艇の申告署名をしなければならない。

19.2. [DP] レース中でない艇は、レース中の艇から離れていなければならない。

19.3. 救助を必要とする艇の乗員は、頭上で手を大きく振って救助要請を行うこと。

19.4. 委員会は、危険な状態にあると判断した艇に対し、リタイアの勧告及び強制救助を行うことができる。これは艇による救済要求の根拠にはならない。これは RRS 61.4(b)を変更している。

19.5. レース委員会が V 旗を掲揚した場合、支援者艇に対する救助要請を示しており、支援者艇はレース委員会の指示に従わなければならない。この項は RRS 37 及びレース信号を変更している。(サポートチーム規程 (STR) 5.1 参照)

## 20. [DP] 装備の交換

20.1. 損傷または紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会に大会 RRS.org のオンラインフォーム“[Equipment Substitution Form \(装備交換フォーム\)](#)”にてテクニカル委員会に行われなければならない。ただし、オンラインフォームにより提出することが困難な場合には、テクニカル委員会事務局で入手できる用紙に記入し、同事務局に持参して提出することができる。また、交換申請の詳細は計測指示書に示す。

## 21. [DP] 装備と計測のチェック

21.1. 艇はレース前の装備検査合格後、最終レース終了までの間常にクラス規則及び大会装備規程に従っていないなければならない。ただし、日常のメンテナンス、テクニカル委員会による許可を受けた修理交換作業中はこの限りではない。

21.2. 水上で艇はフィニッシュ後、テクニカル委員会より、検査のために直ちに指定されたエリアに向かうことを指示されることがある。陸上では、艇または装備がクラス規則、大会装備規程、NoR および SI に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

## 22. 運営船

運営船の標識は次の通りである。

運営船	識別旗
競技委員会船	水色地に白字「VIP」
レース委員会船	ピンク地に赤字「RC」
プロテスト委員会船	黒地に白字「PROTEST」
PRO 船	ピンク地に赤字「PRO」
テクニカル委員会船	緑地に白字「MEASUREMENT」
救助船	赤地に白字「RESCUE」

報道船	青地に白字「MEDIA」
警戒船	赤地に白字「警戒船」

### 23. 支援者艇

支援者艇は、サポートチーム規程（STR）に従わなければならない。

### 24. ゴミの処分

ゴミは支援者艇または運営船に渡してもよい。

### 25. 賞

25.1. 男女総合成績（天皇杯）及び女子総合成績（皇后杯）の第1位から第8位までの都道府県に賞状を授与する。

25.2. 男女総合成績第1位（天皇杯）の都道府県に大会会長トロフィーを授与する。

25.3. 各種目の第1位から第8位までに賞状を授与する。

### 26. リスク・ステートメント

RRS 3 には『レースに参加するか、またはレースを続けるかについての艇の決定の責任は、その艇にのみある。』とある。大会に参加することによって、それぞれの競技者は、セーリングには内在するリスクがあり、潜在的な危険を伴う行動であることに合意し、認めることになる。これらのリスクには、強風、荒れた海、天候の突然の変化、機器の故障、艇の操船の誤り、他艇の未熟な操船術、バランスの悪い不安定な足場、疲労による傷害のリスクの増大などがある。セーリング・スポーツに固有なのは、溺死、心的外傷、低体温症、その他の原因による一生消えない重篤な傷害、死亡のリスクである。

### 27. 肖像権

競技者は、本大会に参加することにより、大会期間中の競技者または装備に関する動画、スチール写真及び撮影された映像またはその製版について、対価を求めることなく、OAに独自の判断で使用する権利を与えるものとする。

### 28. 故意または過失によって生じた損害の補償

OAは、競技者または支援者に対して、その故意または過失によって生じたすべての損害の補償を命じることができる。その損害の補償に関しては、競技委員会の査定に従うものとする。

## SI Addendum A リンク先

### ◇大会ホームページのリンク URL

<https://shiga-kokuspo2025-sailing-otsu.com/>



### ◇大会 LINE オープンチャットのリンク URL

[わた SHIGA 輝く国スポ 2025](#)



- ・大会 LINE オープンチャットへの登録は1艇 最低1名とする。
- ・選手の登録名は「県番号種別種目」とするが、下記表の通りそれぞれ省略した表記とする。

種別	種目	登録用：省略した表記	例：滋賀県の場合
成年男子	470 級	県番号 成男 470 スキッパー	25_成男_470 s
		県番号 成男 470 クルー	25_成男_470 c
	ILCA7 級	県番号 成男 L	25_成男_L
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成男 WS	25_成男_WS
成年女子	セーリングスピリッツ級	県番号 成女 SS スキッパー	25_成女_SS s
		県番号 成女 SS クルー	25_成 Z_SS c
	ILCA6 級	県番号 成女 LR	25_成女_LR
	国スポウインドサーフィン級	県番号 成女 WS	25_成女_WS
少年男子	420 級	県番号 少男 420 スキッパー	25_少男_420 s
		県番号 少男 420 クルー	25_少男_420 c
	ILCA6 級	県番号 少男 LR	25_少男_LR
少年女子	420 級	県番号 少女 420 スキッパー	25_少女_420 s
		県番号 少女 420 クルー	25_少女_420 c
	ILCA6 級	県番号 少女 LR	25_少女_LR

- ・ 監督・コーチの登録名は「県番号名字」とする。(例：滋賀県の鈴木監督→ 25 鈴木 )
- ・ 県番号、種別、種目は\_を入力する事。また、英数字は半角とする。
- ・ LINE での質問、問い合わせは受け付けない。
- ・ 登録に必要なパスワードは申し込み手続き締め切り後、各県連宛メールにて送付する。なお、選手・監督・コーチ以外へのパスワードの開示は厳禁とする。

◇大会公式掲示板 URL

<https://www.racingrulesofsailing.org/documents/12341/event>

大会 RRS.org QRコード

[公式掲示板](#)



[得点照会フォーム](#)



[審問要求書フォーム](#)



[装備交換フォーム](#)



[審問予定](#)



[審問の判決](#)

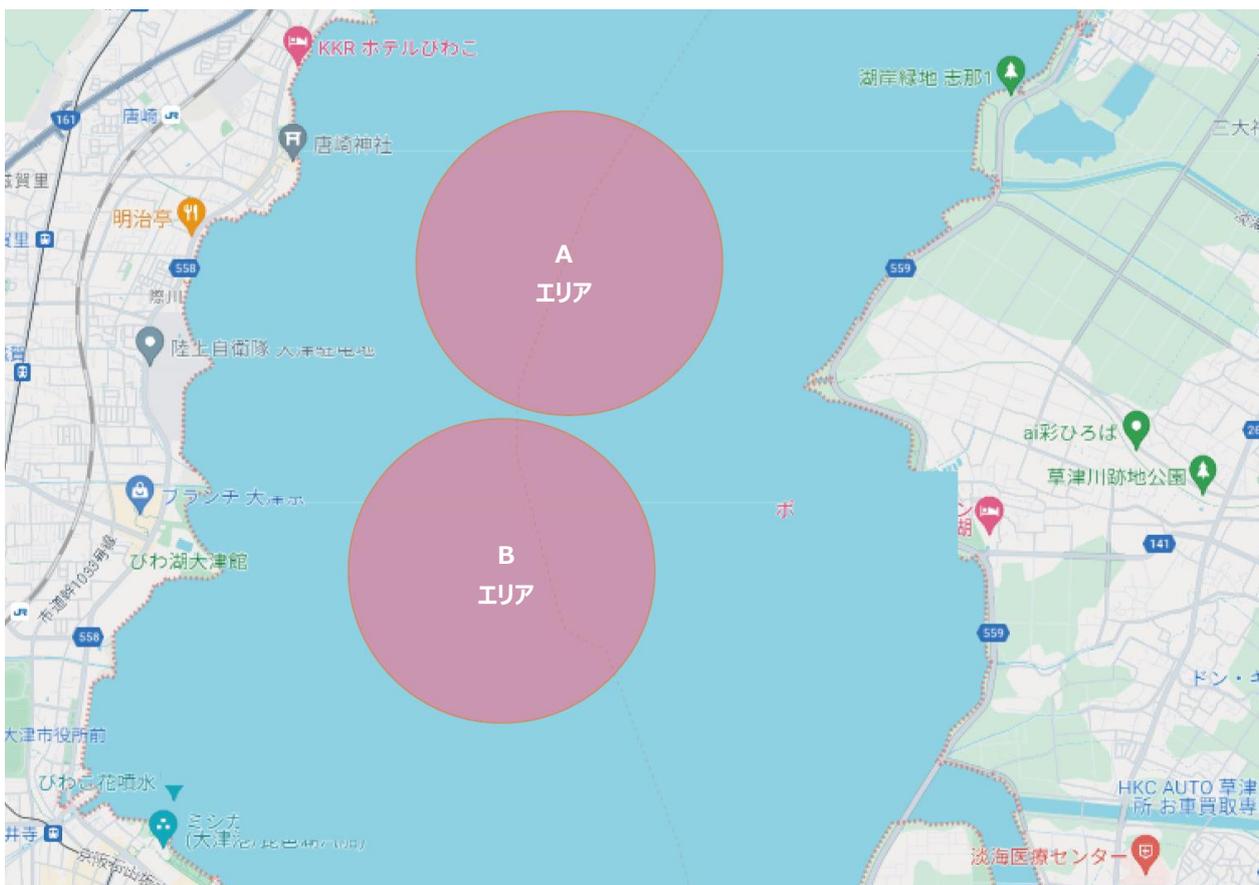


## SI Addendum B レース日程及びレース数

種別	種目	9月27日(土)		9月28日(日)		9月29日(月)		9月30日(火)		10月1日(水)	
		レースNO レース・エリア 予告信号時刻									
成年男子	470 級	A 13:05	TR	A 13:05	R1 R2	A 9:55	R3 R4	A 13:05	R5 R6		
	ILCA7 級	A 13:12	TR	A 13:12	R1 R2	A 10:02	R3 R4	A 13:12	R5 R6		
	国スボウインドサーフィン級	B 13:05	TR	B 14:35	R1 R2	B 14:35	R3 R4	B 14:05	R5 R6		
	セーリングスピリッツ級	B 12:25	TR	B 12:05	R1 R2	B 9:55	R3 R4	B 11:25	R5 R6		
成年女子	ILCA6 級	A 11:39	TR	A 10:09	R1 R2	A 13:19	R3 R4	A 10:09	R5 R6		
	国スボウインドサーフィン級	B 13:12	TR	B 14:42	R1 R2	B 14:42	R3 R4	B 14:12	R5 R6		
	420 級	A 11:25	TR	A 9:55	R1 R2	A 13:05	R3 R4	A 9:55	R5 R6	A 9:55	R6
	ILCA6 級	B 11:25	TR	B 9:55	R1 R2	B 12:05	R3 R4	B 9:55	R5 R6	B 9:55	R6
少年男子	420 級	A 11:32	TR	A 10:02	R1 R2	A 13:12	R3 R4	A 10:02	R5 R6	A 10:02	R6
	ILCA6 級	B 11:32	TR	B 10:02	R1 R2	B 12:12	R3 R4	B 10:02	R5 R6	B 10:02	R6

※TR トライアルレース

## SI Addendum C レース・エリア



AエリアとBエリアの位置は、重ならない範囲で、天候等の事情を勘案してエリアを設定する。

## SI Addendum D スタート・エリア



# SI Addendum E コース図

## I

Course: Inner Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
I2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish
I4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 2 - 3p - Finish

## O

Course: Outer Trapezoid

Signal	Mark Rounding Order
O2	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O3	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish
O4	Start - 1 - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3s/3p - 2 - 3p - Finish

## LG

Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LG2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish
LG4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s - Finish

## LR

Course: Windward/Leeward

Signal	Mark Rounding Order
LR2	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR3	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish
LR4	Start - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4s/4p - 1 - 4p - Finish

# わた SHIGA 輝く国スポセーリング競技大会



## サポートチーム規程 (STR)

### 1 総則

- 1.1 このサポートチーム規程（以下「STR」という。）は、支援者が大会の会場内（陸上及び水上）にいる間常時適用される。
- 1.2 STR は、わた SHIGA 輝く国スポセーリング競技大会レース公示(以下「NoR」という。)に規定された大会の期日（計測・計測を含む）の間適用される。
- 1.3 STR においては、次の定義が適用される。
  - 1.3.1 “支援者（サポートパーソン）”とは、RRS 定義にて定められた人物をいう。
  - 1.3.2 “サポートチーム”とは、各競技者に関連している支援者の集団をいう。
  - 1.3.3 “支援者艇（サポートボート）”とは、サポートチームの管理又は監督下にある船舶をいう。
- 1.4 主催団体は、いつでも支援者艇が STR に従っているかを確認するために検査を行うことがある。支援者艇の責任者は検査に協力しなければならない。
- 1.5 主催団体は、いつでも STR を変更することがある。変更は公式掲示板に掲示される。
- 1.6 主催団体は、その裁量で、適切でないと考える支援者艇の登録を取り消すことがある。
- 1.7 全ての支援者、ドライバー及び支援者艇は、9月26日9時半から開始され、9月27日の9時半までにレース委員会事務局で登録し、識別旗の貸与を受けなければならない。また、貸与された識別旗は、10月1日の13時までにはレース委員会事務局に返却しなければならない。
  - 1.7.1 各支援者艇はインシデント毎に少なくとも 1 億円（又は同等の）を補償する有効な第三者賠償責任保険に加入していなければならない。

- 1.7.2 支援者艇のドライバーは登録されたサポートチームのメンバーでなければならない。
- 1.7.3 主催団体が用意した無線機を、支援者艇の責任者は出艇申告から帰着申告まで、通信可能な状態で無線機を保持しなければならない。(Addendum A)
- 1.8 支援者艇は、水上では常時、主催団体から貸与された識別旗を水面より 1.5m 以上の高さで支援者艇に掲揚しなければならない。

## 2 搬入および停泊

- 2.1 支援者艇は、艇を水面に浮かべる際は指定された斜路／区域を使用すること。艇を浮かべたら、トレーラーは直ちにトレーラー置き場又は主催団体に指示された場所に移動すること。
- 2.2 登録された支援者艇のみが大会会場に入ることを許される。
- 2.3 使用している場合を除き、支援者艇は会場で割り当てられたエリアに適切に係留するものとする。

## 3 安全

- 3.1 支援者艇は、法定備品に加えて以下を艇に積み込んでいなければならない。
  - 3.1.1 主催団体から貸与された識別旗
  - 3.1.2 主催団体が用意した無線機
  - 3.1.3 レース海面の深さに対応する適切なアンカー及び索具〈ロープ等〉
  - 3.1.4 曳船用ロープ（長さ 15 メートル以上で直径 10 ミリメートル以上、2 本）
  - 3.1.5 競技者確保済を識別するための主催団体が用意するカラーリボン
- 3.2 エンジンを使用しギアが入っている時は、常時キルコードをしっかりとドライバーに取り付けていなければならない。
- 3.3 乗員はレスキュー活動ができる体制でなければならない、また艇の定められた最大搭載人員制限の 1/2 を超えてはならない。
- 3.4 支援者艇の登録されたドライバーを含む支援者は、レースオフィシャルズの権限にて与えられた指示に従わなければならない。これには要請された場合の救助作業を含む。
- 3.5 支援者艇のその当日のドライバーは、柳ヶ崎ヨットハーバーにある出艇・帰着申告所で出艇・帰着申告をしなければならない。また、当日の乗員全ての名前を出艇申告書に記載しなければならない。
- 3.6 主催団体から貸与される無線機は、出艇申告時に受け取り、帰着申告時に返却しなければならない。
- 3.7 支援者艇は、競技者同様に SI 6.2 に従わなければならない。

## 4 支援者艇の待機エリア及び制限エリア

- 4.1 支援者艇の待機エリアを Addendum B に示し、制限エリアを Addendum C に示す。
- 4.2 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号から一連のレースの最後にスタートする種別・種目のスタート信号までの間、待機エリアのコース・サイドではない側にいなければならない。
- 4.3 支援者艇は最初にスタートする種別・種目の準備信号からすべての艇がフィニッシュまたはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで制限エリアに侵入してはならない。但し、危険な状態にある艇または乗員の救助を行う場合やレース委員会またはプロテスト委員会の要請があった場合を除く。
- 4.4 引き続きレースが行われる場合には、支援者艇は引き続き STR 4.2 に従わなければならない。
- 4.5 シグナルボート及び運営船に V 旗が掲揚された場合、支援者艇は救助のために制限エリアに入ることができる。

## 5 特別安全規程

- 5.1 レース委員会は、競技者の安全確保のため支援者艇に救助協力を要請する場合、V 旗を掲揚する。その場合、支援者艇はレース委員会からの無線による指示に従い、競技者の救助に協力しなければならない。これは RRS 37 を変更している。
- 5.2 STR 1.7.3 にて主催団体から貸与された無線機は、常時スイッチを入れた状態で保持し、指定のチャンネルで安全交信のみに用いること。
- 5.3 乗員を救助し艇を艇体放棄する場合、支援者艇はその艇のバウへ STR 3.1.5 に規定されたカラーリボンを取り付けること。
- 5.4 V 旗掲揚の有無に関わらず、支援者艇は危険な状態にある艇または乗員を救助しなければならない。

## 6 支援者艇の電子機器

- 6.1 支援者艇は、STR1.7.3 に記載された無線機のみ搭載することができる。
- 6.2 支援者艇及びサポートチームメンバーは、下記の電子機器以外は持ち込み使用してはならない。  
携帯電話、ビデオカメラ、写真機、風速計、風速計器、電子位置システム（GPS）
- 6.3 主催団体より電子位置システムが提供された場合、主催団体の指示に従い水上にいる間常時搭載すること。

## 7 支援者艇の責務

- 7.1 支援者艇及び支援者艇のメンバーは、NOR 及び SI に規定された事項のほか、STR 1.7 の登録と同時に STR が適用されることに同意したものとする。

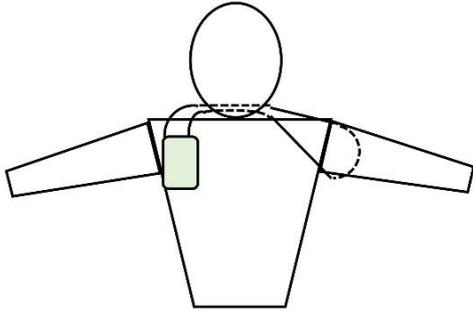
## STR Addendum A

### 無線機の装着方法(参考)

下図のように装着していただくと、ドライビング中でも聞き取り易くなります。

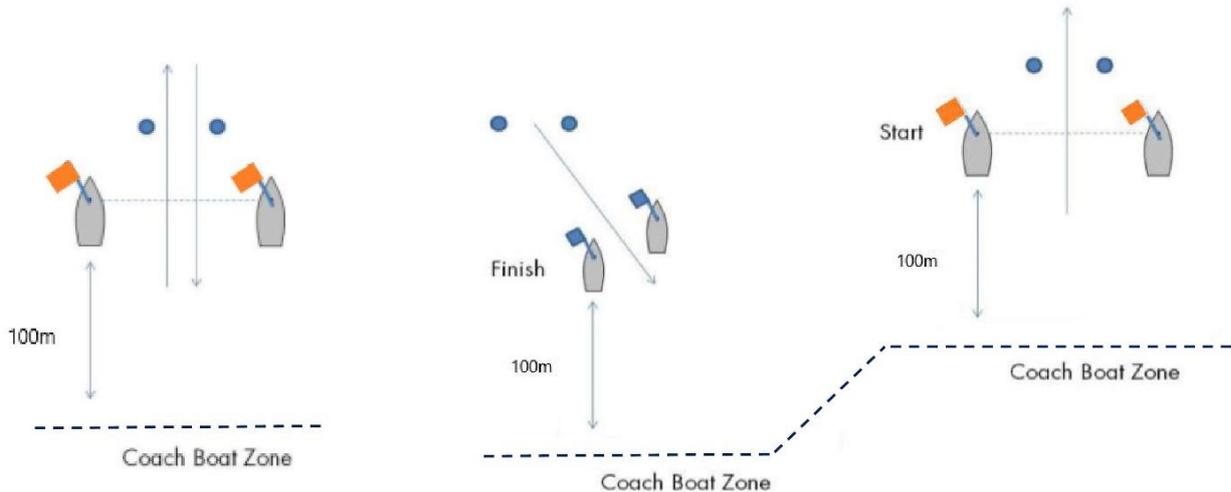
※右の耳元に無線機を保持する場合

- ① ベルトを左の腕にベルトを通す
- ② 無線機を頭の後ろを回し右の胸の前に降ろす
- ③ 右手で操作しやすい位置（鎖骨の辺り）にベルトの長さを調節



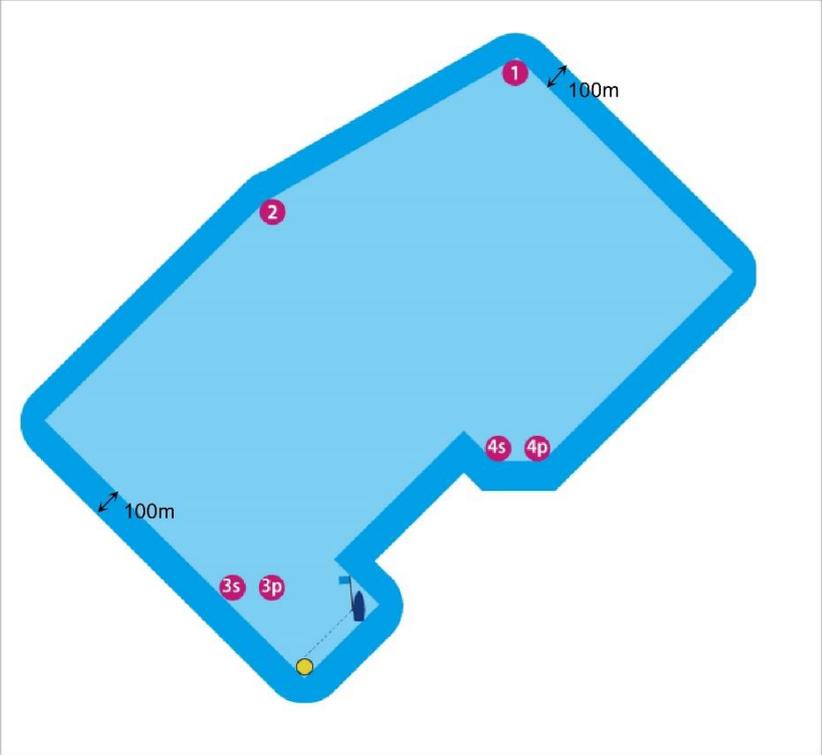
☆無線機が耳元にあるため、リポートを運転していても傍受が可能

## STR Addendum B Waiting areas

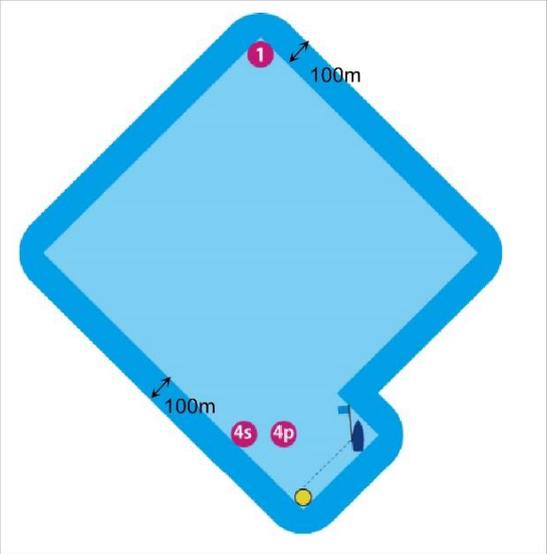


**STR Addendum C** Restricted areas

Course O/I



Course LR





# わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

## 2025



## SHIGA2025 国民スポーツ大会セーリング競技

### 大会装備規程

#### 1 一般要件

- 1.1 本大会に参加するすべての艇はクラス規則及び本指示書、実施要項（レース公示に相当）、帆走指示書に含まれる規則に従い検査される。ただし、各規則間で検査上矛盾が生じる場合はクラス規則及び本指示書が優先する。

#### 1.2 装備の検査（大会計測）の流れ

流れ	留意事項
①受付（総務報道部）	識別マーク（ひし形）・白地シール
②計測シートを用意する	太線枠内を記入しておくこと。（大会 HP テクニカル委員会頁より各自ダウンロードし A4 サイズにて印刷すること）
③計測順番について	各クラスとも実施要項に基づき抽選された順番となる （SS は事前に抽選された順番となります。HP に記載） 9月26日（木）の10：30～10：45 と 12：00～13：00 15：00～15：15 は休憩時間とし計測は行わない。（時間は前後する可能性がある）
	計測日程は実施要項を参照
④必要書類用意	1.4 を参照
⑤各計測所にて受付	1.3 を参照
⑥検査	2 及び 5 を参照

#### 1.3 計測受付・計測場所について（変更になる場合もある）

各計測場所前に各計測受付所があります。

470級	柳が崎ヨットハーバー 第2艇庫
420級	柳が崎ヨットハーバー 第2艇庫
国スポウインドサーフィン級	湖畔公園 大型テント
セーリングスピリッツ級	バース計測（計測員が巡回計測）
ILCA6級 及び ILCA7級	湖畔公園 大型テント

## 1.4 必要書類について

艇種	確認書類	
	計測シート	計測証明書類
470級	必要	MC/MF (計測証明書)
420級	必要	MC/MF (計測証明書)
セーリングスピリッツ級	必要	不要
国スポウインドサーフィン級	必要	不要
ILCA 6級	必要	不要
ILCA 7級	必要	不要

※ 艇体とセール番号が異なる場合は、それぞれの「計測証明書」を持参すること。

※ 計測シートは、太枠内を事前に記入しておくこと。

※ MC/MFは必ず原本を持参のこと。

## 2 装備の検査 (大会計測)

### 2.1 検査対象装備品について

- ① 470級、420級、セーリングスピリッツ級、ILCA 6級、ILCA 7級  
計測する艇体、セール、スパ、艀装品は、1艇1セットとする。
- ② 国スポウインドサーフィン級  
1つのボードに2枚のセールの使用が許可される。  
マストの本数、センターボード・フィンの枚数に制限は無い。使用予定の全ての計測を行う。

### 2.2 検査する艇体、セール、スパ、艀装品等について

#### (1) 470級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダーストックから取り外して持ち込むこと。
- ③ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具 (PFD ; スキッパー、クルー両名) 及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと。

#### (2) 420級の検査準備

- ① 艇は乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② マストを倒し、センターボードを艇体から取り外し、ラダーはラダーストックから取り外して持ち込んで下さい。
- ③ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。少年女子420級は、クラスルールに基づき本指示書6に規定された赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具 (PFD : スキッパー、クルー両名) 及び曳航ロープの確認を行う。PFDはレースで使用するものを持参のこと

#### (3) セーリングスピリッツ級の検査準備

- ① 完全艀装状態で実施する。ただし、セールについては当日指示する。
- ② 曳航用ロープの長さをすぐに計測できるように準備をしておくこと。
- ③ 年登録証の貼り付けを確認しておくこと。
- ④ セールには、本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑤ 個人用浮揚用具 (PFD : スキッパー、クルー両名) の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

#### (4) 国スポウインドサーフィン級の検査準備

- ① ボードは乾燥状態でなければならないが、雨天時は別途TCより指示を行う。
- ② センターボード、フィン、外した状態とする。
- ③ フィンは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるフィンは最も軽いものとする。
- ④ センターボードは使用するものをすべて提示すること。ボードの重量計測に用いるセンターボードは最も軽いものとする。
- ⑤ セールはエリア計測を行なえる状態のこと。(2枚/1艇まで使用許可)
- ⑥ セールは本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。
- ⑦ 成年女子ウインドサーフィン級は、赤色ひし形の識別マークも貼付しておくこと。
- ⑧ 個人用浮揚用具(PFD)の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

#### (5) ILCA 6級・ILCA 7級の検査準備

- ① ボトムマストを立て、ブームをセットした状態でロープ類を艀装し、トップマスト、センターボード、ラダー一式、バテン一式は艇体と一緒に持参のこと。クラスステッカーが見えるようにしておくこと。
- ② コンパスを使用する選手はコンパスを持参すること。
- ③ セールには本指示書6に規定されている位置に県名・県番号シールを貼付しておくこと。  
成年女子 ILCA 6級は、実施要項に規定された赤色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき貼付しておくこと。  
少年男子 ILCA 6級は、実施要項に規定された青色ひし形の識別マークをクラスルールに基づき女子識別マークと同じ位置に貼付しておくこと。
- ④ 個人用浮揚用具(PFD)及び曳航ロープ(8m)の確認を行う。レースで使用するものを持参のこと。

(6) 計測がスムーズに行えるよう、検査に不要なものは降しておく、セールはバッグから取り出しておく等準備しておくことは選手の義務である。

### 3 検査が済んだ艇

- (1) 検査に合格した場合、「計測シート」は返却しない。
- (2) 不合格の場合、「計測シート」を返却する。不合格箇所を修正後に計測シートを持参のうえ計測受付を行い指示に従うこと。
- (3) 検査が終了した装備にはテクニカル委員会によって検査済み証(ステッカーまたはスタンプ)が付される。
- (4) 検査が終了した艇体、ボード、艀装品及びセールはテクニカル委員長の書面による許可無く決められたエリアから持ち出してはならない。

### 4 艇の交換・修理について

#### 4.1 変更

艇が大会計測(検査)を完了した後、通常行われるフィッティング、整備、調整を除き、変更を行ってはならない。

#### 4.2 交換・修理

滋賀国スポHP(URL : <https://shiga-kokuspo2025-sailing-otsu.com/>)より競技関連情報→各種申請→装備品の交換より入力し、申請すること。(racingrulesofsailing.org 滋賀国スポのページに移動します。)

オンラインフォームにより行うことが困難な場合には、「テクニカル委員会」(柳が崎ヨットハーバー艇庫1階1-3)で「装備品の交換」用紙を受け取り、記入後に「テクニカル委員会」に提出すること。

- ① 「テクニカル委員会」が申請を確認後、依頼者に連絡をおこなう。
- ② 修理の手配は各自で行うことテクニカル委員会は修理のアドバイス等を行わない。
- ③ 修理完了後に、「テクニカル委員会」にて交換・修理完了確認、または再計測を行う。

海上にて装備交換の必要が生じた場合は次のレースの準備信号より前に計測艇に口頭で交換の要請をすることができる。近くに計測艇が見つけられない場合 RC 艇、PC 艇に伝えることができる。この場合陸上に戻り次第、当該レース抗議締め切り時刻 30 分前までに上述の装備品の交換申請を行うこと。

注1 艇体、ボード、艀装品及びセールを交換・修理しようとする艇は、上述の通り、必ず「テクニカル委員会」に申請した後に、交換・修理を行うこと。

ただし、国スポウインドサーフィン級において、ボードの 10 mm x10 mm未満の小さな欠け・凹みの充填と滑らか化については選手の責任において修理することを妨げない。(フィンボックス、マストトラッカーに接するものを除く)

注2 「テクニカル委員会」への「装備品の交換」の申請の受付は、その日の最終レース終了後、またはレース委員会が「本日はこれ以上レースを行わない」という信号を発した後のどちらか遅い方から 70 分まで、若しくは 18 時までの遅い方とする。それ以降の申請については翌日 8 時より受付する。

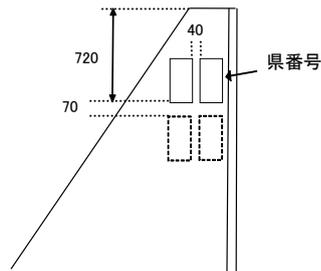
## 5 レース後の検査

各種目とも、各レース終了後に、海上または陸上にて確認検査を行うことがある。対象となった艇は速やかに計測員の指示に従い、確認検査を受けること。正当な理由なく確認検査を受けない艇は抗議の対象となる。

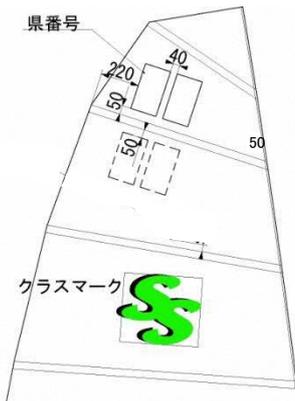
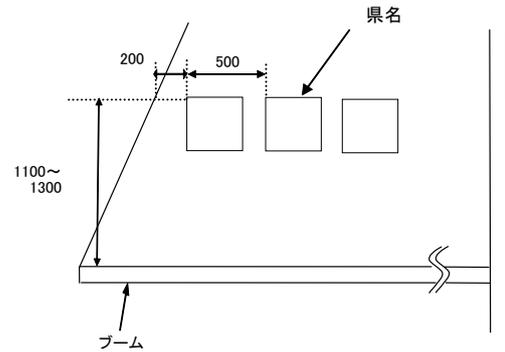
## 6 セール上の識別

- (1) 件名、県番号および識別マークの詳細は実施要項 4 競技上の規定及び方法 による。
- (2) 県名、県番号および識別マーク（ひし形）の表示位置  
表示位置は、原則として次図による。ただし、クラスや国籍を示す記号及びセール番号と重ならないこと。  
1桁の県番号の場合は、2桁県番号表示位置の中間に貼り付けること。  
また、各寸法については多少の誤差は許される。(単位：mm)

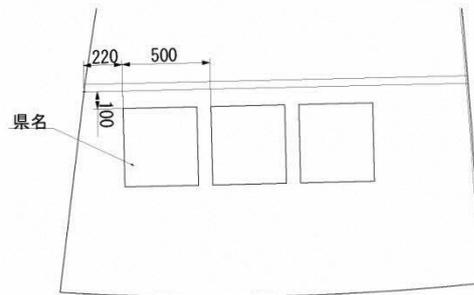
470級 県番号表示位置



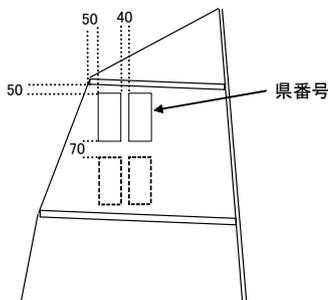
470級・セーリングスピリッツ級ダクロンセール 県名表示位置



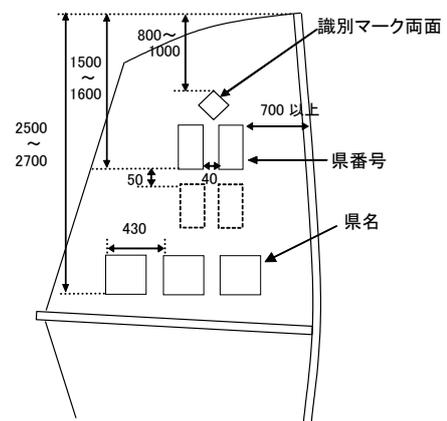
セーリングスピリッツ級マイラーセール 県番号・県名表示位置



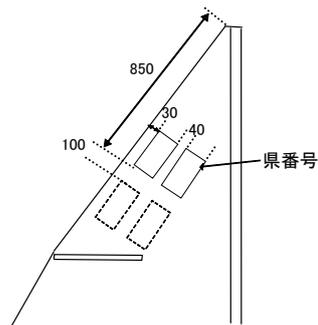
セーリングスピリッツ級ダクロンセール 県番号表示位置



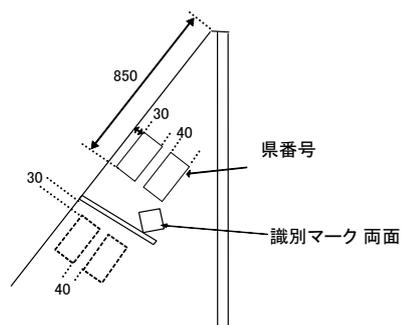
国スポウインドサーフィン級 県番号・県名表示位置



### ILCA7級 県番号表示位置

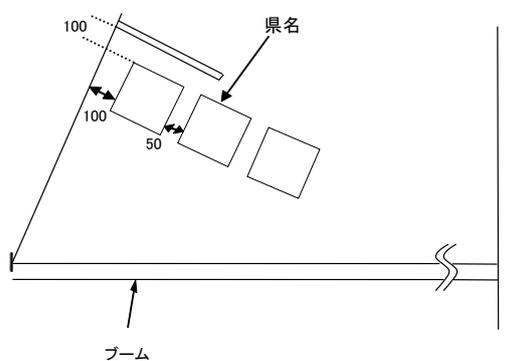


### ILCA6級 県番号表示位置



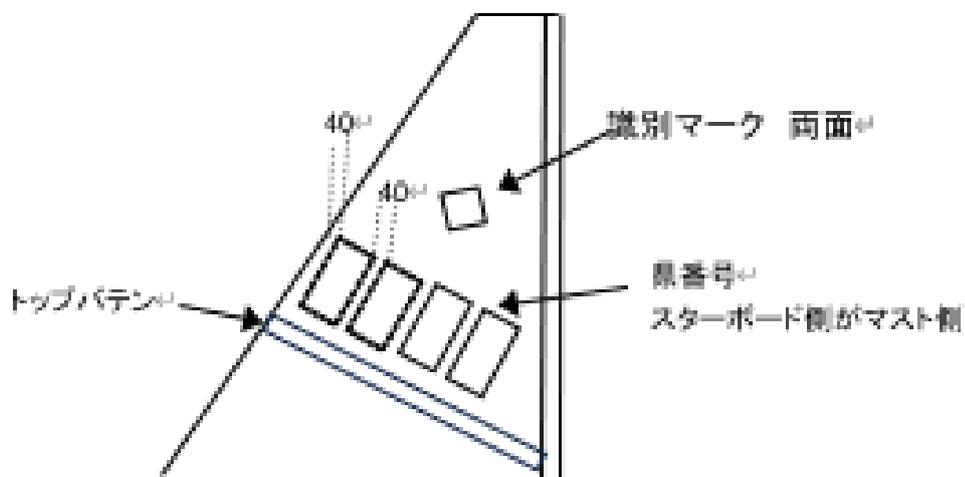
ILCA6の識別マークはILCAハンドブック(2025年版では32ページ)の図に従って貼らなければならない。男子ILCA6級の識別マークも女子識別マークと同じ位置に貼るものとする。

### ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置



※ ILCA7級・ILCA6級 県名表示位置に関して  
ILCAについては「JPN」や「国旗」の表示は認められない。

### 420級 県番号表示位置



# 式典次第

## 【開始式 大会会長トロフィー返還】

1. 日時 2025年9月27日(土) 16:00~16:30
2. 会場 大津市柳が崎特設セーリング会場 大型テント
3. 式次第

開式予告	15:50
役員・選手着席	15:55
開式通告	16:00
競技会開始宣言	16:01
国旗儀礼	16:02
大会旗儀礼	16:04
大会会長トロフィー返還	16:06
競技会会長あいさつ	16:08
歓迎のことば	16:12
登壇者の紹介	16:20
選手宣誓	16:23
閉式通告	16:25
役員・選手退席	16:26

## 【種目別表彰式～前半の部～】

1. 日時 2025年10月1日(水) 13:00~13:30
2. 会場 大津市柳が崎特設セーリング会場 大型テント
3. 対象種目 2025年9月30日(火)までに終了した種目
4. 式次第

開式予告	12:50
役員・選手着席	12:55
開式通告	13:00
種目別成績発表	13:01
種目別表彰	13:07
閉式通告	13:29
役員・選手退席	13:30

## 【種目別表彰式～後半の部～】

1. 日 時 2025年10月1日(水) 14:00～14:30
2. 会 場 大津市柳が崎特設セーリング会場 大型テント
3. 対象種目 2025年10月1日(水)に終了した種目
4. 式次第

開 式 予 告	13:50
役員・選手着席	13:55
開 式 通 告	14:00
種目別成績発表	14:01
種 目 別 表 彰	14:05
閉 式 通 告	14:27
役員・選手退席	14:28

## 【総合表彰式】

1. 日 時 2025年10月1日(水) 15:00～16:00
2. 会 場 大津市柳が崎特設セーリング会場 大型テント
3. 式次第

開 式 予 告	14:50
役員・選手着席	14:55
開 式 通 告	15:00
綜 合 成 績 発 表	15:00
表 彰 状 授 与	15:06
大会会長トロフィー授与	15:21
競技会会長あいさつ	15:25
感 謝 状 贈 呈	15:35
歡 送 の こ と ば	15:40
国 旗 儀 礼	15:50
大 会 旗 儀 礼	15:53
競 技 会 終 了 宣 言	15:56
閉 式 通 告	15:58
役員・選手退席	16:00

## ◇セーリング競技の見方◇

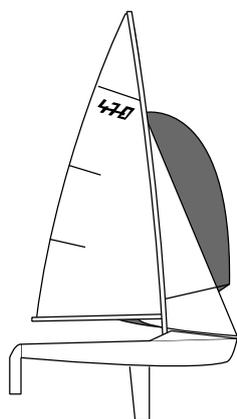
### セーリング競技について

セーリング競技は、ジュニアから高齢者まで幅広い年齢層で楽しめる生涯スポーツであり、自然を相手に風と波だけを動力として船を走らせる、環境に優しいスポーツです。

セーリング競技大会は、オリンピック競技を始めアジア大会、世界選手権等多くの大会が国内外で開催され国民スポーツ大会においては、昭和21年の第1回大会から採用されています。

### 国スポで採用されているヨットの種類 《2人乗り》

#### 470級(成年男子)



【全長】：4.7m 【幅】：1.68m  
【セール面積】：26.6㎡

470級は3枚の帆を使って走るプレーニングタイプ（滑走）のヨットで、オリンピック種目に採用されていることから、実業団、大学生、一般等で幅広く普及しています。

乗員の適正体重は2人の合計で130kg前後とされ、オリンピック種目の中でも最も軽量のクラスで、比較的に日本人向きであると言われています。

#### セーリングスピリッツ級(成年女子)



【全長】：4.3m 【幅】：1.74m  
【セール面積】：27.6㎡

セーリングスピリッツ級は、世界の流れに合わせて日本セーリング連盟が開発したハイ・パフォーマンスな2人乗りヨットで、風下に向けてジェネカーセール(先頭にある帆)を展開すると、ハイスピードでパワフルなセーリングを楽しむことができます。

#### 420級(少年男子・少年女子)



【全長】：4.2m 【幅】：1.63m  
【セール面積】：22.05㎡

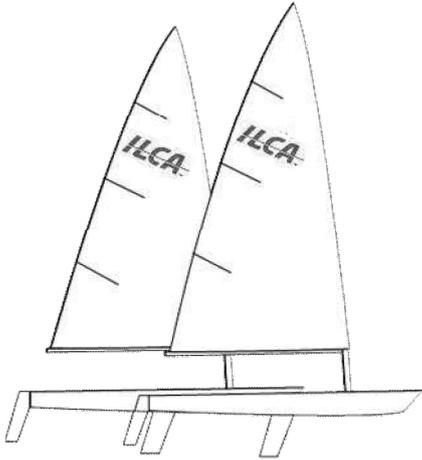
420級は、ISAF認定されたインターナショナルクラスで、世界的に普及しています。

大きな浮力タンクがあり、転倒状態でも艇は非常に安全です。世界中でユース世代のトレーニングボートとして活用され、平成27年高校総体和歌山インターハイ、和歌山国体から導入された種目です。

## 《 1 人乗り 》

ILCA 7 級(成年男子)

ILCA 6 級(成年女子・少年男子・少年女子)

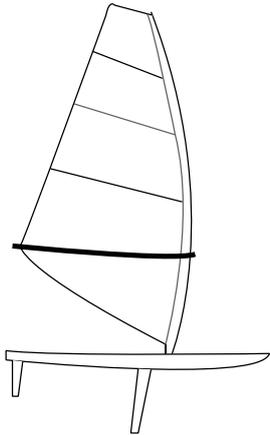


【全長】：4.23m 【幅】：1.37m  
【ILCA 7 級セール面積】：7.06㎡  
【ILCA 6 級セール面積】：5.7㎡

ILCA 7 級と ILCA 6 級は同じ艇体を使用し、2本つなぎのマストの下部の長さを変えて使用します。

オリンピック種目に採用されていることから、ジュニアから一般まで幅広く普及していますが、強風時は、体力と気力の勝負になります。

国スポウインドサーフィン級(成年男子・成年女子)



【全長】：2.7～3.1m  
【幅】：1.005m以下  
【セール面積】：8.0㎡以下

国スポウインドサーフィン級はワンデザインクラスではなく、規則に適合すれば、どこかのメーカーのボード・リグ・セールも使用できます。スピード感あふれるセーリング競技の中でも、最も体力が要求されます。

サーフボードとセールのためのシンプルな構造で、風速が6m/sを超えると、飛ぶように走ります。

## 都道府県別 参加申込 一覧表

地区	番号	都道府県	成 年				少 年			合 計			総計
			監督		選手		監督	選手		監督		選手	
			専任	兼任	男子	女子	専任	男子	女子	専任	兼任		
北海道	1	北海道		(1)	3	1	1	3	1	1	(1)	8	9
東北	2	青森県	1		4	0	1	3	1	2	(0)	8	10
	3	岩手県	1		4	3	1	2	3	2	(0)	12	14
	4	宮城県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
	5	秋田県	1		2	2	1	1	3	2	(0)	8	10
	6	山形県	1		1	0	1	1	0	2	(0)	2	4
	7	福島県	1		3	1		0	0	1	(0)	4	5
関東	8	茨城県	1		4	3	1	3	2	2	(0)	12	14
	9	栃木県		(1)	1	1		0	0	0	(1)	2	2
	10	群馬県	1		4	1		0	0	1	(0)	5	6
	11	埼玉県	1		3	1		0	0	1	(0)	4	5
	12	千葉県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	13	東京都	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	14	神奈川県	1		4	3	1	3	1	2	(0)	11	13
北信越	15	山梨県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13
	16	新潟県	1		2	1	1	1	1	2	(0)	5	7
	17	長野県	1		3	3	1	1	1	2	(0)	8	10
	18	富山県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
	19	石川県	1		3	1	1	3	2	2	(0)	9	11
東海	20	福井県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13
	21	静岡県	1		4	3	1	3	1	2	(0)	11	13
	22	愛知県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	23	三重県	1		4	1	1	3	2	2	(0)	10	12
近畿	24	岐阜県		(1)	3	3	1	3	3	1	(1)	12	13
	25	滋賀県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	26	京都府	1		4	4	1	3	2	2	(0)	13	15
	27	大阪府	1		2	4	1	3	3	2	(0)	12	14
	28	兵庫県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	29	奈良県	1		1	1	1	1	0	2	(0)	3	5
中国	30	和歌山県	1		4	2	1	3	3	2	(0)	12	14
	31	鳥取県	1		3	0	1	3	3	2	(0)	9	11
	32	島根県	1		2	1	1	2	1	2	(0)	6	8
	33	岡山県	1		4	3	1	3	0	2	(0)	10	12
	34	広島県	1		4	3	1	3	3	2	(0)	13	15
四国	35	山口県	1		3	3	1	3	3	2	(0)	12	14
	36	香川県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	37	徳島県	1		4	0		0	0	1	(0)	4	5
	38	愛媛県	1		2	2	1	3	0	2	(0)	7	9
九州	39	高知県	1		3	3	1	1	0	2	(0)	7	9
	40	福岡県	1		4	4		3	3	1	(0)	14	15
	41	佐賀県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	42	長崎県	1		4	3	1	3	2	2	(0)	12	14
	43	熊本県	1		3	3	1	1	0	2	(0)	7	9
	44	大分県	1		4	4	1	3	3	2	(0)	14	16
	45	宮崎県	1		4	4	1	3	1	2	(0)	12	14
九州	46	鹿児島県		(1)	4	2	1	3	1	1	(1)	10	11
	47	沖縄県	1		4	1	1	3	3	2	(0)	11	13
合計			43	(4)	157	111	41	110	85	84	(4)	463	547
					268				195				

※ 選手兼任監督の人数は、監督の「兼任」欄に記入し、選手数としてカウントする。

## 監督名（成年・少年）一覧表

県番	都道府県	成年		少年	
		氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	阿部 佳苗	北海道苫小牧東高等学校(教)	高橋 憲太	北海道小樽水産高等学校(教)
2	青森県	浅利 正	青森県セーリング連盟	小田桐 俊亮	森田麴・味噌店
3	岩手県	越田 幸樹	宮古市役所	佐藤 裕典	東京エレクトロン・テクノロジーソリューションズ株式会社
4	宮城県	天野 宏二	仙台第二高等学校(教)	伊藤 嘉宣	石巻高等学校(教)
5	秋田県	高橋 陵	株式会社 トータルリパー	岡崎 真一郎	ニュータウンさくら薬局
6	山形県	田中 博志	山形県セーリング連盟	阿部 力	日本郵便株式会社
7	福島県	齋藤 道明	福島県立小名浜海星高等学校(教)		
8	茨城県	木村 俊介	株式会社筑波銀行	西村 祐司	霞ヶ浦高等学校(教)
9	栃木県	小嶺 恵美	(公財)栃木県スポーツ協会		
10	群馬県	中川 淳	県セーリング連盟		
11	埼玉県	谷 正安	川口市役所		
12	千葉県	斉藤 威	千葉県セーリング連盟	天貝 謙介	千葉市立稻毛高等学校(教)
13	東京都	大島 卓也	岩城製菓株式会社	池田 知之	株式会社グッドウィン
14	神奈川県	佐々木 共之	横浜市消防局 金沢消防署	高橋 昌威	キンドリル ジャパン(株)
15	山梨県	牧井 修一	株式会社富士急ハイランド	三浦 国彦	株式会社ユニマツライフ
16	新潟県	津野 洋	敦井産業(株)	成山 義人	新潟県庁
17	長野県	本山 誠	自営(トライ・ツ・ムス)	進藤 一樹	(株)サイサン
18	富山県	岡田 一広	(株)エイ・テック	埜島 凧咲	新湊高等学校(教)
19	石川県	南 健介	石川県立羽咋工業高等学校(教)	岩城 宏志	石川県立羽咋工業高等学校(教)
20	福井県	大垣 昭彦	福井県立若狭東高等学校(教)	金池 崇	福井県立三国高等学校(教)
21	静岡県	中嶋 浩二郎	NPO法人 静岡県セーリング連盟	中島 量敏	(株)平和テクノシステム
22	愛知県	竹内 康人	株式会社アイシン	山田 健一郎	碧海冷蔵製氷株式会社
23	三重県	杉谷 典明	本田技研工業株式会社鈴鹿製作所	伊藤 秀郎	三重県立津工業高等学校(教)
24	岐阜県	日比野 絵美	株式会社OKBビジネス	水谷 浩也	岐阜県立海津明誠高等学校(教)
25	滋賀県	兵藤 和行	PONTE BLUE	中村 滋男	オムロン株式会社
26	京都府	坂 文彦	京都府セーリング連盟	大江 信	宮津市教育委員会
27	大阪府	岩崎 洋一	関西映興株式会社	藤原 洋彰	関西映興株式会社
28	兵庫県	西尾 隆	兵庫県立海洋体育館	中澤 暁子	兵庫県セーリング連盟
29	奈良県	森谷 大悟	株式会社ファルコバイオシステムズ	橋本 知香	奈良県セーリング連盟
30	和歌山県	中村 厚子	和歌山セーリングクラブ	高橋 航	和歌山県立星林高等学校(教)
31	鳥取県	中村 昭仁	境港市役所	阿部 幸久	公益財団法人鳥取県スポーツ協会
32	島根県	中西 賢一	隠岐の島町五箇生涯学習センター	大門 伸之	島根県庁
33	岡山県	小西 立碁	岡山県立邑久高等学校(教)	西岡 正人	岡山県立倉敷鷺羽高等学校(教)
34	広島県	小菅 正幸	(株)砂原組	坂本 亘	広島県立広島国泰寺高等学校(教)
35	山口県	中村 公俊	公益財団法人山口県ひとづくり財団	中村 光恵	公益財団法人山口県ひとづくり財団
36	香川県	齋藤 修	高松市議会	九畠 潤一郎	B&G高松海洋クラブ
37	徳島県	澳津 康賀	徳島県セーリング連盟		
38	愛媛県	大槻 映幸	松山酸素株式会社	望月 航	愛媛県立新居浜東高等学校(教)
39	高知県	文野 順夫	高知県セーリング連盟	井土 晴喜	とさ自由学校(教)
40	福岡県	吉岡 岳史	Hundred	立石 欣也	福岡県立水産高等学校(教)
41	佐賀県	保利 守男	唐津市スポーツ協会	宮野 幹弘	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県	西村 隆	西部ガスリビング株式会社	本村 翔太	信越石英株式会社
43	熊本県	村上 裕一	熊本市消防局西消防署	境 香苗	熊本市立力合中学校(教)
44	大分県	五十川 浩司	津久見市役所	河野 義樹	大分市役所
45	宮崎県	橋口 昭彦	宮崎県セーリング連盟	平島 昇	県立日南振徳高等学校(教)
46	鹿児島県	元津 大地	鹿児島県セーリング連盟	勝田 哲英	鹿児島県立垂水高等学校(教)
47	沖縄県	有銘 兼一	沖縄県セーリング連盟	崎原 恒佑	沖縄県セーリング連盟

## 成年男子 470級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	西川 拓志	北海道大学	河田 航平	北海道大学
2	青森県	小濱 暖士	株式会社青森みちのく銀行	小田切 詞音	日本経済大学
3	岩手県	村上 凌哉	岩手県庁	瀬川 雄史	ヤンマー船用システム株式会社
4	宮城県	渡邊 凌大	東北大学	岡 勢太郎	東北大学
5	秋田県	與齊 将太	合同会社 よさい	鈴木 智之	ダイニチ工業 株式会社
6	山形県				
7	福島県	渡辺 一弘	K-スタイル	長谷川 航海	K-スタイル
8	茨城県	早川 大翔	明治大学	鈴木 海翔	中央大学
9	栃木県				
10	群馬県	乾 太一郎	県セーリング連盟	松井 康起	金沢大学
11	埼玉県	柳内 航平	日本駐車場開発(株)	出本 稜太	川崎汽船(株)
12	千葉県	三村 颯斗	株式会社 京葉銀行	吉野 佑哉	神奈川大学
13	東京都	小柳 倫太郎	株式会社ヴィス	齊藤 崇	大和証券株式会社
14	神奈川県	林 玄	ソフトバンク株式会社	久保田 賢人	J-Line株式会社
15	山梨県	渡辺 隆蔵	ペンションノーティカオン	羽田 玲	キャノンアネルバ株式会社
16	新潟県				
17	長野県	高橋 篤実	カヤバ(株)	白澤 宗志	長野県庁
18	富山県	村瀬 慎太郎	東洋検査工業(株)	岡田 雅樹	和歌山大学
19	石川県	瀧川 明生	石川県立七尾東雲高等学校(教)	中村 烈	みづほ工業株式会社
20	福井県	牧村 祐樹	小浜信用金庫	東野 良治	有限会社アルファブラン
21	静岡県	渡辺 駿	(株)丸玉運送	西谷 航平	東海大学
22	愛知県	樋口 舵	三井住友海上火災保険株式会社	若山 寛典	愛知県ヨット連盟
23	三重県	若林 幸輝	三重大学	川戸 洋平	株式会社百五銀行
24	岐阜県	児玉 洋輝	株式会社豊田自動織機	守屋 晴喜	大垣消防組合
25	滋賀県	大石 駿水	公益財団法人滋賀県スポーツ協会	山田 海統	神戸大学大学院
26	京都府	増田 吉彦	株式会社 島津製作所	吾妻 隆一良	京都府立医科大学
27	大阪府				
28	兵庫県	神木 聖	ヤマハ発動機株式会社	俣江 広敬	株式会社みずほ銀行
29	奈良県				
30	和歌山県	上原 慎平	明海大学	平北 悠斗	関西学院大学
31	鳥取県	小泉 凱皇	公益財団法人鳥取県スポーツ協会	宮崎 朝光	鳥取県地域社会振興部スポーツ振興局スポーツ課
32	島根県				
33	岡山県	明石 光弘	興南設計株式会社	多田 智紀	ヤマト運輸(株)
34	広島県	前田 海陽	広島大学	平尾 圭	広島大学
35	山口県	杉原 豪	日本大学	三浦 匠	公益財団法人山口県ひとつくり財団
36	香川県	谷 凜太郎	同志社大学	酒巻 祐成	同志社大学
37	徳島県	中野 太洋	城西高等学校神山校(教)	鎗場 翔希	徳島大学
38	愛媛県	市川 悠斗	松山酸素株式会社	谷口 慎治	株式会社広島銀行
39	高知県	青木 真	高知県立嶺北高等学校(教)	茨木 恵信	高知大学
40	福岡県	濱田 登羽	日本経済大学	関 蒼太	日本経済大学
41	佐賀県	池田 龍平	福岡大学	太田 尊士	日本経済大学
42	長崎県	橋本 升樹	株式会社Dream	松原 慎弥	長崎県セーリング連盟
43	熊本県	光永 雅翔	崇城大学	藤井 琢巳	熊本大学
44	大分県	高山 大智	ヤマハマリーナ株式会社	疋田 大晟	ヤマハ発動機株式会社
45	宮崎県	宮本 健吾	植松商事	今津 雄登	(株)サザンクロスシステムズ
46	鹿児島県	元津 大地	鹿児島県セーリング連盟	田中 健太郎	三島村役場
47	沖縄県	烏田 亮平	株式会社シーエー・アドバンス	前田 直樹	(株)大衆自動車商会

## 成年男子 ILCA7級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	作田 洋二	石狩市教育委員会
2	青森県	小笠原 規安	青森県セーリング連盟
3	岩手県	齊藤 零	千葉大学
4	宮城県	小野寺 正一郎	S.TRADES
5	秋田県		
6	山形県	冨樫 力	全農ライフサポート山形株式会社
7	福島県	佐藤 正志	有限会社佐藤会計事務所
8	茨城県	岩田 慧吾	株式会社識学
9	栃木県		
10	群馬県	大川 晃弘	県セーリング連盟
11	埼玉県		
12	千葉県	田淵 靖浩	株式会社くふうカンパニー
13	東京都	大塚 邦弘	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)
14	神奈川県	岡田 佳悟	早稲田大学
15	山梨県	坂本 宇央	株式会社東邦建設工業
16	新潟県	諸橋 春雄	NECフィールディング(株)
17	長野県	井上 瑤	上伊那広域消防本部
18	富山県	沢田 二二男	タワーパートナーズセミコンダクター(株)
19	石川県	北原 勝祥	株式会社ウイルテック
20	福井県	岩谷 昌慶	株式会社福井村田製作所
21	静岡県	杉山 航一朗	(株)ブルーオーシャンシステム
22	愛知県	永井 久規	豊田合成株式会社
23	三重県	黒田 浩渡	ナブテスコ株式会社
24	岐阜県	加藤 文弥	海津市役所
25	滋賀県	安田 真之助	滋賀県立膳所高等学校(教)
26	京都府	宿見 玲緒	山中産業 株式会社
27	大阪府	竹内 修祐	パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション株式会社
28	兵庫県	水田 隆文	LEGIT
29	奈良県	福田 育弘	日本国土開発
30	和歌山県	中村 悠耶	大阪体育大学大学院
31	鳥取県	瀬川 和正	公益財団法人鳥取県スポーツ協会
32	島根県	大国 明太郎	(株)名門大洋フェリー
33	岡山県	岩崎 裕児	三菱自動車工業株式会社水島製作所
34	広島県	前田 博志	マツダ(株)
35	山口県		
36	香川県	南原 健一	(株)JERA
37	徳島県	長久 虎太郎	徳島大学
38	愛媛県		
39	高知県	松井 孝汰郎	大阪大学
40	福岡県	豊澄 成光	九州大学
41	佐賀県	南里 研二	株式会社ミゾタ
42	長崎県	奥田 耕大	九州建設コンサルタント株式会社
43	熊本県		
44	大分県	一木 健吾	株式会社 大分銀行
45	宮崎県	折田 広大	県立日南振徳高等学校(教)
46	鹿児島県	木田 丞志郎	鹿児島国際大学
47	沖縄県	新垣 大智	Nice Time Okinawa

## 成年男子 国スポウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道		
2	青森県	堀内 大輔	八戸市立市民病院
3	岩手県	伊藤 茂夫	ムラテック
4	宮城県		
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	永井 稜大	文化シャッター株式会社
9	栃木県	齋藤 海斗	岡三リビック(株)
10	群馬県	青木 佑輔	前橋市役所
11	埼玉県	田中 洋治郎	日本紙パルプ商事(株)
12	千葉県	中村 幸太郎	富士通株式会社
13	東京都	高津 一晃	東京建物株式会社
14	神奈川県	池田 拓海	アクサ生命保険株式会社
15	山梨県	甲斐 祥文	多摩川エアロシステムズ株式会社
16	新潟県	大岩 諒馬	(株)リプロネクト
17	長野県		
18	富山県		
19	石川県		
20	福井県	岩永 智洋	福井総合クリニック
21	静岡県	市川 和典	ヤマハ発動機(株)
22	愛知県	粕山 和慶	株式会社豊田自動織機
23	三重県	大瀬 快ヘルマン	蒲郡市民病院
24	岐阜県		
25	滋賀県	板庇 雄馬	有限会社かんとりーはーばー
26	京都府	齋藤 雄吾	株式会社 京都銀行
27	大阪府	山本 遼	大阪府立吹田高等学校(教)
28	兵庫県	稲垣 瑠晟	ブルータートルファーム株式会社
29	奈良県		
30	和歌山県	尾川 潤	株式会社島精機製作所
31	鳥取県		
32	島根県	作野 達雄	中国環境テクノス(株)
33	岡山県	條本 和宏	瀬戸内市役所
34	広島県	佐藤 誠記	三親電材(株)
35	山口県	神田 俊斗	明治大学
36	香川県	上田 武司	(株)タダノ
37	徳島県	釜谷 駿	トヨタ自動車株式会社
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	村田 高亮	(株)東栄住宅
41	佐賀県	倉持 大也	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県	水田 長兵	恵愛会 大分中村病院 訪問看護ステーション
43	熊本県	河野 宏和	堤齒科医院
44	大分県	島 充希	大分大学
45	宮崎県	西岡 秀樹	宮崎県立延岡病院
46	鹿児島県	有園 昂世	鹿児島大学
47	沖縄県	栗原 湧	ブルーリゾート開発(株)

## 成年女子 セーリングスピリッツ級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道				
2	青森県				
3	岩手県	佐々木 光	岩手県立宮古病院	藤田 沙椰華	岩手県セーリング連盟
4	宮城県	齋藤 麻央	新潟大学	阿部 汐里	仙台医療センター附属仙台看護助産学校
5	秋田県	佐藤 瑞貴	横手市役所	松田 のどか	株式会社 アルファシステムズ
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	仲 美南	湯河原町消防本部	宮本 あかり	青山学院大学
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	三浦 帆香	神奈川大学	市村 みずき	株式会社Q'sfix
13	東京都	吉田 愛	株式会社ピアソンマリッジジャパン	東道 すず	早稲田大学
14	神奈川県	矢口 梨絵	(株)ノースセール・ジャパン	須永 笑顔	住友生命保険相互会社
15	山梨県				
16	新潟県				
17	長野県	矢口 文香	長野信用金庫	白澤 よしの	佐久市役所
18	富山県	栗原 こまき	日本郵便(株)	本田 有咲	(株)インテック
19	石川県				
20	福井県				
21	静岡県	山崎 彩加	同志社大学	東田 茉莉瑛	(株)中日新聞社
22	愛知県	岩月 愛望	トヨタ自動車株式会社	吉野 花梨	名古屋大学大学院
23	三重県				
24	岐阜県	堀畑 南帆	瑞穂市立穂積小学校(教)	日比野 絵美	株式会社OKBビジネス
25	滋賀県	續木 茄可	滋賀中央信用金庫	福田 桃奈	公益財団法人滋賀県スポーツ協会
26	京都府	側田 晴楽	株式会社 ユニマツプレシヤス 三河みとマリーナ	関端 陽乃	同志社大学
27	大阪府	河合 由香	河合利紀税理士事務所	山下 かおり	近畿地方更生保護委員会
28	兵庫県	伊東 里菜	兵庫県セーリング連盟	藤尾 万唯華	兵庫県セーリング連盟
29	奈良県				
30	和歌山県				
31	鳥取県				
32	島根県				
33	岡山県	佐野 佑莉	一般財団法人岡山県牛窓海洋スポーツ振興会	金高 伽耶	瀬戸内市教育委員会
34	広島県	小菅 楓	山田コンサルティンググループ(株)	浅田 愛子	広島県セーリング連盟
35	山口県	中村 佳純	関西学院大学	松原 果保	日本大学
36	香川県	片岡 久恵	シーガル	新地 智子	シーガル
37	徳島県				
38	愛媛県	真鍋 ひかる	日泉化学株式会社	西村 愛恵	四国中央市立川之江南中学校(教)
39	高知県	木野下 杏	高知大学	田中 愛海	高知大学
40	福岡県	岩本 沙織	広川町役場	永見 綾子	福岡県セーリング連盟
41	佐賀県	中山 由菜	SAGA SAILING	宮崎 歩美	九州電力送配電株式会社
42	長崎県	森濱 美咲	星野管工設備株式会社	山口 菜華	鹿屋体育大学
43	熊本県	西澤 佳菜	熊本大学	田上 萌	熊本大学
44	大分県	清松 美来	関西学院大学	首藤 胡春	関西学院大学
45	宮崎県	鈴木 身祐希	株式会社エスエヌシー	深江 夏鈴	鹿屋体育大学
46	鹿児島県				
47	沖縄県				

## 成年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	阿部 佳苗	北海道苫小牧東高等学校(教)
2	青森県		
3	岩手県	船越 七海	宮古市役所
4	宮城県	橋本 小百合	トヨタ自動車東日本株式会社
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県	高橋 香	福島県立小名浜海星高等学校(教)
8	茨城県		
9	栃木県		
10	群馬県	青木 祥子	群馬県庁
11	埼玉県		
12	千葉県	千葉 友唯奈	東京外国語大学
13	東京都	富部 柚三子	東京都サーリング連盟
14	神奈川県		
15	山梨県	渡辺 房子	日富士株式会社
16	新潟県	宮島 千晶	信越化学工業(株)
17	長野県		
18	富山県	中川 結	日本大学
19	石川県	松下 友美	株式会社メディアコンサルティング
20	福井県	藤井 あゆ美	福井県サーリング連盟
21	静岡県	三浦 凧砂	(株)静岡銀行
22	愛知県	柿元 麻衣	株式会社豊田自動織機
23	三重県	河原 由佳	共栄火災海上保険株式会社
24	岐阜県	浅野 紗良	明海大学
25	滋賀県	須田 英実子	神戸大学法科大学院
26	京都府	鈴木 萌風	株式会社 ウェルファムフーズ
27	大阪府	丸田 杏	株式会社モンベル
28	兵庫県	抜井 理紗	京都大学大学院
29	奈良県	播島 忍	フリーランス
30	和歌山県	赤松 里彩	和歌山県立医科大学附属病院
31	鳥取県		
32	島根県	池田 望	味皆美ふじな亭
33	岡山県	入江 美帆	和気町立和気にごっこ園
34	広島県	濱田 華帆	福山市役所
35	山口県		
36	香川県	石田 穂乃香	直島町役場
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県	小林 胡由希	(株)高知電子計算センター
40	福岡県	占部 心美	同志社大学
41	佐賀県	黒田 美海	鹿屋体育大学
42	長崎県		
43	熊本県		
44	大分県	秋吉 安恵	株式会社バイオ病理研究所
45	宮崎県	請関 紗弥	社会福祉法人 宮崎県社会福祉事業団
46	鹿児島県	坂元 一姫	日本経済大学
47	沖縄県	三部 碧	一般財団法人 沖縄県環境科学センター

## 成年女子 国スポウインドサーフィン級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道		
2	青森県		
3	岩手県		
4	宮城県		
5	秋田県		
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県	石井 明香里	日清食品株式会社
9	栃木県	小嶺 恵美	(公財)栃木県スポーツ協会
10	群馬県		
11	埼玉県	錬石 恵子	富士フィルム(株)
12	千葉県	一条 雪乃	早稲田大学
13	東京都	泉 結衣	早稲田大学
14	神奈川県	堀川 智江	セントラルスポーツ株式会社
15	山梨県		
16	新潟県		
17	長野県	酒井 七海	セキハイ信越(株)
18	富山県		
19	石川県		
20	福井県		
21	静岡県		
22	愛知県	森島 多希乃	株式会社アイシン
23	三重県		
24	岐阜県		
25	滋賀県	伊勢田 愛	公益財団法人滋賀県スポーツ協会
26	京都府	谷山 叶佳	同志社大学
27	大阪府	松浦 花咲実	HIKARI Performance Fitness Gym
28	兵庫県	石井 陽菜	関西学院大学
29	奈良県		
30	和歌山県	里村 香奈	日本放送協会 和歌山放送局
31	鳥取県		
32	島根県		
33	岡山県		
34	広島県		
35	山口県	林 つぐみ	明治大学
36	香川県	高木 未散	シーガル
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	福本 奈緒	京都大学
41	佐賀県	倉持 優帆	Team SAGA SPORT PYRAMID
42	長崎県	家永 葵	長崎大学
43	熊本県	川端 貴美可	宇城市立河江小学校(教)
44	大分県	田中 柚子	大分大学
45	宮崎県	新嶋 莉奈	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
46	鹿児島県	辻 佳那子	鹿児島大学
47	沖縄県		

## 少年男子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道	阿部 煌生	北海道小樽水産高等学校	佐原 絆里	北海道小樽水産高等学校
2	青森県	木村 和輝	青森県立青森工業高等学校	柴田 正啓	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	三浦 迅	岩手県立宮古高等学校	島香 颯太	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	長谷川 慶而	仙台第二高等学校	佐藤 智威	仙台第二高等学校
5	秋田県				
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	池田 航介	霞ヶ浦高等学校	本多 剛	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	中島 州優	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校	森 晴貴	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校
13	東京都	大場 大生	東京都立大島海洋国際高等学校	茂木 蔵之助	東京都立大島海洋国際高等学校
14	神奈川県	前田 海悟	逗子開成高等学校	廣瀬 一慧	逗子開成高等学校
15	山梨県	高村 拓豊	山梨県立富士北稜高等学校	萱沼 仁	山梨県立吉田高等学校
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	長澤 駈	新湊高等学校	尚和 憲吾	新湊高等学校
19	石川県	岩城 渚人	石川県立羽咋工業高等学校	中橋 直之	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	陶山 悠人	福井県立三国高等学校	浅田 陽翔	福井県立三国高等学校
21	静岡県	相馬 桜碧	静岡県立熱海高等学校	高梨 匠海	伊豆の国市立韭山中学校
22	愛知県	永井 達規	愛知県立半田高等学校	小林 優翔	愛知県立半田高等学校
23	三重県	岡田 海洋	三重県立津工業高等学校	渡邊 陽斗	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	丹羽 風絢	岐阜県立海津明誠高等学校	工藤 寛也	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	中塚 貴博	滋賀県立膳所高等学校	須田 博也	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	山口 斉祥	京都府立海洋高等学校	上田 真斗	京都府立海洋高等学校
27	大阪府	木ノ本 龍夢	和泉市立南池田中学校	窪田 龍平	浪速高等学校
28	兵庫県	藤田 蒼士	清風高等学校	堀野 瑠海	清風高等学校
29	奈良県				
30	和歌山県	蔭山 陵	和歌山県立和歌山工業高等学校	淡路 浩士	和歌山県立和歌山工業高等学校
31	鳥取県	山本 汐穂	鳥取県立境高等学校	安田 悠汰	鳥取県立境高等学校
32	島根県	佐久間 千地	島根県立隠岐水産高等学校	池田 悠晟	島根県立隠岐水産高等学校
33	岡山県	松枝 市悟	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	伊藤 大輝	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	内園 陽空	広島県立広島国泰寺高等学校	塩澤 賢登	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	財間 海大	山口県立光高等学校	吉積 洸汰	山口県立光高等学校
36	香川県	川北 智大	県立高松商業高等学校	寺井 穂	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県	原 健悟	愛媛県立新居浜東高等学校	田阪 一護	愛媛県立新居浜東高等学校
39	高知県				
40	福岡県	宮前 佳月	福岡第一高等学校	倉元 優羽	福岡第一高等学校
41	佐賀県	大坪 築	佐賀県立唐津西高等学校	米倉 烈	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	塩田 到	長崎総合科学大学付属高等学校	林 莉央	長崎総合科学大学付属高等学校
43	熊本県				
44	大分県	河野 壘	大分県立別府翔青高校	一万田 和虎	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県	吉岡 喜琉	県立宮崎海洋高等学校	井上 勇翔	県立宮崎海洋高等学校
46	鹿児島県	西郷 永進	鹿児島県立錦江湾高等学校	白川 那津芽	鹿児島県立錦江湾高校
47	沖縄県	石田 凜和人	知念高等学校	榛葉 ブラグドン 怜	クバサキ高校

## 少年男子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	中西 逞	北海道小樽水産高等学校
2	青森県	棟方 友悳	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県		
4	宮城県	平塚 翔壘	仙台第一高等学校
5	秋田県	阿部 航大	秋田県立本荘高等学校
6	山形県	中嶋 寿帆	山形県立加茂水産高等学校
7	福島県		
8	茨城県	尾崎 友太	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県		
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	宮田 權澄	千葉市立稲毛高等学校・千葉市立稲毛国際中等教育学校
13	東京都	岩波 将吾	ドルトン東京学園高等学校
14	神奈川県	加原 弦季	関東学院六浦高等学校
15	山梨県	高村 隼	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県	渡辺 唱太	新潟県立新潟南高等学校
17	長野県	水藤 大志	白馬高等学校
18	富山県	増原 瑞希	新湊高等学校
19	石川県	岡島 楓季	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	長谷川 煌	福井県立三国高等学校
21	静岡県	村木 風斗	熱海市立多賀中学校
22	愛知県	鈴木 悠正	愛知県立半田高等学校
23	三重県	田仲 竜翼	三重県立津工業高等学校
24	岐阜県	河合 颯大	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	池本 陽翔	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	田中 翔真	京都府立海洋高等学校
27	大阪府	岡本 莉津斗	大阪立命館高等学校
28	兵庫県	中澤 太郎	清風高等学校
29	奈良県	山中 琢雅	奈良県立法隆寺国際高等学校
30	和歌山県	安井 迅悟	和歌山県立星林高等学校
31	鳥取県	井上 航汰	国立米子工業高等専門学校
32	島根県		
33	岡山県	岡野 凜音	岡山県立倉敷鷺羽高等学校
34	広島県	豊澄 隆成	広島なぎさ高等学校
35	山口県	近藤 健央	山口県立光高等学校
36	香川県	山本 權湊	県立高松商業高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県	尾崎 剛輝	新田青雲中等教育学校
39	高知県	木下 陽仁	高知県立岡豊高等学校
40	福岡県	久松 志摩	福岡第一高等学校
41	佐賀県	江藤 直柔	佐賀県立唐津東高等学校
42	長崎県	松原 空雅	長崎県立長崎北陽台高等学校
43	熊本県	今野 陽太	熊本県立宇土高等学校
44	大分県	齊脇 侑祐	大分市立明野中学校
45	宮崎県	倉永 瞭	県立日南振徳高等学校
46	鹿児島県	松浦 颯良	鹿児島県立鹿屋高等学校
47	沖縄県	真玉橋 福之助	沖縄水産高等学校

## 少年女子 420級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属	氏名	所属
1	北海道				
2	青森県				
3	岩手県	伊藤 彩真	岩手県立宮古高等学校	橋本 なな	岩手県立宮古高等学校
4	宮城県	伊勢 あかり	石巻高等学校	遠藤 日向子	石巻高等学校
5	秋田県	神谷 怜	秋田県立本荘高等学校	前川 愛心	秋田県立本荘高等学校
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県	鈴木 しおん	霞ヶ浦高等学校	實松 莉歩	霞ヶ浦高等学校
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県	溝口 杏	千葉県立磯辺高等学校	市来 桜琴	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	岩波 萌夏	ID学園高等学校	小林 和奏	自由ヶ丘学園高等学校
14	神奈川県				
15	山梨県	天野 璃音	山梨県立富士北稜高等学校	渡辺 梨音	山梨県立富士北稜高等学校
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県	片村 美月	新湊高等学校	嶋倉 雅	新湊高等学校
19	石川県	今村 美優	石川県立羽咋工業高等学校	中嶋 さと	石川県立羽咋工業高等学校
20	福井県	寺原 万央	福井県立三国高等学校	土岡 千紘	福井県立三国高等学校
21	静岡県				
22	愛知県	鈴木 仁菜	愛知県立碧南高等学校	三浦 想来	愛知県立碧南高等学校
23	三重県	福島 笑莉	三重県立津工業高等学校	福島 奈羅	津市立久居西中学校
24	岐阜県	朝倉 史華	岐阜県立海津明誠高等学校	伊藤 里莉	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	澤端 唯	滋賀県立膳所高等学校	塚田 乃愛	滋賀県立膳所高等学校
26	京都府	千賀 七海	京都府立宮津天橋高等学校	小谷 悠月	京都府立宮津天橋高等学校
27	大阪府	岩崎 美咲	大阪学芸高等学校	宮田 英茉	関西学院千里国際高等部
28	兵庫県	若松 侑利	兵庫県立芦屋高等学校	野々村 咲希	兵庫県立芦屋高等学校
29	奈良県				
30	和歌山県	村田 楓	和歌山県立星林高等学校	木下 琴穂	和歌山県立向陽高等学校
31	鳥取県	森山 伊織	鳥取県立境高等学校	林 深姫	鳥取県立境高等学校
32	島根県				
33	岡山県				
34	広島県	登田 未央	呉工業高等専門学校	田邊 未結	広島県立広島国泰寺高等学校
35	山口県	棟近 日菜	山口県立光高等学校	菅光 うるは	山口県立光高等学校
36	香川県	武田 晴	県立高松商業高等学校	橋本 心祐	県立高松商業高等学校
37	徳島県				
38	愛媛県				
39	高知県				
40	福岡県	才畑 志歩	西南学院高等学校	三牧 瑞生	西南学院高等学校
41	佐賀県	宮口 柚美	佐賀県立唐津西高等学校	今泉 心響	佐賀県立唐津西高等学校
42	長崎県	亀田 愛美	長崎県立長崎工業高等学校	高比良 弥桜	長崎県立長崎工業高等学校
43	熊本県				
44	大分県	藤原 花香	大分県立別府翔青高校	山本 紅丹	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県				
46	鹿児島県				
47	沖縄県	平良 海咲	知念高等学校	野原 愛美	知念高等学校

## 少年女子 ILCA6級 出場選手一覧表

県番	都道府県	氏名	所属
1	北海道	平尾 美紗樹	北海道苫小牧総合経済高等学校
2	青森県	宮川 紫麻	青森県立青森工業高等学校
3	岩手県	齊藤 里依紗	盛岡市立土淵中学校
4	宮城県	齋藤 桃亜	石巻高等学校
5	秋田県	櫻庭 和子	秋田県立本荘高等学校
6	山形県		
7	福島県		
8	茨城県		
9	栃木県		
10	群馬県		
11	埼玉県		
12	千葉県	大川 美空	千葉県立磯辺高等学校
13	東京都	守屋 咲慧	富士見丘中学高等学校
14	神奈川県	飯島 来海	関東学院六浦中学校
15	山梨県	天野 瑛捺	山梨県立吉田高等学校
16	新潟県	関口 結心	新潟県立新潟高等学校
17	長野県	竹沢 幸来	伊那弥生ヶ丘高等学校
18	富山県	西尾 空子	新湊高等学校
19	石川県		
20	福井県	森川 蓮菜	福井県立三国高等学校
21	静岡県	金田 季紗	東海大学付属静岡翔洋高等学校
22	愛知県	樺山 和花奈	愛知県立碧南高等学校
23	三重県		
24	岐阜県	中嶋 柚月	岐阜県立海津明誠高等学校
25	滋賀県	荒井 風花	四天王寺高等学校
26	京都府		
27	大阪府	木下 明砂	関西学院千里国際高等部
28	兵庫県	ダウスト 絵麻	兵庫県立西脇高等学校
29	奈良県		
30	和歌山県	矢野 菜菜	和歌山県立星林高等学校
31	鳥取県	船澤 奈菜	鳥取県立米子東高等学校
32	島根県	矢口 由梨	島根県立隠岐水産高等学校
33	岡山県		
34	広島県	豊澄 麻希	広島なぎさ高等学校
35	山口県	五十部 葵	山口県立光高等学校
36	香川県	金倉 莉菜	県立高松商業高等学校
37	徳島県		
38	愛媛県		
39	高知県		
40	福岡県	埜田 真由香	西南学院高等学校
41	佐賀県	ハムリン たりあ	California Pacific Charter High School
42	長崎県		
43	熊本県		
44	大分県	森田 莉央	大分県立別府翔青高校
45	宮崎県	荒木 颯月	県立日南振徳高等学校
46	鹿児島県	四角 彩花	鹿児島県立錦江湾高校
47	沖縄県	小林 夢奈	知念高等学校

過去の成績（種目別成績）

回数	開催地・開催年	全日本選手権	府県対抗	日本選手権	1000m帆船	学生選手権	水域対抗	
1回	滋賀県 琵琶湖 柳ヶ崎沖 1946年	堀江喜三 塩田克巳 岩田幸彰・吉村憲治			京滋代表 阪神代表 関東代表	東京帝大 関西学院 大阪商大		
2回	石川県 七尾市 和倉湾 1947年	高岡治夫 養田隆一 吉村憲治			府県対抗 大 阪 京 都 和歌山	学生対抗 関 西 関 東 中 部	関 西 関 東 中 部	
3回	福岡県 志賀島 1948年	府県対抗1200m 和歌山 賀城 滋 宮	実業団1200m 九州ヨット 不二兄弟ヨット 横浜ヨット	兵 庫 神 奈 川 京 東 京	中 部 関 西 関 東	全日本選手権1200m 大 阪 伏 岡 高 村 上	関 東 東 西 関 九 州	関 東 関 西 北 部
4回	神奈川県 横浜市 本牧沖ヨットハーバー 1949年	京 都 山 口 滋 賀	大 阪 大 岩 宮 城	神 奈 川 京 東 京	1200m 関 東 関 西 関 九 州	公開帆船1800m 横浜SC 淡 青C 法 政C	学連水域対抗 関 西 関 東 中 部	関 西 関 東 中 部
5回	愛知県 半田市 1950年	一般A-1200m 京 都 大 阪 滋 賀		一般対抗 福 岡 大 阪 京 東 京	実業団対抗 兵 庫 京 東 京 神 奈 川	高校A-1200m 神 奈 川 北 海 道 東 京		
6回	広島県 宮島町 1951年	一般男子A 京 都 大 阪 兵 庫		一般男子対抗 兵 庫 京 東 京	愛 知 京 東 京 大 阪	高校A 東 京 愛 知 北 海 道		
7回	宮城県 塩竈市 松島湾 1952年	千 葉 大 愛 大 愛	実業団A 京 都 宮 城 大 阪	滋 賀 京 東 京	京 東 京 愛 知 神 奈 川	一 般 女 子 A 広 島 愛 知 宮 城	高 校 対 抗 広 島 北 海 道 滋 賀	京 城 大 東 京 宮 城
8回	香川県 高松市 大の場ヨットハーバー 1953年	一般男子1200m 大 阪 大 兵 千	実業団1200m 京 都 宮 城 和歌山	広 島 京 東 京	福 岡 京 東 京	一般女子1200m 香 川 京 東 京 宮 城	高 校 1200m 兵 庫 大 阪	広 島 京 東 京 滋 賀
9回	北海道 小樽市 祝津ヨットハーバー 1954年	神 奈 川 滋 賀 大 阪	大 阪 神 奈 川 千 葉	滋 賀 京 東 京	大 阪 大 京 東 京 神 奈 川	神 奈 川 愛 知 福 岡	神 奈 川 北 海 道 兵 庫	京 東 京 兵 庫 香 川
10回	神奈川県 葉山ヨットハーバー 1955年	東 京 大 阪 滋 賀	東 京 京 東 京 滋 賀	大 阪 大 京 東 京 兵 庫	東 京 大 阪 山 口	神 奈 川 広 島 滋 賀	香 川 京 東 京 神 奈 川	滋 賀 福 大 京 東 京
11回	兵庫県 西宮湾 1956年	神 奈 川 大 阪 滋 賀		滋 賀 京 東 京 神 奈 川	東 京 香 川 兵 庫	滋 賀 神 奈 川 広 島	東 京 愛 知 滋 賀	東 京 愛 知 滋 賀
12回	静岡県 伊東市 伊東湾 1957年	東 京 福 岡 京 東 京		京 東 京 京 東 京 大 阪・埼玉	大 阪 滋 賀 鹿 児 島	神 奈 川 兵 庫 滋 賀	東 京 京 東 京 神 奈 川	神 奈 川 京 東 京 滋 賀・宮城
13回	滋賀県 大津ヨットハーバー 1958年	一般男子A-1200m 京 都 神 奈 川 埼 玉		兵 庫 千 葉 埼 玉	実業団対抗 東 京 神 奈 川 京 東 京	一般女子A-1200m 神 奈 川 兵 庫 広 島	高 校 A 神 奈 川 香 川 滋 賀	兵 庫 香 川 福 岡
14回	神奈川県 横浜市ヨットハーバー 1959年	京 都 香 川 神 奈 川		大 阪 玉 神 奈 川	福 岡 神 奈 川 京 東 京	静 岡 兵 庫 東 京	東 京 神 奈 川 静 岡	滋 賀 神 奈 川 香 川
15回	鹿児島県 鳴池ヨットハーバー 1960年	香 川 滋 賀 神 奈 川		神 奈 川 福 岡 京 東 京	神 奈 川 香 川 静 岡	千 葉 玉 媛 愛 媛	福 岡 香 川 滋 賀	兵 庫 宮 城 滋 賀
16回	宮城県 塩竈市 七ヶ浜町 吉田浜ヨットハーバー 1961年	一般男子700m 東 京 静 岡 福 岡		滋 賀 神 奈 川 兵 庫	実業団対抗 千 葉 香 川 愛 知	千 葉 宮 城 埼 玉	高 校 1200m 神 奈 川 福 岡 東 京	福 岡 兵 庫 宮 城
17回	岡山県 玉野市 炭川ヨットハーバー 1962年	一般男子A700m 兵 庫 東 京	一般男子B700m 静 岡 香 川 京 東 京		一般男子B対抗 愛 知 長 崎 千 葉	一般女子対抗 岡 山 広 島 京 東 京	高 校 700m 岡 山 香 川 神 奈 川	神 奈 川 岡 山 千 葉
18回	山口県 光市 室積ヨットハーバー 1963年	香 川 兵 庫 愛 媛	兵 庫 福 岡 山 口		兵 庫 新 潟 岡 山	長 崎 山 口 東 京	香 川 山 口 千 葉	山 口 千 葉 愛 媛
19回	新潟県 両津市ヨットハーバー 1964年	福 岡 山 口 東 京	京 東 京 大 千 葉		愛 知 新 潟 兵 庫	静 岡 東 京 岡 山	山 口 千 葉 静 岡	千 葉 香 川 静 岡
20回	愛知県 蒲郡ヨットハーバー 1965年	岡 山 兵 庫 福 岡	愛 知 大 千 葉		新 潟 岩 手 福 岡	長 崎 福 香 川	宮 城 山 口 神 奈 川	山 口 愛 知 神 奈 川

回数	開催地・開催年	一般男子A対	一般男子B対	一般男子対	一般男子B対	一般女子対	高校対	高校対
21回	大分県 別府北浜ヨットハーバル - 1966年	大分 山口 島	大分 知 岡		愛知 岐阜 山	愛知 岐阜 山	大分 知 岡	大分 知 岡
22回	茨城県 土浦ヨットハーバル - 1967年	茨城 大 岡	東京 大 島		山梨 三 重	茨城 知 岡	茨城 大 岡	茨城 大 岡
23回	福井県 三国ヨットハーバル - 1968年	東京 神奈川 大	大分 三 重	山梨 香 和		神奈川 大 山	山梨 大 山	香川 神奈川 岐阜
24回	長崎県 長崎市 福田ヨット競技場 1969年	大分 岐 愛	大分 岐 愛	滋賀 東 山		岡山 長 崎	山梨 長 崎	福岡 岐 愛
25回	岩手県 宮古市 宮古湾ヨット競技場 1970年	神奈川 京 大	東京 岐 山	京都 山 福		大分 岐 愛	愛知 岐 愛	京都 岐 愛
26回	和歌山県 和歌山市 和歌浦湾 1971年	大分 岐 愛	大阪 岐 愛	愛知 岐 愛		静岡 岐 愛	新 岐 愛	福岡 岐 愛
27回	鹿児島県 鹿児島市 平川ヨット競技場 1972年	大分 神奈川 鹿児島	神奈川 鹿児島 山	大分 岐 愛		大分 岐 愛	鹿児島 岐 愛	香川 岐 愛
28回	千葉県 館山市 館山ヨット競技場 1973年	愛知 神奈川 埼	神奈川 大 千	千葉 岐 山		京都 岐 山	大分 岐 愛	千葉 岐 山
29回	茨城県 土浦ヨットハーバル - 1974年	福岡 三 重	三重 岐 愛	島根 岐 愛		兵庫 岐 愛	山梨 岐 愛	青森 岐 愛
30回	三重県津市 伊勢湾海洋 杯 - ヨットハーバル - 1975年	成男A対	成男B対	成男対		成女対	少男対	少女対
		山梨 岐 愛	三重 岐 愛	三重 岐 愛		兵庫 岐 愛	三重 岐 愛	三重 岐 愛
31回	佐賀県 唐津市 唐津ヨットハーバル - 1976年	成男A-470 滋賀 山 長	成男B-470 三 岐 愛	山梨 岐 愛		佐賀 岐 愛	青森 岐 愛	滋賀 岐 愛
32回	青森県 青森市 浅虫ヨットハーバル - 1977年	香川 岐 愛	東京 岐 愛	千葉 岐 愛		佐賀 岐 愛	香川 岐 愛	佐賀 岐 愛
33回	長野県諏訪市 諏訪湖ヨットハーバル - 1978年	神奈川 岐 愛	福岡 岐 愛	宮崎 岐 愛		佐賀 岐 愛	岐 岐 愛	青森 岐 愛
34回	宮崎県日南市 日南海岸 ヨット競技場 1979年	佐賀 岐 愛	静岡 岐 愛	岩手 岐 愛		佐賀 岐 愛	和歌山 岐 愛	佐賀 岐 愛
35回	千葉県 千葉市 稲毛ヨット競技場 1980年	島根 岐 愛	静岡 岐 愛	神奈川 岐 愛		佐賀 岐 愛	佐賀 岐 愛	千葉 岐 愛
36回	滋賀県 大津市 際川ヨットハーバル - 1981年	島根 岐 愛	神奈川 岐 愛	長崎 岐 愛		宮崎 岐 愛	京都 岐 愛	岐 岐 愛
37回	島根県 隠岐市 西郷ヨット競技場 1982年	島根 岐 愛	静岡 岐 愛	茨城 岐 愛		岐 岐 愛	山梨 岐 愛	佐賀 岐 愛
38回	東京都江東区 東京15号地 海浜公園用地 1983年	成男A-470		神奈川 岐 愛	少男FJ 滋賀 岐 愛	千葉 岐 愛	千葉 岐 愛	少女FJ
		静岡 岐 愛		滋賀 岐 愛				鳥取 岐 愛
39回	兵庫県芦屋市 兵庫県立 海洋体育館 1984年	佐賀 岐 愛		京都 岐 愛		佐賀 岐 愛	青森 岐 愛	岩手 岐 愛
40回	鳥取県 境港市 境港公共ヨット 1985年	滋賀 岐 愛		茨城 岐 愛		鳥取 岐 愛	千葉 岐 愛	鳥取 岐 愛

回数	開催地・開催年	成男470	成男ナｲﾌﾞ	少男ナｲﾌﾞ	少男FJ	成女ナｲﾌﾞ	成女ナｲﾌﾞ	成女ナｲﾌﾞ	少女FJ		
41回	山梨県 山中湖村 山中湖村ヨットハーブ - 1986年	宮崎 和歌山 三重	神奈川 三重 兵庫	岐阜 静岡 山梨	千葉 神奈川 佐賀	岐阜 佐賀 鳥取			山梨 千沖 梨葉 縄		
42回	沖縄県 宜野湾市 宜野湾港ナｲﾌﾞ - 1987年	佐賀 沖京	京都 山口 滋賀	神奈川 京都 佐賀	山口 茨城 島根	山口 沖京			千葉 愛滋 知賀		
43回	京都府 宮津市 宮津ヨットハーブ - 1988年	滋賀 神奈川 愛媛	京都 千葉 香川・茨城	成男ナｲﾌﾞ 京都 山口 神奈川	少男ナｲﾌﾞ 山口 長兵 崎庫	少男FJ 島根 京都 神奈川	山口 京都		山梨 岩山 梨手 口		
44回	北海道 江差町 江差港ナｲﾌﾞ - 1989年	滋賀 福岡 熊本	静岡 香川 神奈川	山口 福岡 東京	茨城 山口 北海道	千葉 和歌山 鳥取	岐阜 山口 福岡		佐賀 岩手 岐阜 一		
45回	福岡県福岡市 福岡市立ヨットハーブ - シーサイド・もちろみ海浜公園 1990年	京都・佐賀 一 広島	福岡 東京 静岡	福岡 静岡 岡山・山口	福岡 岐阜 長崎	茨城 岩手 鳥取	成女ナｲﾌﾞ 福岡 佐賀 鳥取	成女SR 石川 福岡 佐賀	岐阜 静岡 山梨 形		
46回	石川県 羽咋市 石川県海港ナｲﾌﾞ - 1991年	三重 山梨 滋賀	静岡 大阪 神奈川	静岡 京都 岐阜・石川	茨城 神奈川 石川	福岡 三重 宮城	鳥取 福岡	佐賀 石川 神奈川	石川 福岡 和歌山		
47回	山形県 温海町 山形県鼠ヶ関ナｲﾌﾞ - 1992年	三重 神奈川 山口	長崎 広島 福岡	京都 神奈川 千葉	山形・千葉 一 香川	宮城 山梨 香川	茨城 山口 鳥取	福岡 山口 福岡	香川 山口・千葉 一		
48回	香川県 仁尾町 仁尾ナｲﾌﾞ - 1993年	東海 福岡 熊本	熊本 神奈川	香川 京都	香川・福岡 一 岐阜	茨城 滋賀 山口・宮崎	愛知 香川 岐阜	山口 佐賀 福岡	茨城 岩手 青森		
49回	愛知県 蒲郡市 海陽ヨットハーブ - 1994年	熊本 徳島 三重	熊本 鳥取 滋賀	国体ナｲﾌﾞ 神奈川 福岡 東京	少男SR 佐賀 福岡 茨城	愛知 滋賀 山梨・福岡	滋賀 神奈川 静岡	愛知 岐阜 山口	少女FJ 福岡 愛知 神奈川	少女SR 福岡 神奈川 香川	
50回	福島県 いわき市 いわきナｲﾌﾞ - 1995年	長崎 大徳	広島 香川 千葉・神奈川	神奈川 福岡 新潟	神奈川 佐賀 山口	千葉 山梨 茨城	香川 山口 愛媛	神奈川 岐阜 奈良	千葉 佐賀 山口	福岡 神奈川 福岡	
51回	広島県呉市 阿賀ヨットハーブ地区 ナｲﾌﾞ - 1996年	大阪 大宮 三重	山口 佐賀 神奈川	福岡 鳥取 奈良	佐賀 愛媛 鳥取	佐賀 鳥取 奈良	香川 山口 鳥取	広島 山口・香川 一	岩手 愛媛 鳥取	福岡 山口 神奈川	
52回	大阪府岬町 淡輪ヨットハーブ - 大阪府立若狭少年海洋センター 1997年	山口 徳島 三重	静岡 鳥取 神奈川・北海道	山口 神奈川 千葉	大阪・佐賀 一 福岡	神奈川 大阪 山口	福岡 鳥取 神奈川	福岡 山口 高知	佐賀 千葉 福岡	東京 岐阜 福岡	
53回	神奈川県藤沢市 湘南港ヨットハーブ - 葉山町 葉山港ヨットハーブ - 1998年	徳島 滋賀 神奈川	成男ナｲﾌﾞ 和歌山 愛媛 青森	山口 福岡 徳島	福岡 佐賀 神奈川	少男FJ 佐賀 茨城 岐阜	成女ナｲﾌﾞ 福岡 香川 滋賀	成女SR 福岡 本川 香川	成女ナｲﾌﾞ 熊本 高知 香川	静岡 岐阜 山梨	佐賀 北海道 京都
54回	熊本県 宇土市 宇土ナｲﾌﾞ - 1999年	香川 富山 三重	熊本 山口 山梨	神奈川 山口 愛媛	京都 佐賀 福岡	神奈川・岐阜 一 広島	千葉・香川 一 佐賀・熊本・ 鹿児島	福岡 香川・高知 一	鹿児島 高知 熊本	岐阜 青森・佐賀 一	福岡 京都 鳥取
55回	富山県 新湊市 新湊ナｲﾌﾞ - 2000年	神奈川 富山 静岡・徳島	熊本 鳥取 滋賀	成男ナｲﾌﾞ 宮城 神奈川 富山	神奈川・佐賀 一 福岡	静岡 香川 富山	京都 香川 鹿児島	京都 鳥取 山口	富山 神奈川 鹿児島	福岡 鳥取 佐賀	富山 京都 福岡
56回	宮城県 名取市 関上特設ヨットハーブ - 2001年	山口 宮城 徳島	熊本 和歌山 愛知・広島	山口 宮城・富山 一	東京・佐賀 一 福岡	茨城 佐賀 香川	成女SS 東京 香川 山口	京都 滋賀 東京	鹿児島 宮城・香川 一	静岡 秋田 茨城・山口	広島 山口 福岡
57回	高知県夜須町 夜須特設 セリガ会場 2002年	三重 宮城 静岡	埼玉 愛媛 和歌山	山口 富山 徳島	長崎 佐賀 静岡	静岡 茨城 千葉	高知 和歌山 佐賀	高知 京都 香川	富山 香川 愛媛	福岡 岩手 静岡	鳥取 京都 千葉
58回	静岡県 御前崎町・相良町 御前崎港特設ナｲﾌﾞ - 2003年	福岡 静岡 和歌山	愛知 静岡 福岡	京都 鳥取 愛媛	京都 茨城 静岡	岡山 山口 長崎	岡山 山口 静岡	京都 高知 香川	神奈川 高知 鳥取	静岡 宮城 大分	佐賀 静岡 神奈川
59回	埼玉県北川辺町 渡良瀬貯水池 (谷中湖) 2004年	山口 神奈川 広島	愛媛 和歌山 岡山	山口 新潟 京都	広島 静岡 福岡	山梨 福岡 広島	山口 岡山 滋賀	岡山 山梨 香川	香川 富山 鹿児島	福岡 神奈川 佐賀	岐阜 香川 大分
60回	岡山県 瀬戸内市 岡山県牛窓ヨットハーブ - 2005年	山口 滋賀 静岡	三重 岡山 鹿児島	新潟 山口 愛媛	佐賀 北海道 千葉	佐賀 静岡 香川	佐賀 岡山 宮城	愛知 高知 香川	富山 鹿児島 東京	岩手 香川 岐阜	長崎 佐賀 石川

回数	開催地・開催年	成男470	成男Jリガ	成男Jリガ'	少男SR	少男FJ	成女SS	成女SR	成女Jリガ'	少女FJ	少女SR
61回	兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー 2006年	滋賀 福鹿 鹿島	愛知 鹿島 東京	愛知 山口 新潟	兵庫 鹿島 千葉	福岡 愛知 兵庫	東京 福岡 山口	愛知 岡山 鳥取	香川 山口 富山	静岡 岡部 佐賀	山口 佐賀 福岡
62回	秋田県鹿角市 船川港特設セーリング競技場 2007年	福山 山口 三重	鹿島 京都 愛知	新潟 鹿島 山口	成女SS 山口 秋田 東京	成女SR 岡山 山口 石川	成女Jリガ' 山口 滋賀 沖縄	少男SS 兵庫 鹿島 田城	少男SR 佐賀 京都 滋賀	少女SS 石川 山口 大分	佐賀 滋賀 福岡
63回	大分県別府市 北浜ヨットハーバー 2008年	鹿島 徳島 和歌山	東京 京都 佐賀	愛知 埼玉 神奈川	岡山 山口 福岡	沖縄 石川 静岡	秋田 香川 鹿島	千葉 佐賀 大分	佐賀 京都 鹿島	千葉 大分 山口	佐賀 神奈川 東京
64回	新潟県聖籠町 網代浜特設セーリング競技場 2009年	愛知 三重 山口	愛知 京都 秋田	新潟 鹿島 福岡	岡山 山口 福岡	山口 愛知 東京	新潟 香川 山口	兵庫 鹿島 千葉	佐賀 大分 静岡	大分 千葉 佐賀	佐賀 新潟 大分
65回	千葉県千葉市 稲毛ヨットハーバー 2010年	和歌山 神奈川 千葉	愛知 秋田 東京	新潟 愛知 神奈川	東京 千葉 佐賀	愛知 福井 北海道	岐阜 滋賀 神奈川	福岡 長崎 佐賀	佐賀 長崎 福岡	佐賀 千葉 東京	佐賀 神奈川 静岡
66回	山口県光市 山口県水産交流村 及び光井港特設会場 2011年	岐阜 山口 神奈川	東京 佐賀 和歌山	新潟 岐阜 神奈川	山口 佐賀 長崎	山口 福井 石川	岐阜 山口 新潟	山口 千葉 愛媛	福岡 佐賀 神奈川	神奈川 山口 愛知	佐賀 静岡 山口
67回	愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー 2012年	福鹿 岡山 鹿島 東京	愛知 佐賀 和歌山	岐阜 奈良 新潟	岡山 山口 岐阜	東京 京都 長崎	岐阜 奈良 新潟	佐賀 山口 神奈川	佐賀 静岡 神奈川	鳥取 佐賀 岐阜	佐賀 東京 静岡
68回	東京都江東区 若洲海浜公園 ヨット訓練所 2013年	東京 福岡 愛知	佐賀 京都 和歌山	新潟 大分 東京	和歌山 千葉 大阪	東京 石川 北海道	新潟 滋賀 東京	山口 佐賀 大分	佐賀 静岡 和歌山	佐賀 千葉 東京	兵庫 佐賀 神奈川
69回	長崎県長崎市 長崎カントリー 2014年	佐賀 福岡 和歌山	佐賀 京都 愛知	新潟 福岡 和歌山	和歌山 鳥取 大分	長崎 愛知 石川	東京 新潟 滋賀	山口 和歌山 千葉	和歌山 愛知 神奈川	佐賀 山口 岐阜	神奈川 千葉 東京
		成男470	成男Jリガ	成男Jリガ'	成女SS	成女Fリガ	成女Jリガ'	少男420	少男Jリガ	少女420	少女Jリガ
70回	和歌山県和歌山市 和歌山セーリングセンター 2015年	福鹿 岡山 佐賀	静岡 愛知 三重	新潟 和歌山 山口	和歌山 大分 大阪	和歌山 愛知 福岡	愛知 新潟 滋賀	山口 和歌山 佐賀	山口 和歌山 広島	茨城 和歌山 佐賀	千葉 東京 佐賀
71回	岩手県宮古市 リアハーバー-宮古 2016年	佐賀 兵庫 和歌山	三重 鳥取 神奈川	新潟 神奈川 和歌山	山口 岐阜 佐賀	和歌山 兵庫 山口	愛知 新潟 滋賀	山口 茨城 岩手	山口 神奈川 福岡	茨城 鳥取 千葉	東京 和歌山 佐賀
72回	愛媛県新居浜市 新居浜マリーナ 2017年	和歌山 福岡 佐賀	鳥取 三重 京都	福井 滋賀 愛知	愛媛 東京 長崎	愛知 千葉 三重	愛知 東京 兵庫	茨城 山口 大阪	山口 和歌山 東京	佐賀 山口 岐阜	和歌山 千葉 滋賀
73回	福井県高浜町 若狭和田マリーナ 2018年	佐賀 福岡 和歌山	鳥取 三重 神奈川	新潟 福井 山口	山口 鳥取 佐賀	福井 神奈川 北海道	福井 愛知 東京	神奈川 千葉 山口	山口 東京 広島	香川 茨城 長崎	静岡 千葉 佐賀
74回	茨城県阿見町 阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場 2019年	和歌山 神奈川 山口	山口 神奈川 鳥取	和歌山 神奈川 山口	山口 鳥取 神奈川	三重 福井 神奈川	福岡 岡山 鹿島	香川 三重 神奈川	神奈川 茨城 和歌山	山口 京都 千葉	茨城 千葉 愛媛
75回	鹿児島県鹿児島市 平川ヨットハーバー 2020年	中 止									
76回	三重県津市 津ヨットハーバー 2021年	中 止									
77回	千葉県千葉市 稲毛ヨットハーバー 2022年	神奈川 茨城 佐賀	山口 鳥取 神奈川	山口 京都 栃木	大阪 東京 鹿島	広島 三重 東京	栃木 滋賀 東京	茨城 東京 三重	三重 静岡 茨城	茨城 山口 岐阜	山口 滋賀 神奈川
特別	鹿児島県鹿児島市 平川ヨットハーバー 2023年	神奈川 滋賀 鳥取	山口 鳥取 三重	神奈川 山口 大分	鹿児島 大阪 東京	福岡 鹿島 東京	栃木 滋賀 千葉	東京 香川 茨城	広島 東京 神奈川	茨城 山口 和歌山	広島 山口 神奈川
		成男470	成男ILCA7	成男Jリガ'	成女SS	成女ILCA6	成女Jリガ'	少男420	少男ILCA6	少女420	少女ILCA6
78回	佐賀県唐津市 佐賀県ヨットハーバー 2024年	佐賀 滋賀 神奈川	鳥取 佐賀 山口	山口 佐賀 神奈川	東京 佐賀 鳥取	福岡 静岡 千葉	滋賀 栃木 鹿島	三重 茨城 東京	神奈川 茨城 広島	山口 茨城 福岡	鳥取 神奈川 広島
79回	滋賀県大津市 大津市柳が崎特設セーリング会場 2025年										

## 過去の成績（総合成績）

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
3回	1948年	神奈川	東京	兵庫	—	—	—
4回	1949年	京都	大阪	宮城	—	—	—
5回	1950年	神奈川	東京	福岡	—	—	—
6回	1951年	京都	大阪	神奈川	—	—	—
7回	1952年	京都	大阪	東京	—	—	—
8回	1953年	京都	香川	大阪	—	—	—
9回	1954年	神奈川	大阪・広島	—	神奈川	愛知	福岡
10回	1955年	大阪	神奈川	東京	神奈川	広島	滋賀
11回	1956年	滋賀	東京	神奈川	滋賀	神奈川	広島
12回	1957年	神奈川	滋賀	京都	神奈川	兵庫	滋賀
13回	1958年	神奈川	兵庫	京都	神奈川	兵庫	広島
14回	1959年	神奈川	東京	兵庫	静岡	兵庫	東京
15回	1960年	神奈川	福岡	滋賀	千葉	埼玉	愛知
16回	1961年	千葉	東京	福岡	千葉	宮城	埼玉
17回	1962年	岡山	神奈川	香川	岡山	広島	東京
18回	1963年	山口	兵庫	岡山	長崎	山口	東京
19回	1964年	岡山	千葉	愛知	静岡	東京	岡山
20回	1965年	愛知	山口	新潟	福岡・長崎	—	香川
21回	1966年	愛知	大分	兵庫	愛知	広島	静岡
22回	1967年	茨城	山口	大分	茨城	愛知	広島
23回	1968年	山口	神奈川	大分	神奈川	大分	山口
24回	1969年	山口	大分	岐阜	岡山	長崎	滋賀
25回	1970年	京都	山口	神奈川	広島	大分	福井
26回	1971年	愛知	和歌山	静岡	静岡	京都	福井
27回	1972年	鹿児島	大分	山口	大分	滋賀	山口
28回	1973年	千葉	神奈川	大分	京都	千葉	岐阜
29回	1974年	福岡	鹿児島	茨城	兵庫	大阪	和歌山
30回	1975年	三重	広島	和歌山・佐賀	広島	三重・兵庫	—
31回	1976年	佐賀	青森	山口	佐賀	滋賀	愛知
32回	1977年	佐賀	香川	鹿児島	佐賀	愛知	千葉・山口
33回	1978年	佐賀	長野	岐阜	佐賀	青森	神奈川・岐阜・滋賀
34回	1979年	佐賀	和歌山	宮崎	佐賀	長崎	宮崎
35回	1980年	佐賀	千葉	神奈川	佐賀	千葉	神奈川
36回	1981年	滋賀	京都	岐阜・長崎	岐阜	滋賀	宮崎
37回	1982年	佐賀	島根	静岡	佐賀	岐阜	青森
38回	1983年	佐賀	神奈川	千葉	佐賀	千葉	鳥取
39回	1984年	茨城	滋賀	佐賀	岩手	佐賀	千葉
40回	1985年	鳥取	滋賀	茨城	鳥取	山口	佐賀
41回	1986年	岐阜	神奈川	山梨	山梨	岐阜	鳥取
42回	1987年	山口	京都	佐賀	山口	千葉	沖縄
43回	1988年	京都	山口	千葉	山口	千葉	京都
44回	1989年	佐賀	山口	千葉	岐阜	山口	福岡
45回	1990年	福岡	佐賀	岐阜	福岡	佐賀	石川
46回	1991年	石川	静岡	神奈川	鳥取	石川	佐賀
47回	1992年	千葉	山口	神奈川	山口	茨城	福岡
48回	1993年	香川	福岡	山口	岐阜・香川	—	奈良
49回	1994年	神奈川	愛知	滋賀	神奈川	愛知	滋賀
50回	1995年	神奈川	千葉	山口	山口	神奈川	福岡
51回	1996年	山口	佐賀	愛知	山口	香川	広島
52回	1997年	福岡	山口	神奈川	福岡	岐阜	佐賀
53回	1998年	神奈川	岐阜	佐賀	岐阜	神奈川	香川
54回	1999年	福岡・佐賀・熊本	—	—	熊本	佐賀	福岡
55回	2000年	静岡	神奈川	佐賀	佐賀	鳥取	富山
56回	2001年	山口	東京	佐賀	山口	東京	広島・香川
57回	2002年	静岡	佐賀	富山	京都	高知	福岡
58回	2003年	静岡	福岡	岡山	静岡	佐賀	宮城
59回	2004年	神奈川	山口	福岡	岡山	神奈川	香川
60回	2005年	静岡	岡山	佐賀	岡山	静岡	佐賀

回数	開催年	天皇杯成績表			皇后杯成績表		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
61回	2006年	福岡	兵庫	山口	山口	兵庫	佐賀
62回	2007年	山口	兵庫	秋田	山口	石川	岡山
63回	2008年	千葉	東京	佐賀	千葉・東京	—	岡山
64回	2009年	佐賀	愛知	福岡	大分	佐賀	岡山
65回	2010年	佐賀	千葉	福岡	佐賀	千葉	東京
66回	2011年	山口	神奈川	岐阜	山口	神奈川	岐阜
67回	2012年	佐賀	岐阜	山口	岐阜	佐賀	和歌山
68回	2013年	千葉	佐賀	東京	千葉	東京	佐賀
69回	2014年	和歌山	佐賀	山口	和歌山	佐賀	東京
70回	2015年	和歌山	佐賀	福岡	和歌山	佐賀	大分
71回	2016年	山口	兵庫	佐賀	山口	岡山	茨城
72回	2017年	愛媛	佐賀	和歌山	愛媛	佐賀	東京
73回	2018年	山口	福井	神奈川	福井	山口	香川
74回	2019年	神奈川	山口	和歌山	山口	神奈川	京都
75回	2020年	中止			中止		
76回	2021年	中止			中止		
77回	2022年	茨城	東京	山口	東京	佐賀	山口
特別国体	2023年	山口	茨城	神奈川	山口	茨城	鹿児島
78回	2024年	佐賀	山口	鳥取	鳥取	山口	佐賀
79回	2025年						



- |  |                    |  |            |  |              |
|--|--------------------|--|------------|--|--------------|
|  | 案内所                |  | 耳マーク       |  | カームダウンスペース   |
|  | トイレ                |  | タクシー乗降所    |  | 思いやり駐車場      |
|  | 売店                 |  | 自転車駐輪場     |  | シャトルバス乗降所    |
|  | おふるまい              |  | 多目的トイレ     |  | 喫煙所          |
|  | さんまいブース<br>(PRブース) |  | 休憩所        |  | 関係者用駐車場      |
|  | 一般観覧席              |  | 無料ドリンクコーナー |  | 観覧船          |
|  | 救護所                |  | ゴミ箱        |  | エコバッグワークショップ |
|  | 授乳室・<br>おむつ交換所     |  | AED        |  | フォトスポット      |

**おもてなしエリア**

**びわ湖大津館**

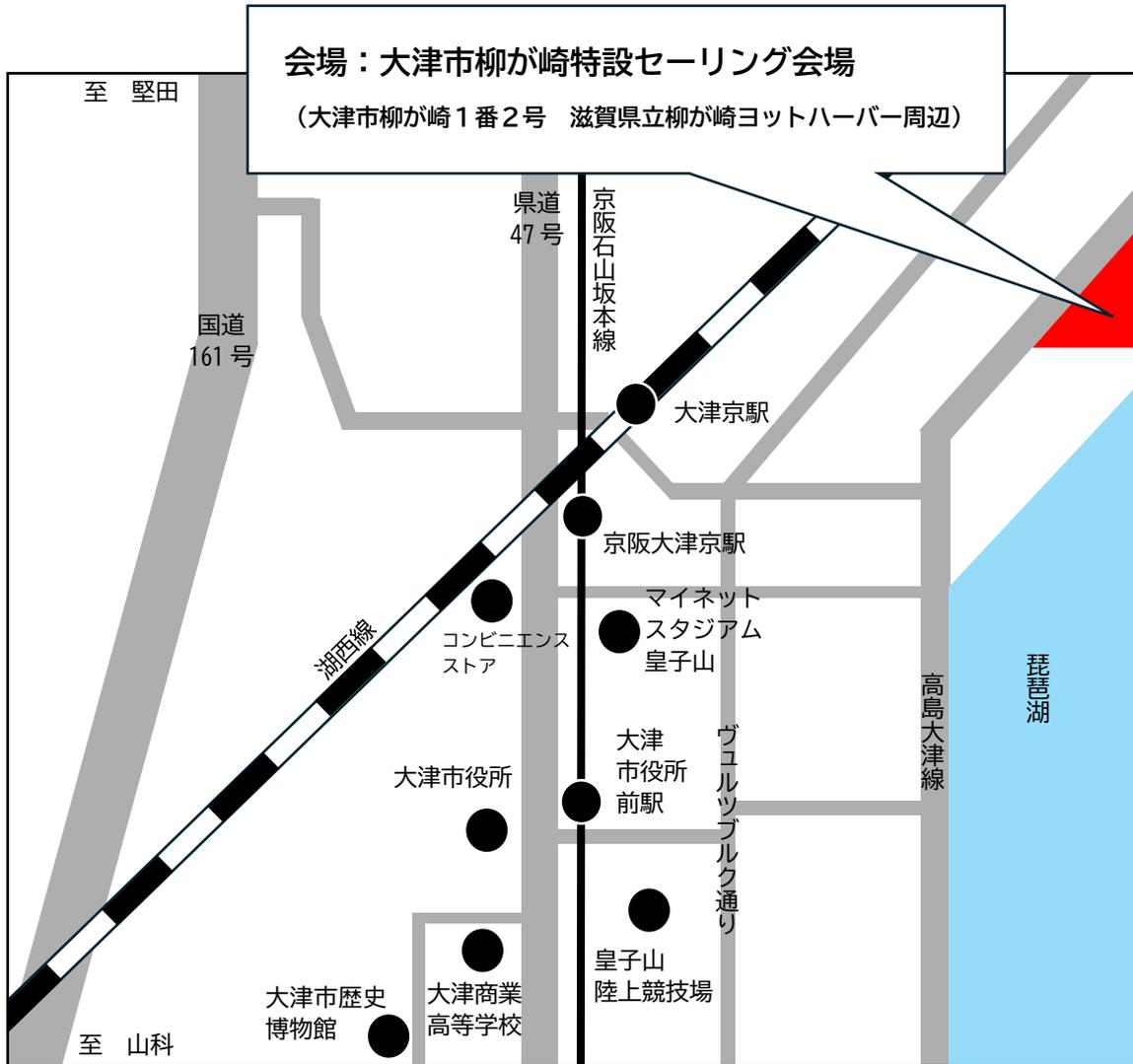
**おもてなしエリア**



琵琶湖

(注) 会場内、会場周辺は禁煙・火気厳禁です

# 競技会場案内図



## ◆会場へのアクセス

### 電車

J R湖西線<大津京駅>から・・・徒歩約15分

京阪電車<京阪大津京駅>から・・・徒歩約15分

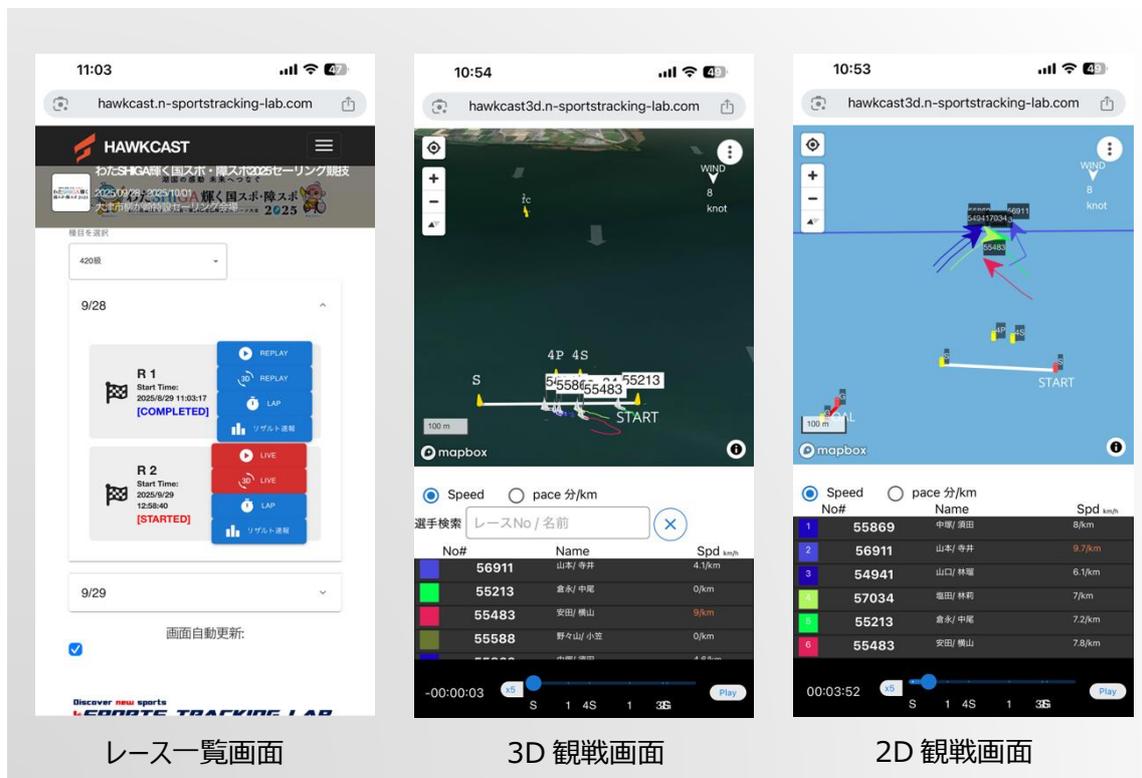
PC でもスマホでも  
ブラウザから観戦可能！



[https://hawkcast.n-sportstracking-lab.com/public\\_events/1792](https://hawkcast.n-sportstracking-lab.com/public_events/1792)

上記 URL または二次元コードからアクセスし、観戦したい「種目」を選択します。  
現在実施中のレースを観戦するには「LIVE」、終了したレースを観るには「REPLAY」ボタンを押します。  
3D ボタンでは、3D Map でのリアルな観戦が可能です！

※リザルトは、GPS データから自動計測した暫定結果のため、誤差がある場合があります。正式な結果は公式リザルトをご参照ください。



湖国の感動 未来へつなぐ

# わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2025



## わたSHIGA輝く国スポ

「第79回国民スポーツ大会 セーリング競技会」LIVE 配信日程

令和7年(2025年)9月28日(日)~10月1日(水)

天候やレースの進行状況により中断・中止する場合があります。

国スポチャンネル

[japangamestv.japan-sports.or.jp](http://japangamestv.japan-sports.or.jp)

※表彰式も国スポチャンネルでご覧いただけます。

動画配信はこちらから



【お問合せ先】

大津市石場10番53号

大津市政策調整部国スポ・障スポ大会局大会競技課

TEL 077-528-0310

わたSHIGA輝く国スポ「第79回国民スポーツ大会  
セーリング競技会」

# チャイルドルームのご案内



場 所：大津市柳が崎特設セーリング会場  
びわ湖大津館2階

実施日：2025年9月26日（金）～10月1日（水）

開設時間：9月26日（金）～9月30日（火）

8：30～16：30

10月1日（水）

8：30～14：00

対象：0歳～6歳程度で参加する選手・大会役員・大会関係者のお子様が**無料**でご利用頂けます。

- 乳幼児の授乳・おむつの取り換えなどの部屋をご用意
- 休憩中の乳幼児の一時的な託児をお手伝い

9月20日までに下記 URL もしくはQRコードより申し込みください

<https://ws.formzu.net/dist/S618102133/>



主催：（公財）日本セーリング連盟 レディース委員会  
協力：わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会  
NPO法人滋賀県セーリング連盟

# 使わなくなったヨットのセールで エコバックを作ってみませんか？

使い古したヨットの帆(セール)も、捨ててしまったらごみになってしまいます。そんな帆をリサイクルし、一緒にエコバックを作ってみませんか？リサイクル・リメイク・リユースでエコなバッグです。テープで止めてつくれるので、だれでも作れる簡単なバッグです。道具はすべて用意してありますので、どうぞお気軽にご参加ください。



■ 日時:9月 28 日(日)、29 日(月)

第1回:午前11時 第2回:午後1時(予定)

■ 場所:国スポセーリング会場 大型テント内

■ 参加費:無料 持ち物:なし

なお、参加人数に限りがあるため、当日は各回先着 20 名様とし、会場にて事前申し込みを受け付けます。

■ 主催:公益財団法人日本セーリング連盟 環境委員会



サポートを  
最大限に引き出す  
アスリートのパフォーマンスを

# アスリートの身体を 障害から守る 禁止薬物から守る

アスリートとスタッフのための

## ヘルスケアセミナー

入退室自由

9/26(金)

午前の部

10:00~

午後の部

14:00~

★午前・午後同じ  
内容で2部構成に  
なっています

### 会場

琵琶湖環境科学  
研究センター  
2階会議室

### 第1部

選手のパフォーマンス向上に  
向けた健康づくりと障害予防

講師：川副陽子医師

関東学連の皆様からのアンケートをもとに、  
学生に多かった障害、熱中症対策、  
女性特有の問題についてお応えします

### 第2部

セーリング競技で覚えておきたい  
アンチドーピングの常識

講師：澤地由介医師

三羽まり子先生

そのサプリは大丈夫？  
知らなかったでは済まされない  
ドーピングについて抑えましょう

# 関係機関連絡先一覧

## ◆わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
大会総務課	大津市石場 10 番 53 号	077-528-2919

## ◆会場

名称	所在地	電話番号
大津市柳が崎特設セーリング会場	滋賀県大津市柳が崎 1 番 2 号ほか	077-527-1141

## ◆警察・消防署等

名称	所在地	電話番号
大津警察署	大津市打出浜 12 番 7 号	077-522-1234
大津市消防局	大津市御陵町 3 番 1 号	077-522-0119
大津市消防局 中消防署	大津市皇子が丘三丁目 2 番 1 号	077-525-0119
大津市保健所	大津市浜大津四丁目 1 番 1 号 明日都浜大津 1 階	077-522-6756

## ◆医療

分類	名称	アクセス方法	二次元コード
近隣医療機関	医療情報ネット (ナビイ)	右記二次元コードまたは、「医療情報ネット (ナビイ)」で検索	

## ◆タクシー事業者 (※)

名称	所在地	電話番号
大津第一交通株式会社	大津市柳が崎 5 番 8 号	0120-524-447 077-524-4000
滋賀ヤサカ自動車株式会社	大津市湖城が丘 6 番 11 号	077-522-6767
琵琶湖タクシー株式会社	大津市におの浜四丁目 6 番 28 号	077-522-6677
有限会社共立タクシー	大津市比叡辻二丁目 4 番 31 号	077-579-2278
有限会社湖西交通	大津市坂本七丁目 33 番 6 号	077-577-1760

※一般社団法人滋賀県タクシー協会会員事業者で、本社所在地が大津市内にある事業者

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会 (滋賀県) へのお問合せ

コールセンター：0120-550-882

開設期間：9月1日(月)～10月31日(金)まで(9:00～18:00)

# セーリング競技会 観覧船観戦ツアー **【無料】**



湖上からレースを観戦  
してみませんか？

## 9/28(日) - 9/29(月)



	9/28(日)	9/29(月)
第1便	9:40~ 10:40	-
第2便	11:30~ 12:30	11:30~ 12:30
第3便	14:00~ 15:00	14:00~ 15:00

※荒天等の理由により運航を中止する場合があります

乗船時間の**30分前**に  
びわ湖大津館前にて**整理券**を配布します (各便先着120名様)

**びわ湖大津館**

**整理券配布場所**

**乗船場所**

湖国の感動 未来へつなぐ  
わたSHIGA 輝く国スポ・障スポ  
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会 **2025**

お問合せ先  
大津市政策調整部国スポ・障スポ大会局大会競技課  
担当：西村・小倉 TEL：077-528-0310

駐車場や競技の情報についてはこちら↑



挑戦者たちは越えようとする。  
記録を。ライバルを。自分自身を。  
過去の常識も。世界の価値観さえも。  
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。  
これまでも、そしてこれからも、  
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。  
スポーツの持つ様々な可能性で、  
望む未来へたどり着くために。



**JSPO**  
Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



Otsuka 大塚製薬



三井住友海上

MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ

時事通信

# NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、  
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

## 『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、  
「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、  
また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。



『スポハラ』根絶に向けた取組み



JSPPO

Japan Sport Association

NO!  
スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど)に、

みんなが『NO!』と言う社会を目指して



©JPSA/X1

ぼうりょくこういとうそうだんまどぐち  
スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



りょうかのう  
どなたでもご利用可能!

きがる そうだん  
お気軽にご相談ください

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・  
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書»



JSPPO事業についてはこちら»»»JSPPO事業概要パンフレット「スポーツと、望む未来へ。」



# 『スポハラ』根絶に向けた取り組み



## グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

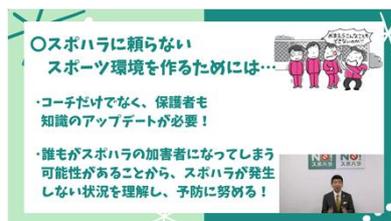


## スポーツ現場におけるハラスメント防止動画・情報発信動画の公開

<スポーツ現場におけるハラスメント防止動画>



<「スポハラ」に関する情報発信動画>



## ハラスメント防止・啓発セミナーの実施

<令和6（2024）年度の様子（計4会場で開催）>



## 「NO！スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



# アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

## 安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。



**勝利を超える価値がある**

**私たちは信じる。**

**正々堂々と競いあう潔さを。**

**相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。**

**まっすぐ挑戦しつづける、そこに、**

**自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。**

**さあ、すべては、私たちの中にある**

**フェアネスの心からはじまる。**

**スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。**



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構



Thank you!



## 協賛企業・団体のご紹介

 日本熱源システム株式会社

 大津市水道瓦斯工事店協同組合

 **げんさん**  
GENSAN BEEF

 **BAMBA SPORTS**

 **びわ湖ブルーエナジー**

 **JALレーク滋賀**

 **日伸工業**

 **日立システムズ**

 **FUJITSU**

 **Cloudnine**  
人が人を救う社会を創造する

 **瀬田商工会**

Pure Natural Mineral Water  
 **いわの甘い水**

 **麦藁**  
京浜元年創業

 **TAKENOUCHI GROUP**

 **Biwako Kisen**

 **月の輪自動車教習所**

 **KOUEI HOME**  
株式会社 高栄ホーム

 **Otsuka**

 **MyMall**  
MM SQUARE

 **株式会社 ZTV**

松田クリーンパック

株式会社大谷設備工業

株式会社竹仁興産

有限会社関西総合商社

私たちは、わたSHIGA輝く国スポ大津市開催競技を応援しています。

# OTSU CITY

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ  
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会 **2025**



国スポ会場で

# 1日たっぷり楽しもう！

国スポは、競技観戦だけじゃない！

大津市の国スポ会場には、“来場して楽しめる”コンテンツをたくさん用意しています。

子どもと一緒に楽しむ！



## 「OTSU DREAM IT CONTENTS」

大津市で開催するすべての競技会場で、子どもたちの思い出に残る企画を実施！！

### 「競技紹介」

はじめてでもわかる！！競技の見どころ解説

[https://otsu-kokuspo2025.jp/kids\\_page](https://otsu-kokuspo2025.jp/kids_page)

きんまいブース（PRブース）

ガイドブックやクーポンを配布！

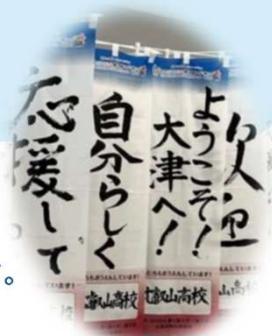
さらにアンケートに答えると、豪華な賞品が当たるかも！？

?

滋賀県内最多 12競技を巡るデジタルスタンプラリーも！

### 手づくりのぼり旗

全国から参加する選手のために、市内の子どもたちが心を込めて製作。メッセージやイラストは必見！



### ふるまいコーナー

大津の銘菓などが無料でもらえる！

ふるまい品のラインナップは要チェック！

※時間・数量限定

### “滋賀らしい取組み”

#### 「給水スポット」

水分補給で、暑さをしのごう！

※マイボトル持参にご協力ください

ほかにも、見どころがたくさん！

- ・売店やキッチンカー
- ・花いっぱい運動 などなど…

※会場ごとで、設置の有無が異なります

### まちの歓迎装飾

市内を走る京阪電車や駅などを彩り、大津を訪れる人たちを歓迎！  
いくつ見つけられる？



大津市観光キャラクター  
おつ光ルくん







# わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 競技会場地マップ

2025年8月現在

**高島市**

- ウエイトリフティング
- ソフトボール
- 銃剣道
- 高等学校野球(軟式)
- 里湖で地域を結ぶウォーキング
- ソフトボール[知]

**長浜市**

- 水泳(オープンウォーター・スイミング)
- バレーボール(ビーチバレーボール)
- ソフトテニス
- 相撲
- 柔道
- ★ゲートボール
- ★ユニカール
- ★フットソフトボール[知]

**彦根市**

- 陸上競技
- ハンドボール
- 弓道
- なぎなた
- ボウリング
- ▲ひこねスーパーカラム
- 陸上競技[身・知]
- ボウリング[知]
- ★SOバドミントン

**米原市**

- ホッケー
- フットサル
- ▲ユニホック

**多賀町**

- ▲モルック

**東近江市**

- サッカー
- ボクシング
- 自転車(ロード・レース)
- 軟式野球
- ソフトボール
- カヌー(スプリント)
- ゴルフ
- ▲ネットでポンпой
- ★グランドソフトボール[身]

**近江八幡市**

- バレーボール(6人制)
- ハンドボール
- 軟式野球
- トライアスロン
- ★綱引
- ▲ウォーキング
- ★バレーボール[身]

**愛荘町**

- アーチェリー
- ★アーチェリー[身]

**野洲市**

- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- バドミントン
- ライフル射撃(25m)
- カヌー(スラローム、ワイルドウォーター)
- 空手道
- ★高等学校野球(硬式)
- ▲小倉百人一首競技かるた
- ▲スポーツ拳法
- ▲スリースマイルゴルフ
- ▲ラジオ体操第3(初代・二代目)
- ★バスケットボール[知]
- ★車いすバスケットボール[身]
- ★スポーツウエルネス吹矢

**草津市**

- 水泳(競泳)
- 水泳(飛込)
- 水泳(水球)
- 水泳(アーティスティック・スイミング)
- バレーボール(6人制)
- バスケットボール
- ソフトボール
- 軟式野球
- ★パウンドテニス
- ★インディアカ
- ▲スポーツウエルネス吹矢
- ▲ノルディック・ウォーク
- 水泳[身・知]
- ★バレーボール[精]

**甲賀市**

- サッカー
- 軟式野球
- ゴルフ
- ★高等学校野球(軟式)
- ★グラウンド・ゴルフ
- ▲カローリング
- ▲ソフトバレーボール
- ★フライングディスク[身・知]
- ★ポッチャ[身]

**栗東市**

- レスリング
- ゴルフ
- ★パワーリフティング
- ▲スポーツチャンバラ
- ▲スローイングピンゴ
- ▲ビリヤード
- ★卓球パレー

**守山市**

- サッカー
- バレーボール(6人制)
- 軟式野球
- ソフトボール
- ★エアロビック
- ▲選暦軟式野球
- ▲ミックスバレーボール
- ★サッカー[知]
- ★ゴールボール

**野洲市**

- バスケットボール
- 卓球
- ラグビーフットボール
- ★武術太極拳
- ▲スポーツ鬼ごっこ
- ▲マリンスポーツフェスティバル
- ★卓球[身・知・精]
- (サウンドテーブルテニス[身含む])

**日野町**

- 軟式野球

**野洲市**

- バスケットボール
- 卓球
- ラグビーフットボール
- ★武術太極拳
- ▲スポーツ鬼ごっこ
- ▲マリンスポーツフェスティバル
- ★卓球[身・知・精]
- (サウンドテーブルテニス[身含む])

**湖南市**

- 剣道
- ▲ウォーキング
- フットボール
- ▲キンボールスポーツレクリエーション
- ★バレーボール[知]

- 国民スポーツ大会**
- 正式競技(37競技)
  - ◆特別競技(1競技)
  - ★公開競技(7競技)
  - ▲デモンストレーションスポーツ(26競技)
- 全国障害者スポーツ大会**
- 正式競技(14競技)
  - ★オープン競技(4競技)
- [身]=身体障害者 [知]=知的障害者 [精]=精神障害者
- ※国スポ競技会の詳細については各競技会場市町にお問合せください。  
※所在地と運営準備市町が異なる場合があります。

**県外開催競技**

<p>京都府 向日市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車(トラック・レース)</li> </ul>	<p>大阪府 豊能郡能勢町</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ライフル射撃(50m、10m、BR・BP)</li> </ul>	<p>兵庫県 三木市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●馬術</li> </ul>
---	--	--

## びわこ国体・びわこ大会から44年ぶりの開催!

国スポ実施期間 令和7年 9月28日(日)~10月8日(水) [11日間開催]  
 国スポ会期前実施競技 令和7年9月6日(土)~9月15日(月)、令和7年9月21日(日)~9月25日(木)  
 障スポ実施期間 令和7年10月25日(土)~10月27日(月) [3日間開催]

**大会PR 動画を公開!**

さらなる高みを目指して、日々努力するアスリートの姿を臨場感あふれる競技者と合わせてご覧ください。

大会公式SNS・HPはコチラから! [滋賀2025](#) [検索](#)

Instagram X 大会HP

FSC ミックス 紙 責任ある森林 管理を実現しています FSC® C017322

VEGETABLE OIL INK

●用紙: 責任ある木質資源と再生資源を使用したFSC® 認証用紙  
●インキ: 植物油・インキを使用

2024年から国民体育大会(国体)は、国民スポーツ大会(国スポ)に名称変更されました。

湖国の感動 未来へつなぐ  
第79回国民スポーツ大会  
わたSHIGA輝く国スポ  
2025

来年は、青森県で第80回国民スポーツ大会が開催だぞい。  
また、青森県むつ市で会えたらうれしいのじゃ。



むつ市 PR キャラクター  
ムッシュ・ムチュラン I 世  
承認第 07005 号



大津市観光キャラクター  
「おおつ光ルくん」

## 競技記録結果

開設期間

2025年9月1日(月)～12月26日(金)

▼PC・スマホ



<https://kirokukensaku.net/5NS25/index.html>



▼フィーチャーフォン(ガラケー)

<http://kirokukensaku.net/5NS25/mob/index.html>

## 国スポチャンネル

国スポ競技の動画配信を行っています。

※競技によって配信スケジュールが異なります。

ホームページ：<https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会SNSはこちらをチェック！

大津市実行委員会HP：<http://otsu-kokuspo2025.jp/>

X



Instagram



Facebook



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市実行委員会事務局

滋賀県大津市石場10番53号 TEL：077-528-2919(大会総務課)